水戸市埋蔵文化財調査報告第 74 集

渡里町遺跡

（第 22 地点）

―　集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　―

２０１６

水戸市教育委員会

水戸市埋蔵文化財調査報告書　第74集

渡里町遺跡（第22地点）

二〇一六

水戸市教育委員会

渡里町遺跡

（第 22 地点）

―　集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　―

２０１６

水戸市教育委員会

ごあいさつ

渡里町遺跡は，那須茶臼岳を水源とする那珂川下流域右岸の台地上に位置しております。この渡里町遺跡の周辺には,古代常陸国那賀郡の寺院･官衙遺跡である国指定史跡「台渡里官衙遺跡群」や，県下有数の規模を誇る前方後円墳である国指定史跡「愛宕山古墳」等が残されており，古くから政治・文化の中心地域であったと考えられます。

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は，工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことはできません。そのため，私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で，埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが，本市においても，その意義や重要性を踏まえ，文化財保護法及び関係法令に基づいた埋蔵文化財の保護・保存に努めているところです。

このたびの調査は，当該遺跡内に共同住宅の建築工事が計画され，遺跡への影響が予想されたため，文化財保護の観点から十分に協議を重ねました。しかしながら，遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り，次善の策として発掘調査を実施し，記録の上での保存措置を講ずることとしたものです。

本調査では，縄文時代から近世にかけての遺構や遺物が数多く確認され，特に，古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡が多数検出されました。これらの住居跡の中には，刀子や円面硯等の遺物を出土したものもあり，古代那賀郡衙が存在した時代における地域社会の様子を解明していく上での貴重な資料を得ることができました。

ここに刊行する本書が，かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と，学術研究等の資料として，広く御活用いただければ幸いです。

終わりに，本調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました関係者の皆様にこころから感謝を申し上げます。

平成 28 年 3 月

水戸市教育委員会
教育長　本　多　　清　峰

目　　次

ごあいさつ　目次　例言　凡例
第１章　調査に至る経緯と経過 1
　第１節　調査に至る経緯 1
　第２節　発掘作業の経過 1
　第３節　整理作業の経過 2
第２章　遺跡の位置と環境 3
　第１節　地理的環境 3
　第２節　歴史的環境 3
　第３節　御茶園遺跡における既往の調査 9
第３章　調査の方法と成果 10
　第１節　調査の方法 10
　第２節　基本層序 10
　第３節　調査の概要 13
　第４節　検出された遺構と遺物 14
　　１　縄文時代 14
　　２　弥生時代 17
　　３　古墳時代から平安時代 18
　　４　中世以降 90
第４章　総括 98
参考文献 102
写真図版
報告書抄録・奥付

挿図目次

第１図　渡里町遺跡の位置..... ３
第２図　渡里町遺跡と周辺遺跡位置..... ４
第３図　渡里町遺跡と周辺の遺跡一覧..... ５
第４図　基本層序図..... 10
第５図　調査区の位置..... 11
第６図　全体遺構分布図..... 12
第７図　第７号土坑..... 14
第８図　第３・10・11 号ピット 15
第９図　縄文時代の遺構外出土遺物..... 16
第 10 図　弥生時代の出土遺物 17
第 11 図　第１号住居跡..... 19
第 12 図　第１号住居跡カマド..... 21
第 13 図　第１号住居跡の出土遺物..... 22
第 14 図　第２号住居跡..... 24
第 15 図　第２号住居跡カマド..... 25
第 16 図　第２号住居跡の出土遺物（１）.... 25
第 17 図　第２号住居跡の出土遺物（２）.... 26
第 18 図　第３号住居跡..... 28
第 19 図　第３号住居跡の出土遺物..... 29
第 20 図　第４号住居跡..... 31
第 21 図　第４号住居跡カマド..... 33
第 22 図　第４号住居跡の出土遺物..... 34
第 23 図　第５号住居跡..... 36
第 24 図　第５号住居跡の出土遺物..... 36
第 25 図　第６号住居跡..... 37
第 26 図　第７号住居跡..... 39
第 27 図　第７号住居跡カマド..... 40
第 28 図　第７号住居跡の出土遺物..... 41
第 29 図　第８号住居跡..... 43
第 30 図　第８号住居跡の出土遺物..... 44
第 31 図　第９号住居跡カマド..... 46
第 32 図　第９号住居跡（１)..... 48
第 33 図　第９号住居跡（２)..... 49
第 34 図　第９号住居跡の出土遺物（１)..... 50
第 35 図　第９号住居跡の出土遺物（２)..... 51
第 36 図　第９号住居跡の出土遺物（３)..... 52
第 37 図　第 10 号住居跡..... 56
第 38 図　第 10 号住居跡の出土遺物（１)... 57
第 39 図　第 10 号住居跡の出土遺物（２)... 58
第 40 図　第 11 号住居跡..... 60
第 41 図　第 11 号住居跡の出土遺物..... 61
第 42 図　第 12 号住居跡..... 63
第 43 図　第 12 号住居跡カマド..... 64
第 44 図　第 12 号住居跡の出土遺物（１)... 64
第 45 図　第 12 号住居跡の出土遺物（２)... 65
第 46 図　第 13 号住居跡..... 68
第 47 図　第 13 号住居跡カマド..... 69
第 48 図　第 13 号住居跡の出土遺物..... 70
第 49 図　第 14 号住居跡..... 72
第 50 図　第 14 号住居跡カマド..... 73
第 51 図　第 14 号住居跡の出土遺物..... 73
第 52 図　第１号掘立柱建物跡..... 75
第 53 図　第１号掘立柱建物跡の出土遺物... 76
第 54 図　第１号掘立柱建物跡..... 80
第 55 図　第２号掘立柱建物跡ピット..... 81
第 56 図　第２号掘立柱建物跡の出土遺物... 83
第 57 図　第１号ピット列..... 84
第 58 図　第４号ピット..... 85
第 59 図　第４号ピットの出土遺物..... 85
第 60 図　第５号ピット..... 86
第 61 図　第 14 号ピット..... 86
第 62 図　第 15 号ピット..... 87
第 63 図
　古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物.. 88
第 64 図　第１号土坑..... 90
第 65 図　第１号溝跡..... 91
第 66 図　第２号土坑..... 92
第 67 図　第３号土坑..... 92
第 68 図　第４号土坑..... 93
第 69 図　第５号土坑..... 93
第 70 図　第６号土坑..... 93
第 71 図　中世以降のピット..... 94
第 72 図　中世以降の遺構外出土遺物..... 95

表目次

第１表　渡里町遺跡と周辺の遺跡一覧.... 5
第２表　縄文時代ピット属性一覧..... 15
第３表　縄文時代出土土器属性一覧..... 16
第４表　縄文時代出土石器属性一覧..... 16
第５表　弥生時代出土土器属性一覧..... 17
第６表　第１号住居跡ピット属性一覧..... 20
第７表　第１号住居跡出土土器属性一覧... 22
第８表　第２号住居跡ピット属性一覧..... 24
第９表　第２号住居跡出土土器属性一覧... 27
第10表　第２号住居跡出土石器属性一覧... 27
第11表　第３号住居跡ピット属性一覧..... 29
第12表　第３号住居跡出土土器属性一覧... 29
第13表　第４号住居跡ピット属性一覧..... 30
第14表
　第４号住居跡出土土器属性一覧（１）..... 34
第15表
　第４号住居跡出土土器属性一覧（２）..... 35
第16表　第４号住居跡出土石器属性一覧... 35
第17表　第５号住居跡ピット属性一覧..... 36
第18表　第５号住居跡出土土器属性一覧... 37
第19表　第７号住居跡ピット属性一覧..... 40
第20表
　第７号住居跡出土土器属性一覧（１）..... 41
第21表
　第７号住居跡出土土器属性一覧（２）..... 42
第22表　第７号住居跡出土瓦属性一覧..... 42
第23表　第８号住居跡ピット属性一覧..... 42
第24表　第８号住居跡出土土器属性一覧... 44
第25表　第９号住居跡ピット属性一覧..... 47
第26表
　第９号住居跡出土土器属性一覧（１）..... 53
第27表
　第９号住居跡出土土器属性一覧（２）..... 54
第28表
　第９号住居跡出土土器属性一覧（２）..... 55
第29表　第９号住居跡出土瓦属性一覧..... 55
第30表　第10号住居跡ピット属性一覧.... 57
第31表
　第10号住居跡出土土器属性一覧..... 58
第32表
　第10号住居跡出土石器属性一覧..... 58
第33表　第11号住居跡ピット属性一覧.... 59
第34表
　第11号住居跡出土土器属性一覧..... 61
第35表　第12号住居跡ピット属性一覧.... 62
第36表　第12号住居跡ピット属性一覧.... 66
第37表
　第12号住居跡出土石器属性一覧（１）.... 53
第38表
　第12号住居跡出土土器属性一覧（２）.... 54
第39表　第13号住居跡ピット属性一覧.... 67
第40表　第13号住居跡出土土器属性一覧.. 70
第41表　第14号住居跡ピット属性一覧.... 72
第42表　第14号住居跡出土土器属性一覧.. 74
第43表
　第１号掘立柱建物跡ピット属性一覧..... 76
第44表
　第１号掘立柱建物跡出土瓦属性一覧..... 76
第45表
　第２号掘立柱建物跡ピット属性一覧（１）. 82
第46表
　第２号掘立柱建物跡ピット属性一覧（２）. 82
第47表
　第２号掘立柱建物跡出土土器属性一覧.... 83
第48表
　第２号掘立柱建物跡出土瓦属性一覧..... 83
第49表　第１号ピット列ピット属性一覧... 85
第50表　第４号ピット出土瓦属性一覧..... 85
第51表
　古墳時代から平安時代出土器属性..... 89
第52表　中世以降のピット属性一覧..... 95
第53表　中世以降出土土器属性一覧..... 95
第54表　中世以降出土銅製品属性一覧..... 95
第55表
　渡里町遺跡第22地点出土遺物計量表（1）. 96
第56表
　渡里町遺跡第22地点出土遺物計量表（2）. 97

写真図版目次

図版１　第１・２区調査区完掘
図版２　第１・２号住居跡完掘，第１・２号住居跡土層断面，第１号住居跡カマド完掘，第１号住居跡カマド土層断面
図版３　第２号住居跡カマド完掘，第２号住居跡カマド土層断面，第３・４号住居跡完掘，第３・４号住居跡土層断面
図版４　第４～６号住居跡土層断面，第４号住居跡カマド完掘，第４号住居跡カマド土層断面，第５～７号住居跡完掘
図版５　第３・７号住居跡遺物出土状況，第７号住居跡カマド完掘，第７号住居跡カマド土層断面，第７号住居跡カマド遺物出土状況，第８号住居跡完掘，第８号住居跡土層断面
図版６　第９号住居跡完掘，第９号住居跡土層断面，第９号住居跡遺物出土状況，第９号住居跡カマド完掘，第９号住居跡カマド土層断面
図版７　第９号住居跡カマド土層断面，第９号住居跡１号土坑完掘，第10・11号住居跡完掘，第10・11号住居跡土層断面
図版８　第12号住居跡完掘，第12号住居跡土層断面，第12号住居跡遺物出土状況，第12号住居跡カマド完掘，第12号住居跡カマド土層断面
図版９　第13・14号住居跡完掘，第13・14号住居跡土層断面，第13号住居跡カマド完掘，第13号住居跡カマド土層断面
図版10　第14号住居跡土層断面，第14号住居跡カマド完掘，第14号住居跡カマド土層断面，第１号掘立柱建物跡完掘，第１号掘立柱建物跡５号ピット完掘，第１号掘立柱建物跡５号ピット土層断面
図版11　第１号掘立柱建物跡６～８号ピット完掘，第１号掘立柱建物跡８号ピット土層断面，第２号掘立柱建物跡完掘，第２号掘立柱建物跡１号ピット完掘，第２号掘立柱建物跡１号ピット土層断面
図版12　第２号掘立柱建物跡２～６号ピット完掘，第２号掘立柱建物跡２～５号ピット土層断面
図版13　第２号掘立柱建物跡７・８・13号ピット完掘，第２号掘立柱建物跡７・８・13号ピット土層断面，第１号ピット列完掘，第１号ピット列１・３号ピット完掘，第１号溝跡完掘
図版14　第１～７号土坑完掘，第３・４・10号ピット完掘，第４・５号土坑土層断面
図版15　第５・14・15号ピット完掘，第14・15号ピット土層断面，１・２区基本土層
図版16　縄文時代遺構外出土遺物１～８，弥生時代遺構外出土遺物１～４，第１号住居跡出土遺物１～４
図版17　第１号住居跡出土遺物５，第２号住居跡出土遺物１～４
図版18　第２号住居跡出土遺物５・６，第３号住居跡出土遺物１・２，第４号住居跡出土遺物１～３
図版19　第４号住居跡出土遺物４～９，第５号住居跡出土遺物１

図版 20　第 7 号住居跡出土遺物 1 ～ 7
図版 21　第 8 号住居跡出土遺物 1 ～ 5，第 9 号住居跡出土遺物 1 ・ 2
図版 22　第 9 号住居跡出土遺物 3 ～ 10
図版 23　第 9 号住居跡出土遺物 11 ～ 17
図版 24　第 9 号住居跡出土遺物 18 ～ 25
図版 25　第 9 号住居跡出土遺物 26 ～ 33
図版 26　第 9 号住居跡出土遺物 34 ～ 37，第 10 号住居跡出土遺物 1 ～ 3
図版 27　第 10 号住居跡出土遺物 4 ～ 11
図版 28　第 10 号住居跡出土遺物 12，第 11 号住居跡出土遺物 1 ～ 4，第 12 号住居跡出土遺物 1 ・ 2
図版 29　第 12 号住居跡出土遺物 3 ～ 8，第 13 号住居跡出土遺物 1 ・ 2
図版 30　第 13 号住居跡出土遺物 3 ～ 6，第 14 号住居跡出土遺物 1 ～ 4
図版 31　第 1 号掘立柱跡出土遺物 1，第 2 号掘立柱跡出土遺物 1 ・ 2，第 4 号ピット出土土遺物 1，古墳時代～奈良時代遺構外出土遺物 1 ～ 3
図版 32　古墳時代～奈良時代遺構外出土遺物 4 ～ 10
図版 33　古墳時代～奈良時代遺構外出土遺物 11・12，中世時代遺構外出土遺物 1・ 2

例　　言

１．本書は，水戸市に所在する渡里町遺跡（第 22 地点）の発掘調査報告書である。

２．調査は水戸市教育委員会の指導のもと，関東文化財振興会株式会社が実施した。

３．調査の概要は下記の通りである。

所在地　茨城県水戸市渡里町字八幡前 2595 －１・－５～－７の各番地地内

調査面積　379.693 ㎡

調査期間　平成 27 年８月 25 日～平成 27 年９月 30 日

調査指導　米川暢敬（水戸市教育委員会事務局 教育部 歴史文文化財課 埋蔵文化財センター 文化財主事）

調査担当　林　邦雄，山下瑛梨香，石松　直（関東文化財振興会株式会社調査研究員）

調査参加者　石川　勉，石崎寿子，市毛友宣，大越慶子，大山晴美，栗原芳子，黒須秀昭，佐々木由二，清水　昊，白土和夫，鈴木潤一，谷川明正 ，平井百合子

４．本書の執筆・編集は，第１章第１節を水戸市教育委員会が，第１章第２節から第４章までを水戸市教育委員会の指導を受けて関東文化財振興会株式会社の林・山下・石松が担当した。

５．遺物の写真撮影は宮田和男（関東文化財振興会株式会社）が行い，遺構・遺物図面のデジタルトレースは對馬むつみ（関東文化財振興会株式会社）が行っている。

６．調査組織は下記のとおりである。

水戸市教育委員会教育長　　本田　清峰

事務局

中里　誠志郎　教育部長

白石　嘉亮　　教育部歴史文化財課長事

飯村　博史　　埋蔵文化財センター所長

米川　暢敬　　埋蔵文化財センター文化財主事

太田　有里乃　埋蔵文化財センター主事

丸山　優香里　埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

昆　　志穂　　埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

下山　はる奈　埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

７．発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不同）。

浅野啓介，青山俊明，荒井秀規，飯島一生，今尾文昭，岡本東三，大塚初重，
川崎純徳，川尻秋生，瓦吹　堅，木本好信，黒澤彰哉，後藤道雄，斎藤弘道，坂井秀弥，
清野孝之，関根唯充，高島英之，馬場　基，日高　慎，山路直充，山中敏史，山本　崇，
山本典幸，横倉要次，渡辺晃宏，茨城県教育庁文化課，
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所，文化庁文化財部記念物課，
古川登記測量事務所，東新建設株式会社

凡　　例

1．本書に記してある座標値は，世界測地系第Ⅸ系を用いている。方位は座標北を示す。また，標高は海抜高である。

2．本文中の色調表現は，『新版標準土色帖』2008 年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。

3．掲載した図面の基本縮尺は，以下の通りである。

遺構図　調査区全体図　1/300

住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・ピット　1/30・1/60・1/80

なお，変則的な縮尺を用いた場合には，スケールによりその縮尺率を表している。

遺物図　原則として1/3を原則とするが，銭貨のみ 1/1 とした。

4．写真図版は，原則として実測図の縮尺に合わせて掲載した。また遺物番号は本文，挿挿図，写真図版と一致する。

5．遺構・遺物実測図中のスクリーントーンおよび記号は，以下に示すとおりである。

■カマド火床面・焼土範囲・繊維土器断面　■カマド構築材・粘土・黒色処理

□カマド範囲・土器煤範囲　▨柱痕範囲　[ ]住居跡・硬化面範囲

●土器　△石器　×鉄製品　□瓦

6．平面図・断面図・遺物観察表・計量表などに用いた略記号は以下を示す。

柵列：ＳＡ　掘立柱建物跡　ＳＢ　溝跡：ＳＤ　住居跡：ＳＩ　土坑：ＳＫ

ピット：ＳＰもしくはＰ　テストピット：ＴＰ　攪乱：Ｋ

7．遺物観察表に付した（）は復元値，＜＞は残存値である。

8．「主軸」はカマドを持つ竪穴住居跡についてはカマドを通る軸線とし，他の遺構については，長軸（長径）とみなした。また，「主軸（長軸）方向」は，その主軸が座標北から見て，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示している。

（例　Ｎ-10°-Ｗ）

9．計量表における「坏類」「甕類」などは，遺物が小片であるため，坏（甕）や高坏（壷），高台付坏（鉢）などと分類が困難であったものを，まとめて計量している。また，器種が判断できた遺物は独立させて項目を作っている。したがって「類」とつくものは別器種が混入している可能性をもつ。

10．本遺跡の略号は 201121 - 22 である。遺物の注記もこれに従っている。

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

平成 27 年５月 26 日付けで，共同住宅建築工事に伴い，事業者から水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて，埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについての照会があった。

今般の事業計画地である水戸市渡里町 2595 － １外は，周知の埋蔵文化財包蔵地「渡里町遺跡」の範囲内に該当している。そのため，事業者から提出のあった事業計画に基づき，平成 27 年６月９日に試掘・確認調査を実施したところ，建築予定建物の直下に設定したトレンチにおいて，溝跡や竪穴住居跡を多数検出し，事業地内における濃密な埋蔵文化財の分布を確認した。今回の事業計画は，共同住宅２棟の建築工事であり，その計画と試掘調査結果を重ね合わせたところ，検出された溝跡や竪穴住居跡等の埋蔵文化財への工事による影響が懸念されたことから，これらの埋蔵文化財に対し，市教委は，埋蔵文化財の保存のあり方について事業者との協議を重ねた。しかしながら，設計変更は困難であり，工事による埋蔵文化財への影響は不可避であるとの判断から，建築予定建物直下における遺構の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は，事業者から提出のあった文化財保護法第 93 条第１項に基づく届出について，建築予定建物２棟の直下における，次善の策としての記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨，また，給排水管及びその他埋設物の埋設工事等に対し，市教委専門職員の工事立会いを実施すべき旨の意見書を付して，茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した。
その後，平成 27 年８月 11 日付けで県教委教育長から事業者に対し，上記部分において工事着手前に発掘調査の実施を要すること，調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する等の旨，指示・勧告があった。
これを受けて事業者は，市教委，関東文化財振興会株式会社と発掘調査実施に係る協定書を締結したうえで，関東文化財振興会株式会社と発掘調査業務委託契約を締結し，当該調査を渡里町遺跡第 22 地点発掘調査として，平成 27 年８月 25 日から発掘調査を実施することとなった。

第２節　発掘作業の経過

発掘調査は，平成 27 年８月 25 日から平成 27 年９月 30 日で実施した。整理作業は，平成 27 年 10 月１日から実施している。調査経過の概略は以下のとおりである。

25 日に調査区西側から表土掘削を開始した。攪乱が各所に大きく掘り込まれているが，確認精査を行った結果，住居跡が５軒，溝跡が１条，土坑・ピットが数基検出された。27 日まで西側の表土掘削を行い，住居跡８軒（後に１軒追加される。），土坑やピットが数基検出されている。東側と同様に攪乱が大きく掘り込まれている。調査区西側から遺構の掘削を始め，９月 29 日に遺構の掘削が終了して，９月 30 日に埋め戻しを完了して発掘調査は終了した。

第３節　整理作業の経過

整理作業は平成 27 年 10 月 1 日より平成 28 年 3 月 20 日までの約 6 ヶ月にわたって実施した。

10・11 月期には遺物の洗浄・注記・接合作業と並行して，遺構の図化作業を，12 月から翌年 2 月期には遺構図面の修正・トレース・遺物の実測・遺物写真の撮影・図版編集・原稿執筆などの作業を行い，3 月期は図版編集・原稿執筆などの作業を行い，1 日より 15 日にかけて報告書編集作業を実施した。

第２章　遺跡の位置と環境

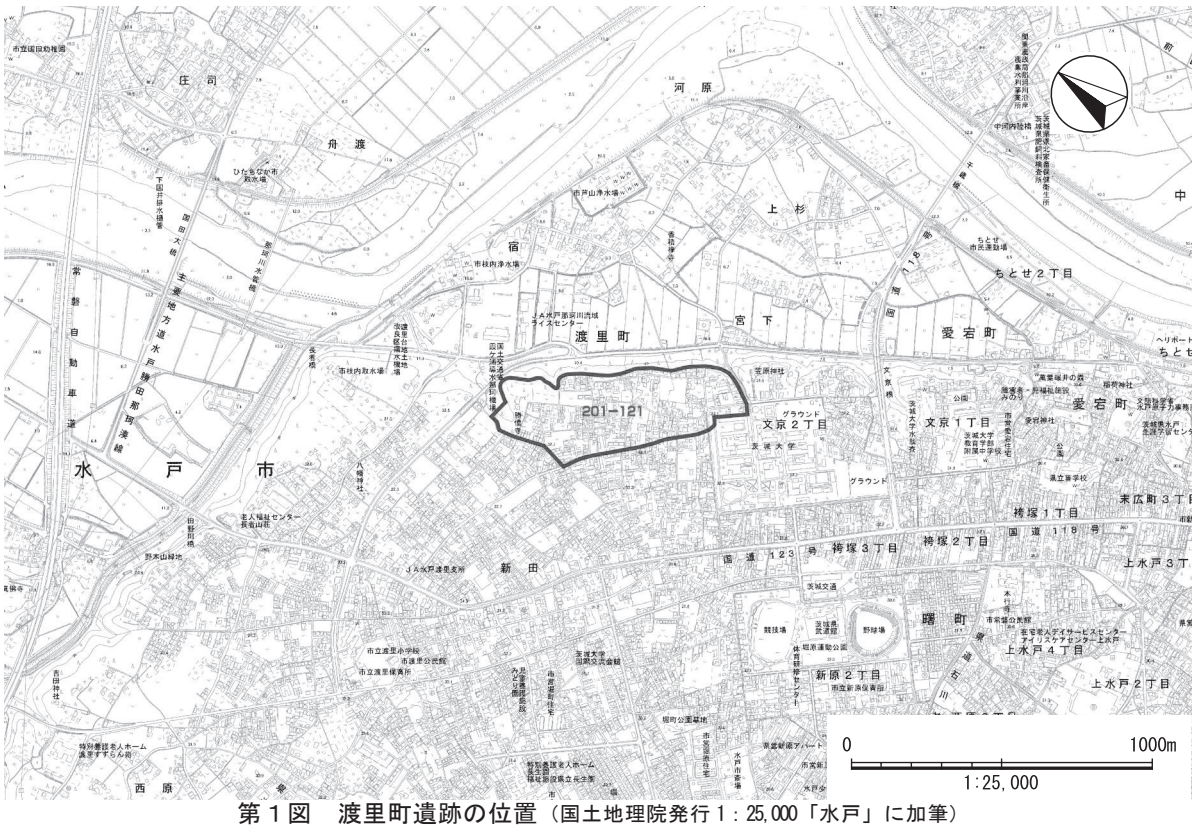
第１節　地理的環境

渡里町遺跡は，北緯 36 度 24 分 24 秒，東経 140 度 26 分 19 秒（世界測地系）の茨城県水戸市渡里町 2595-1・-5 ～ -7 ほかに所在する。

渡里町遺跡が所在する水戸市渡里地区は，北を那珂川に，南を桜川に挟まれた通称「上市台地」と呼ばれる那珂川によって形成された河岸段丘上に位置しており，南北方向に流れていた那珂川が渡里地区付近で緩やかに東の方向へ蛇行していく場所である（第１図）。渡里という地名がいつ頃まで遡り得るのか定かではないが，渡河点との関わりが想定される地名である。上市台地の東側斜面から斜面下にかけては愛宕町滝坂の曝井推定地に代表される湧水点が点在しており，古くから住み良い土地であったと考えられる。低地との比高は約 30m である。今回の調査地点は，那珂川が東へ蛇行する場所から南西方向に向かって入り込む谷津の南東側の台地上である。

第２節　歴史的環境

渡里町遺跡は，水戸市の北東側に位置し，国指定史跡「台渡里官衙遺跡群」の南東側，同じく国指定史跡「愛宕山古墳」の北西側に広がる遺跡である。那珂川を見下ろす標高 31 ～ 34m の台地縁に沿って広がっており，その範囲は東西約 150m，南北約 700m にも及ぶ（第２図）。昭和 20 年までは，この一帯に畑地が広がっており，所々に雑木林が残っていたが，



第１図　渡里町遺跡の位置（国土地理院発行 1：25,000「水戸」に加筆）

第２図　渡里町遺跡の周辺遺跡位置（茨城県遺跡地図１：25,000 に加筆）

第１表　渡里町遺跡と周辺の遺跡一覧

遺跡番号	遺　跡　名	種　類	時代・時期							備　考
			旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世	
	並松町遺跡	集落跡		○						
022	愛宕町遺跡	集落跡		○	○	○				
023	文京１丁目遺跡	集落跡		○	○	○	○			
024	アラヤ遺跡	集落跡		○		○	○			
025	上杉遺跡	包蔵地								
026	西原遺跡	集落跡			○		○			
029	安戸星遺跡	集落跡			○	○				
038	梵天遺跡	集落跡		○	○	○				
040	平塚遺跡	集落跡		○	○					
047	富士山遺跡	集落跡		○						
048	小原内遺跡	集落跡		○	○		○			
049	中河内上坪遺跡	集落跡			○	○	○			
063	圷渡里遺跡	集落跡				○	○			
064	堀遺跡	集落跡			○	○	○			Ｈ５～７調査
065	中河内遺跡	集落跡				○	○			
079	愛宕山古墳群	古墳群				○				前方後円墳２(愛宕山古墳は国指定史跡)，円墳２一部湮滅
080	西原古墳群	古墳群				○				前方後円墳１，円墳11一部湮滅
081	堀町面古墳	古墳				○	○			円墳1
096	富士山古墳群	古墳群			○	○				前方後円墳１，円墳8
097	小原内古墳群	古墳群				○				前方後円墳１，円墳４一部湮滅
098	台渡里廃寺跡	寺院跡	○	○	○	○	○	○		国指定史跡
099	田谷遺跡	官衙跡					○			
100	長者山城跡	城館跡						○		
121	渡里町遺跡	集落跡		○		○	○			
125	塚宮遺跡	集落跡		○	○	○				
126	塚宮古墳群	古墳群				○				前方後円墳１，円墳２湮滅
148	山田A古墳群	古墳群				○				円墳１，一部湮滅
224	砂川遺跡	集落跡		○			○			S55・56調査
225	白石遺跡									
226	白石古墳群									
230	笠原神社古墳	古墳群		○		○				円墳３一部湮滅
231	文京２丁目遺跡	集落跡			○	○	○			
232	中河内城館跡	城館跡						○		
276	台渡里官衙遺跡	官衙跡	○	○		○	○		○	
297	ちとせ２丁目遺跡	包蔵地								
311	高野下遺跡	包蔵地								
313	野田原遺跡	包蔵地					○			
314	西堀原遺跡	包蔵地					○			

昭和40年代の後半から徐々に宅地化が進み，往時の景観が失われつつある。渡里町遺跡が立地する那珂川流域の台地上には先土器時代から近代に至るまでの多数の集落跡と古墳・横穴，寺院跡・官衙跡，城館跡が確認されている（第２図，第１表）。以下では周辺の遺跡を今回検出された遺構の時期である縄文時代から近世の遺跡を中心に概観する。

（１）縄文時代

縄文時代の遺跡は，並松町遺跡（21），愛宕町遺跡（22），文京１丁目遺跡（23），アラヤ遺跡（24），梵天遺跡（38），小原内遺跡（48），茨城高等学校遺跡（62），台渡里廃寺跡（98），渡里町遺跡（121），塚宮遺跡（125），西宮遺跡（144），砂川遺跡（224），白石遺跡（225），笠原神社古墳（230），台渡里官衙遺跡群（276）などが該当する。発掘調査が行われた遺跡は少なく，大半の遺跡が踏査により確認されている。

アラヤ遺跡は数次にわたり発掘調査が行われているが，縄文時代早期後葉の茅山下層式期から晩期中葉千網式期の遺構や遺物が確認されている。この遺構群は那珂川の支流である田野川沿いに広がっていて，当該期における集落の立地を考えるうえで好例の史料である。今回の調査地点である渡里町遺跡では，縄文時代早期稲荷原式期から中期後葉加曽利式期の住居跡や土坑，遺物などが多数検出されている。特に渡里町遺跡中央部やや北側から，南側にかけて，中期中葉阿玉台式期から加曽利Ｅ式期を中心とした時期の遺構や遺物が多数確認されていて，アラヤ遺跡同様に河川沿いの台地上に集落が展開していたと考えられる。砂川遺跡からは，縄文時代中期後葉加曽利Ｅ式期の住居跡などが多数検出され，同一集落内で円形，隅丸方形，楕円形のものから構成され，炉の形態には地床炉，石囲い炉，埋設炉と多様であるが，時期による形態差は認められない。白石遺跡からは，加曽利Ｅ式期の住居跡が数軒検出されている。台渡里官衙遺跡群の北西側より，縄文時代後期前葉堀之内式期から中葉加曽利Ｂ式期の遺物が多量に出土していて，この近辺に集落が展開していたと考えられる。また，第２図の北側になるが，軍民坂遺跡にて，県内でも類例の少ない土器埋設と石組の複式炉や小型石棒が確認されている。複式炉は東北地方にその分布の中心をもち，その住居跡からはオパール製の石鏃と報告される石器が出土していて，オパールは複式炉と同様に，東北地方が中心の石材であり，東北地方との関連性が強く注意を引く。

（２）弥生時代

弥生時代の遺跡は愛宕町遺跡，文京１丁目遺跡，西原遺跡（26），安戸星遺跡（29），梵天遺跡，平塚遺跡，小原内遺跡，中河内上坪遺跡（49），堀遺跡（64），安戸星古墳群（88），台渡里廃寺跡，塚宮遺跡（125），白石遺跡，文京２丁目遺跡（231）が該当する。踏査などにより弥生時代後期の土器の出土が確認されている遺跡が大半である。発掘調査が行われた当該期の数少ない遺跡は堀遺跡であり，弥生時代後期の住居跡から弥生時代と古墳時代の壷と坩が共伴して出土している。

（３）古墳時代

渡里町遺跡の周辺における古墳時代の集落跡は愛宕町遺跡，文京１丁目遺跡，アラヤ遺跡，安戸星遺跡，梵天遺跡，中河内上坪遺跡，東上遺跡（61），圷渡里遺跡（63），堀遺跡，台渡里廃寺跡，渡里町遺跡，塚宮遺跡，宮西遺跡，巡見遺跡，馬場尻遺跡，仲根遺跡，白石遺跡，宮元遺跡（227）文京２丁目遺跡，台渡里官衙遺跡であり，古墳や古墳群として愛宕山古墳群（79），西原古墳群（80），小原内古墳群（97），塚宮古墳群（126），白石古墳群（226），上河内大塚古墳（228），一本松古墳（229），笠原神社古墳が該当する。集落跡の大半は踏査により確認された遺跡であるが，台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡の成立時期と考えられている７世紀後半である古墳時代終末期は，本遺跡や掘遺跡などの台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡周辺の遺跡において，その関連集落が広く展開していたことは，発掘調査において確認されている。また,白石遺跡などから同時期の住居跡が検出されている。しかし，古墳時代前期から後期の集落跡は文京１丁目遺跡，堀遺跡，中河内遺跡，台渡里官衙遺跡などで遺構や遺物が少数確認されているのみで，その様相は不明な点が多い。しかし，台渡里官衙遺跡の南方，南前原地区において，幅７ｍ程，深さ３ｍ程の７世紀前葉と考えられる土師器の坏が出土した方形に区画された溝が検出され，豪族居館もしくは，評段階の初期官衙と考えられる遺構が検出されていることは，注意すべきである。

集落跡の周辺に営まれている古墳は，隠滅してしまった古墳も多いが，中期～終末期のものが確認されている。中期には国指定史跡愛宕山古墳や隠滅してしまった姫塚古墳が築造されている。愛宕山古墳は楯形の周壕を巡らす大型の前方後円墳で，これらの古墳は５世紀前葉に築造されたと考えられる，後期の古墳群は小原内古墳群が該当する。埴輪を伴う古墳群で，６世紀代の築造と考えられる。終末期の古墳は，白石古墳群や西原古墳群などが該当する。西原古墳群は前方後円墳１基と円墳 11 基から構成される古墳群であるが，水戸市教育委員会などの発掘調査において，埴輪の伴う６世紀代から形成され，７世紀まで造墓活動が継続する古墳群と考えられている。白石古墳群は５基の円墳から構成され，埴輪を伴わない古墳である。凝灰岩片が散乱している古墳が存在することから，横穴式石室を伴う古墳が含まれると考えられている。上記以外の古墳以外は未詳である。

（４）奈良・平安時代

渡里町遺跡の周辺における奈良・平安時代の遺跡は文京１丁目遺跡，アラヤ遺跡，西原遺跡，小原内遺跡，中河内上坪遺跡，東町遺跡，茨城高等学校遺跡，圷渡里遺跡，堀遺跡，台渡里廃寺跡，田谷遺跡（99），渡里町遺跡，砂川遺跡，白石遺跡，文京２丁目遺跡，台渡里官衙遺跡，高野下遺跡，野田原遺跡（313），西堀原遺跡（314），見和一丁目遺跡（315）が該当する。なかでも，台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡，田谷遺跡などは，当該期の寺院や官衙跡であり，本遺跡も含め，その周辺集落と考えられる集落遺跡を含め，注目すべき遺跡が水戸市域では数多く確認されている。したがって，寺院や官衙などの周辺集落と考えられる本遺跡の性格と同様の性格をもつ遺跡や寺院や官衙などに絞って以下から概観したい。

台渡里廃寺跡は過去に長者山地区と観音堂山地区，南方地区の３地区に分けられ，このうち，長者山地区は平成 18 年度に行った水戸市教育委員会の発掘調査において，９棟の

礎石建物跡と北側区画溝が確認され，寺院ではなく，那賀郡衙に伴う正倉院であることが確認されている。観音堂山地区については，平成 14 年から 16 年にかけて水戸市教育委員会が行った範囲確認調査の結果，西側に講堂が，その北東に金堂とさらに東側に塔が並び，金堂の北西に経蔵もしくは鐘楼と考えられる礎石建物が配置され，講堂の対極に位置するところには中門が配置される東向きの独自の伽藍配置をもつとみられ，その創建年代は７世紀後半に遡ることが明らかとなった。また，相輪の一部がヘラ書きされた瓦や「佛」という字の周りに絵が描かれた瓦，金箔製品，瓦製相輪の請花花弁と擦管など東国の初期寺院でも初見となる仏教関連遺物が出土している。

南方地区は範囲確認調査の結果，塔跡基壇の内部より内面黒色処理の施された土師器坏の破片が出土したことから，９世紀後半に入ってから造営された法隆寺式伽藍配置を意識した寺院であることが判明した。観音堂山地区の初期寺院が９世紀後半には火災で廃絶していることから，観音堂山地区の伽藍の焼亡後に，南方地区に再建しようとしたが，造営を途中で放棄した可能性が高い。なおこれらの成果に基づき，平成 17 年には観音堂山地区と南方地区が国指定史跡に指定されている。上記の成果に基づき，現在台渡里廃寺跡および旧台渡里遺跡は名称変更が行われ，台渡里廃寺跡・台渡里官衙遺跡の長者山地区，宿屋敷北地区，宿屋敷地区，南前原地区となっている。白石遺跡からは，住居跡 16 軒，掘立柱建物跡６棟，基壇１基，溝１条，土坑 12 基が検出されている。特に注目されるのは東西２間，南北 36 間のⅡ区２号建物であり，第１号溝とともに公的施設の一部を構成していたと考えられる。溝の時期から８世紀前半に帰属すると考えられている。白石遺跡に隣接する田谷廃寺跡からは，台渡里廃寺跡長者山地区と同様の文字瓦が多数出土していて，小字には「百壇」という礎石建物の基壇との関係が推測される地名が遺されており，３箇所の基壇と礎石の存在が報告されている。このことから，田谷廃寺跡が河内駅家跡とする見解が研究者から提示され，Ⅱ区２号建物が駅馬を繋いでおくための馬房や厩舎などの施設として理解することも可能であろう。

台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡の周辺集落と考えられるアラヤ遺跡は住居跡と共に，工房跡や粘土採掘坑などが検出され，那賀郡衙正倉院の区画溝やそれに伴うと考えられる掘立柱建物の柱穴も確認されている。また，アラヤ遺跡と同様の性格をもつ集落と考えられる堀遺跡では，数多くの住居跡や掘立柱建物跡，溝，井戸，土坑などが検出されている。平成６年に実施された住宅団地造成工事に伴う発掘調査において検出された掘立柱建物跡は長舎風の建物跡で９世紀代の公的建物の可能性が指摘されている。遺物は土師器，須恵器の他，刀子・窯・雁又鏃・釣針・釘・くるり錠など多様に出土している。なかでも須恵器壷Ｇや人面墨書土器が出土していることは注意される。白石遺跡の北側に位置する砂川遺跡からは，当該期の住居跡や溝，井戸が検出され，井戸からは木製の曲物や櫛，高台付盤など注目される遺物が出土している。

（５）中世～近代

中世から近代の遺跡は台渡里廃寺跡，長者山城跡（100），中河内城館跡（232），台渡里廃寺跡，囲裏窯跡（288）などが挙げられる。長者山城跡は中世の居館跡で江戸氏の重臣である河和田城主春秋氏の支城で，その縄張りの一部となるアラヤ遺跡や台渡里廃寺跡，台渡里官衙遺跡などからは，地下式壙や井戸，瓦礫道，土坑，ピットなどの遺構や15世紀後半から16世紀初頭の遺物が出土していて，観音堂山地区の初期寺院は少なくとも15世紀には寺院の存在はなく，長者山城跡の一角として機能していたことが推定されている。また，アラヤ遺跡や台渡里廃寺跡から17世紀前半の遺物が出土していて，その時期に近世集落が形成されていたと推定されている。囲裏窯跡は近世徳川氏の指導のもと成立した，地図外となる七面製陶跡と同時期と考えられる近世窯であるが，七面製陶跡と異なり，日常に使用された擂鉢や鉢などを焼成した窯跡と考えられる。

第３節　台渡町遺跡における既往の調査

渡里町遺跡が立地する渡里地区の台地上では，これまでに21次に亘る調査が行われている。以下では主な調査とその成果について言及する。

21次の調査の大半は小さな調査区であり，盛土保存や立ち合い工事となっているため，発掘調査が行われた地点は少ない。平成20年に行われた市道常磐34，275号線道路改良工事に伴う第６地点では，縄文時代中期の住居跡や土坑，本調査地点の東側に位置する平成20年に行われた，道路改良工事に伴う第５地点では，平安時代を中心に住居跡６軒，溝２条などが検出され，縄文時代における集落の北限や平安時代の集落の範囲を確認することができた。平成24年に行われた，個人住宅建築に伴う第12地点第２次調査では，約2,200㎡の範囲に縄文時代から平安時代の住居跡41軒，掘立柱建物跡７棟，溝跡３条，道路状遺構１条，土坑49基，ピット360基，性格不明遺構10基と多量の遺構が検出され，縄文時代から弥生時代における集落の東西限や，古墳時代から平安時代の当該地における集落の性格など数多くの成果が判明した。どの地点でも，円面硯や瓦などの寺院や官衙関連遺物が出土していることは注意されるべきである。

以上の既往の調査成果から，渡里町遺跡は奈良・平安時代を中心に，縄文時代から近世に至るまで，断続的に土地利用が展開した複合遺跡であり，奈良・平安時代には那賀郡衙とその周辺寺院である台渡里廃寺跡と有機的な関係にあった遺跡であったことが理解できる。

第３章　調査の方法と成果

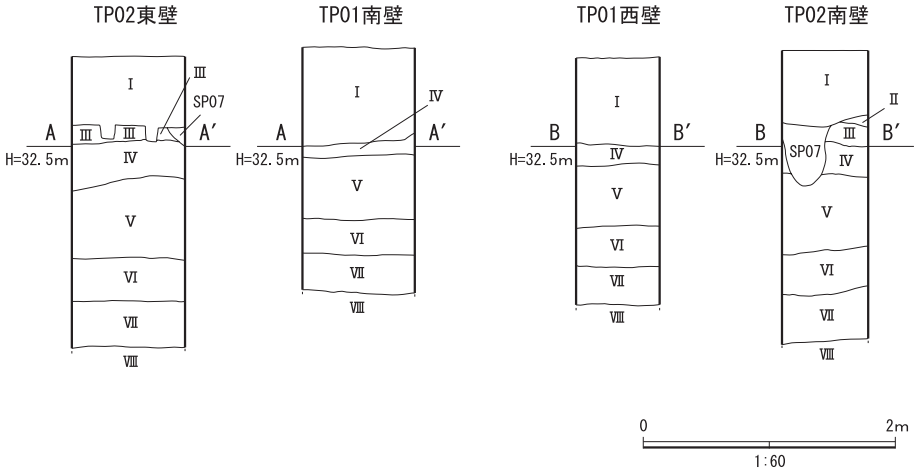
第１節　調査の方法

発掘調査は、約 15 m × 13 mの長方形となる調査区が２ヶ所，東側と西側に設定した。調査では公共座標を基準に，随所に基準点を設け，その既知点より光波測量器を使用して遺物取上げなどの記録作業を行った。掘り下げは，重機により表土層を掘削し，その下部より遺構確認面までは基本的に人力で掘り下げた。遺構実測については，基本的に光波測量機と手実測を併用し，包含層および遺構内出土の遺物については全点３次元で記録した。写真撮影は35㎜モノクロフィルム，35㎜カラーリバーサル，デジタルカメラ（1200万画素）を使用して適宜，記録撮影を行った。

第２節　基本層序（写真図版 15）

基本層序は以下のとおりである。基本層序は１区の北西隅，２区の南東隅にテストピットを設け、確認している。

第４図　基本層序図

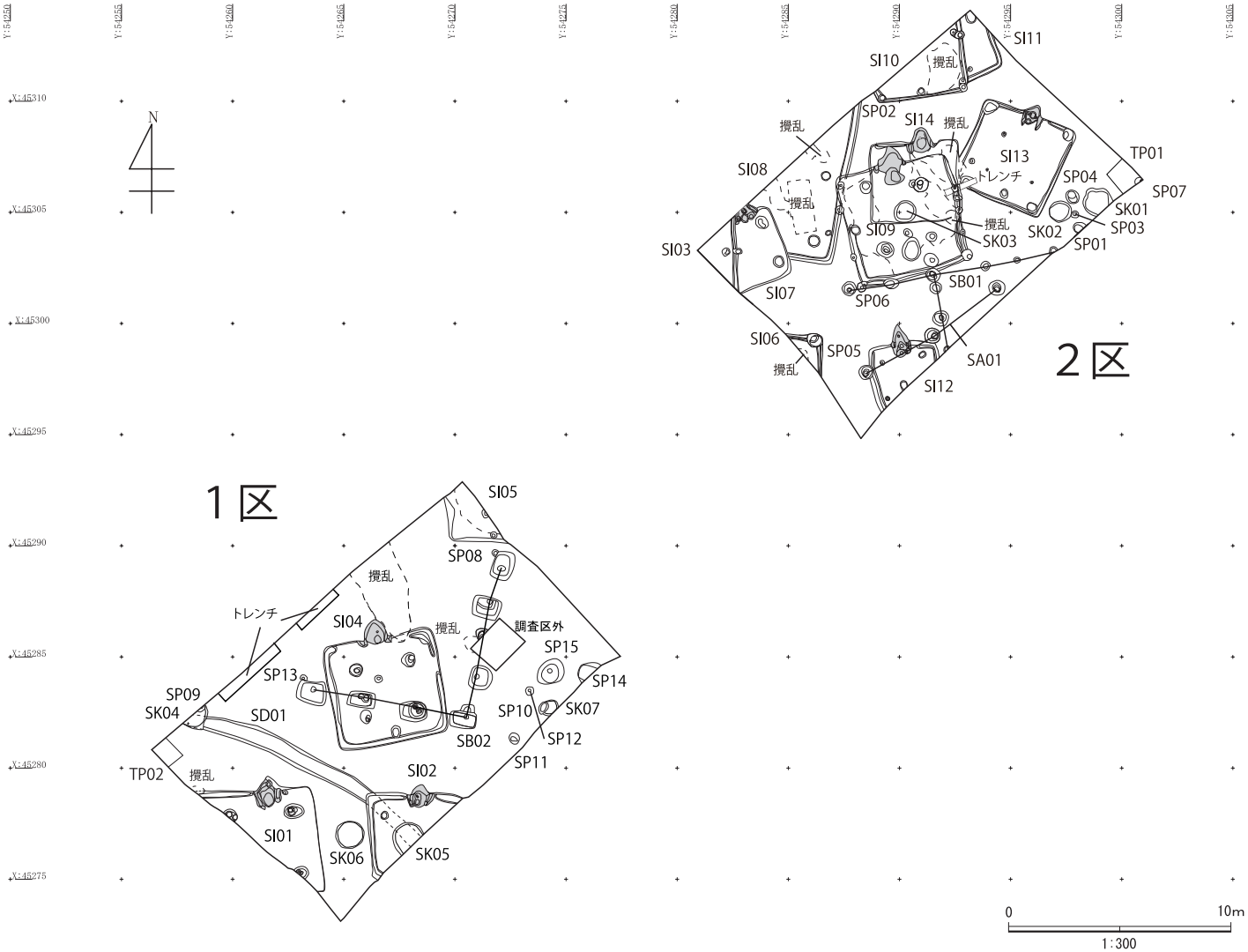


基本層序

Ⅰ層	表土・耕作・盛土土層	
Ⅱ層	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	やや粘性をもち，締まる。黒色土を少量含む。
Ⅲ層	10YR3/3 暗褐色土層	やや粘性に欠け，締まる。白色粒子・赤色粒子を少量，黒色土を微量含む。（今市・七本桜層）
Ⅳ層	10YR6/8 明黄褐色土層	粘性をもち，締まる。赤色粒子を微量含む。（ソフトローム層）
Ⅴ層	10YR7/8 黄橙色土層	粘性をもち，強く締まる。赤色粒子・黒色粒子を少量含む。（ハードローム層）
Ⅵ層	10YR6/8 明黄褐色土層	粘性をもち，締まる。赤色粒子・黒色粒子・鹿沼土ブロック（φ３㎝）を少量含む。（鹿沼土層への漸移層）
Ⅶ層	2.5Y8/8 黄色土層	粘性に欠け，締まる。鹿沼土主体。（鹿沼土層）
Ⅷ層	10YR6/8 明黄褐色土層	粘性をもち，締まる。鹿沼土粒子を微量含む。

第５図　調査区の位置（都市計画図「水戸」1：2500 に加筆）

第６図　全体遺構分布図


N
2区
SI11
SI10
撹乱
SP02
SI14
撹乱
撹乱
SI13
TP01
SI08
トレンチ
SP04
SP07
撹乱
SK01
SP03
撹乱
SI09
SK03
SK02
SP01
SI03
SB01
SI07
SP06
SI06
SP05
SA01
撹乱
SI12
1区
SI05
SP08
撹乱
トレンチ
SI04
撹乱
調査区外
SP15
SP13
SP14
SP09
SK04
SD01
SP10
SK07
SB02
SP12
SP11
TP02
撹乱
SI02
SI01
SK06
SK05
0
10m
1:300

第３節　調査の概要

今回の調査区は，那賀川南岸の河岸段丘における崖線から南西へ約 130 ｍの台地上に位置する。本調査区の東側において平成 20 年度に水道管埋設工事に伴う発掘調査（渡里町遺跡第５地点）や個人住宅建築に伴う発掘調査（渡里町遺跡第 12 地点）などが実施されている。これまでの試掘調査や発掘調査において，奈良・平安時代を中心とする住居跡が分布していることが確認されている。今回の発掘調査でも、同様の住居跡等が検出されることが想定され，その遺構群の性格や年代，範囲などを確認することが調査の目的とした。

その結果，住居跡が 14 軒（第１号から第 14 号住居跡），掘立柱建物跡が２棟（第１号・第２号掘立柱建物跡），溝跡が１条（第１号溝跡），土坑が７基（第１号から第７号土坑），ピットが 15 基（第１号から第 15 号ピット）が検出され，遺物は 4,479 点，118.4 ㎏が出土している。時期は縄文時代から中世以降まで確認されている。出土遺物は，大半の住居跡の年代である奈良・平安時代が中心である。遺構の分布に偏りは見られないが，２区の方が若干住居跡の密度が高い。時期は縄文時代早期から近世までであるが，遺構と同様に奈良・平安時代が中心である。出土遺物全体における奈良・平安時代の遺物は点数で 98％，重量で 79％とほかの時期に比べ圧倒的な量を占める。出土地点は，全体の点数で 93％，重量で 96％ほどが遺構からの出土で，住居跡以外からの出土はごく少数である。遺物の内訳は縄文時代早期稲荷原式・前期黒浜式や浮島式・中期阿玉台式や加曽利Ｅ式の深鉢，弥生時代後期十王台式の甕壺類，須恵器の坏類・高台付坏類・高台付盤・盤・高盤・皿・高台付皿・壺・長頸壺・甕壺類・鉢・蓋・円面硯，土師器の坏類・甕壺類・蓋・皿・高台付皿・高坏・鉢・甑，灰釉陶器の壺・高台付皿・蓋，土製品のミニチュア土器・焼成土塊，石器は縄文時代打製石斧・磨石・敲石・軽石，石製品は砥石・支脚・カマド芯材，鉄製品は釘・刀子・楔状鉄製品・鉄滓・銭貨，瓦は平瓦・丸瓦・軒丸瓦，陶器の碗，瓦質土器の壺，礫など多種多様にわたり出土している。以下より検出・出土した遺構と主要な遺物について時代順に触れていきたい。なお、配列に規則性を持たない一部の小ピットについては，独立した項目を設けないで，ピット一覧表を掲載したので、そちらを参照願いたい。

第４節　検出された遺構と遺物

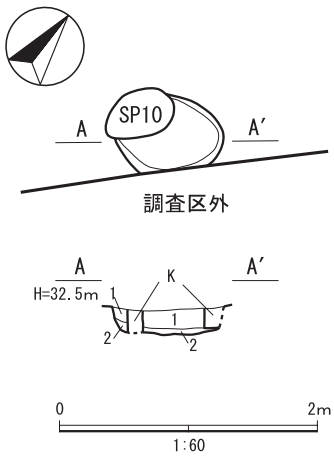
（１）縄文時代の遺構と遺物

本調査地点から検出された縄文時代の遺構は少なく，土坑が１基（第７号土坑）とピットが３基（第３号・第10号・第11号ピット）である。出土した縄文時代の遺物は50点で1,481.5ｇ出土しているが，遺構に伴う形での出土ではなく，他の時代の遺構や表土からの出土である。出土遺物全体における縄文時代遺物の割合は点数・重量ともに１％程度を占めるに過ぎない。出土地点は両区ともに満遍なく出土している。出土している最も古い時期の土器は第４号住居跡から出土した早期稲荷原式期の深鉢が１点出土している。出土した土器の中心時期は中期後葉加曾利Ｅ式期の土器で22点出土している。その他，前期黒浜式期および浮島式期，中期阿玉台式期，時期不明の土器が少数ずつ出土している。石器では片岩製の打製石斧が１点，砂岩製の磨石・敲石が３点，軽石が１点とこちらも極めて低調な結果となっている。以下より検出・出土した縄文時代の遺構と主要な遺物について触れていきたい。（山下）

第７号土坑（第６図，写真図版14）

１区の東側，標高32.3ｍ付近に第10号ピットに先行して位置する。南東側1/5が調査区外あり，その部分は調査できなかった。平面形は楕円形，長軸推定83㎝，短軸現存61㎝，深さ23㎝を測る。断面形は逆台形状を呈し，壁は急角度に立ち上がる。坑底はやや起伏をもつ。土層は２層に分かれ，人為的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。性格は不明である。遺構の形状，覆土の状況，重複関係より縄文時代の所産であった可能性が高い。

第７図　第７号土坑

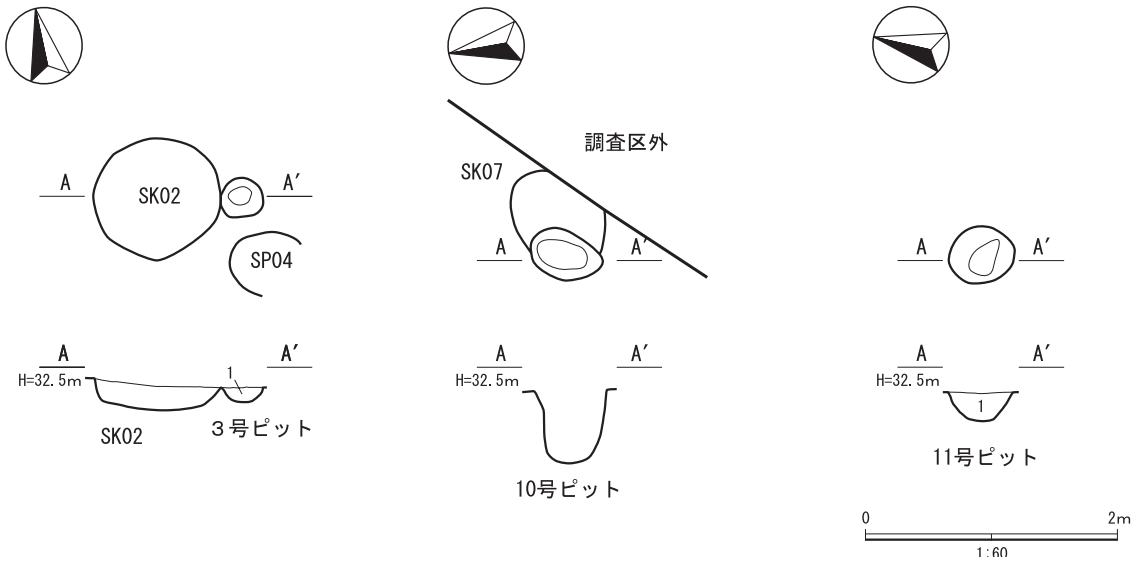


第７号土坑
１　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
２　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１㎝）・ローム粒子を少量含む。

縄文時代のピット（第７図，第２表，写真図版14）

検出されたピットは３基を数える。１区の南東側に偏在しているが，調査区検出なので，分布状況など性格は不明と言わざるを得ない。ここでは個々に対しての説明を加えずに，断面図および第２表の属性一覧で説明に代えさせていただきたい。

第８図　第３・10・11 号ピット



３号ピット
1　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

11 号ピット
1　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム土を少量含む。

第２表　縄文時代ピット属性一覧

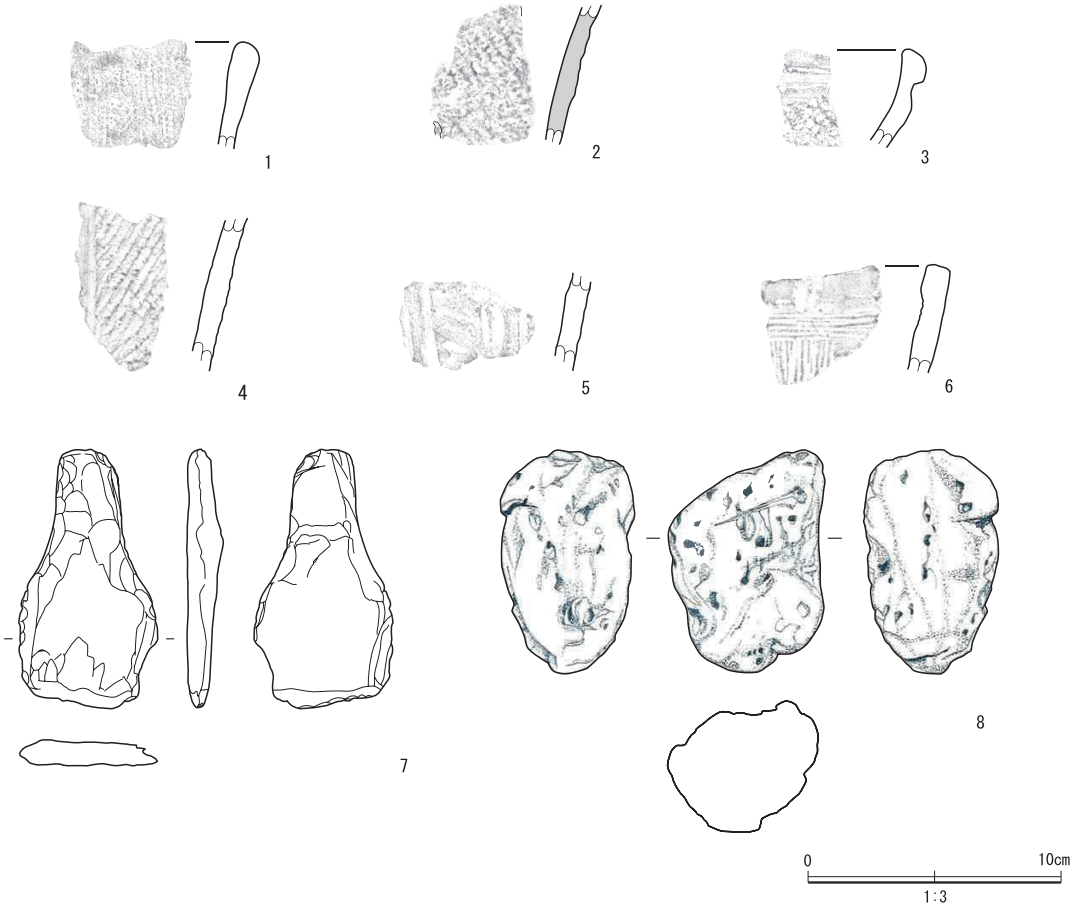
ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
3号ピット	2 区東側	円形	筒状	33	－	12	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為埋没	不明	－	無し	
10号ピット	1 区東側	楕円形	筒状	59	37	51	垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	不明	不明	SK07に後続	無し	
11号ピット	1 区東側	円形	筒状	49	－	21	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為埋没	不明	－	無し	

縄文時代の遺構外出土遺物（第８図，第３・４表，写真図版 16）

当該期の遺構からは，前述したとおり遺物が出土していないため，表土や当該期以外の遺構からの出土した代表的な８点の遺物を図示して，説明を加える。

１は早期稲荷原式土器の深鉢口縁部片である。口縁部が肥厚して，胴部に粗い撚糸文を施文する。２は前期黒浜式土器の深鉢である。覆土に繊維を含み，外面に粗い縄文を施文する。３から５は中期加曽利Ｅ式土器の口縁部や胴部片である。地文は縄文で，沈線を横走や縦走させて区画する。３はⅢ式，４・５はⅢからⅣ式であろう。６は後期堀之内式土器の口縁部片である。口縁部直下に多条の条線を横走や縦走させ，区画している。７は片岩製の撥型打製石斧である。粗い敲打により刃部を造る。一部に原礫面を残す。８は軽石である。外面の一部に切れ込みをもつが，その切れ込みが，縄文時代のものか後世につけられたものか不明である。その他には調整痕は確認できない。

第９図　縄文時代の遺構外出土遺物



第３表　縄文時代出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI04 カマド	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	5	—	—	〈4.1〉	口縁部肥厚。胴部外面ＲＬ単節の縄文を横走，内面ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ6/3 にぶい褐色	—	早期稲荷原式期
2	SI08	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	5	—	—	〈5.6〉	胎土に繊維を含む。外面ＲＬ単節の縄文を斜走，内面ナデ。	白色粒子・赤色粒子・小礫・繊維	×	良好	7.5ＹＲ5/6 明褐色	—	前期黒浜式期
3	SI08	覆土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	5	—	—	〈3.9〉	波状口縁深鉢。口縁部玉縁状に肥厚，下位に沈線を横走。胴部ＲＬ単節の縄文を横走，内面ナデ。	白色粒子・チャート粒	×	良好	10ＹＲ5/3 にぶい黄橙色	—	中期加曽利ＥⅢ式期
4	SI09	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	5	—	—	〈6.0〉	地文ＬＲ縄文斜走，沈線を垂下。内面ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	5ＹＲ5/6 明赤褐色	—	加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期
5	SI04	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	5	—	—	〈3.9〉	胴部外面縦方向に平行する沈線を複数単位垂下，内面ナデ。地文は無文。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ7/3 にぶい橙色	—	中期加曽利ＥⅢ～Ⅳ式期
6	２区	表土	縄文土器	深鉢	胴部	5	—	—	〈4,5〉	波状口縁深鉢。多条の条文を横走，その下位に多条の条線を垂下。	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小礫	×	良好	7.5ＹＲ6/4 にぶい橙色	—	縄文後期堀之内Ⅰ式期

第４表　縄文時代出土石器属性一覧

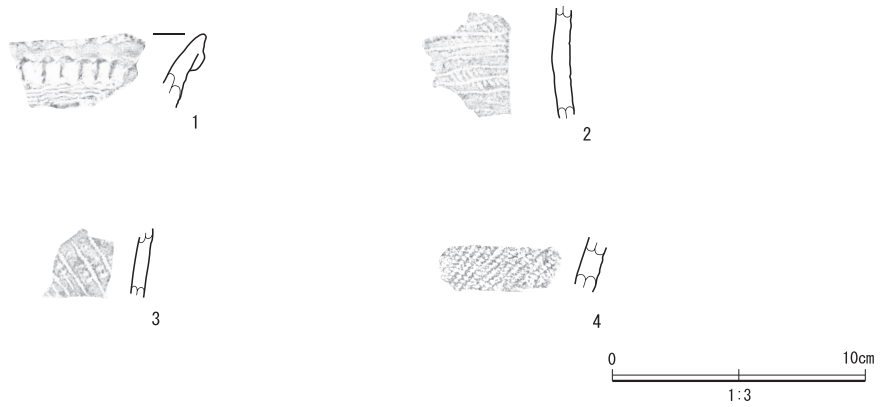
図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	特徴・手法	備考
7	SI01	覆土	石器	打製石斧	片岩	〈10.2〉	5.5	1.4	83.4	撥型。刃部下端を打ち欠きで造り出す。基部は細かい敲打で成形。裏面の一部に原礫面を残す。	
8	SI09	覆土	石製品	軽石	軽石	8.9	6.2	5.2	84.2	全面黒色に変色。被熱の影響ヵ。一部に幅0.1cm，長さ1.2cmほどの切れ込み。用途不明。	

（２）弥生時代の遺構と遺物（第９図，第５表，写真図版 16）

本調査地点から弥生時代の遺構は検出されていない。しかし，弥生時代後期十王台式期の甕壺類の土器が 11 点で 92.9 ｇ出土している。石器などは出土していない。出土遺物全体の弥生時代土器の割合は点数・重量ともに１％以下を占めるに過ぎない。出土地点は縄文時代と異なり，第７号から第 10 号住居跡や２区表土一括と２区を中心に出土している。以下より出土した弥生時代の代表的な４点の遺物を図示して，説明を加える。

図示した１から４はすべて後期十王台式土器の壺である。１は口縁部片である。口縁部を折り返し，下端は棒状工具を用いて，押圧文を施す。その下位は多条の条線文を蛇行，横走させる。２から４は撚糸文や縄文が施されている土器である。（山下）

第 10 図　弥生時代の出土遺物



第５表　弥生時代出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI10	覆土	弥生土器	壺	口縁部～胴部	5	－	－	〈2.9〉	口縁部折り返し。下端を棒状工具で連続して押圧。下位条数不明の蛇行文を横走。	白色粒子･石英粒	×	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	－	後期十王台式期
2	２区	覆土	弥生土器	壺	胴部	5	－	－	〈4.5〉	ＬＲ撚糸文を横走，内面ナデ。	白色粒子･黒色粒子･チャート粒	×	良好	7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	－	後期十王台式期
3	SI09	覆土	弥生土器	壺	胴部	5	－	－	〈2.7〉	ＲＬ撚糸文を斜走。内面ナデ。	白色粒子	×	良好	10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色	－	後期十王台式期
4	SI08	覆土	弥生土器	壺	胴部	5	－	－	〈2.2〉	ＲＬ単節の縄文を斜走，内面ナデ。	白色粒子・石英粒子・雲母片	×	良好	５ＹＲ 6/6 橙色	－	後期十王台式期

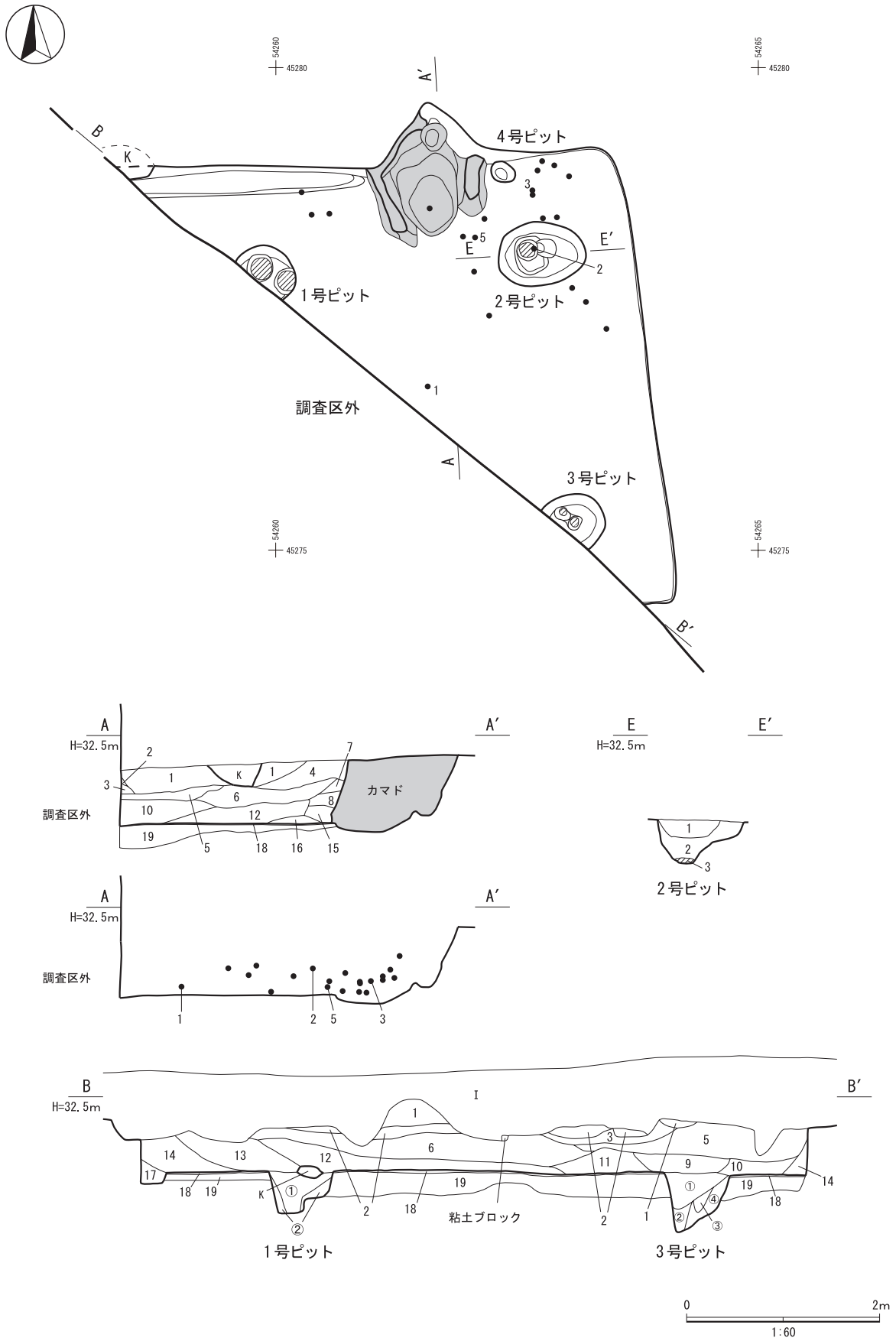
（３）古墳時代から平安時代の遺構と遺物

本調査地点から検出された当該期の遺構は住居跡が 14 軒（第１号から第 14 号住居跡），掘立柱建物跡が２棟（第１号・第２号掘立柱建物跡），ピット列１条（第１号ピット列），ピットが４基（第４号・第５号・第 14 号・第 15 号ピット）と今回の発掘調査で検出された遺構の中心を占める。時期的には住居跡は７世紀後葉から 10 世紀前葉に収まり，掘立柱建物跡は出土遺物や切り合い関係から８世紀以前および 10 世紀以降と考えられる。遺物は出土した当該期の遺物は 4,391 点で 94,242.2 ｇが出土している。種別は須恵器や土師器，灰釉陶器，土製品，石製品，鉄製品，瓦であり，器種は坏や高台付坏，盤，高盤，皿，甕・壺，鉢，蓋，円面硯，釘，刀子，楔状製品，軒丸瓦，平瓦，丸瓦等が中心である。出土遺物全体における当該期遺物の割合は点数で 98％，重量で 79％とほかの時期に比べ圧倒的な量を占める。以下より検出・出土した当該期の遺構と主要な遺物について触れていきたい。

第１号住居跡（第 10 ～ 12，第６・７表，写真図版２・16・17　）

１区の南西側，標高 32.3 ｍ付近に単独で位置する。住居跡の南西部分 1/2 が調査区外であったため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は概ね良好である。長軸現存 474 ㎝，短軸 556 ㎝の推定方形を呈し，主軸方位はＮ－７°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 64.7 ㎝を測り，垂直に立ち上がる。土層は 19 層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，黒褐色土を基調とした厚さ１㎝から３㎝ほどの堅固で緻密な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。周溝はカマド部分以外において検出された範囲で全周している。幅 14 ㎝から 32 ㎝，深さ 4.0 ㎝から 10 ㎝ほどを測る。柱穴は４基検出され，このうち主柱穴は１号ピットから３号ピットの３基と考えられる。これら主柱穴には柱痕が２ヶ所確認されていることから，柱の建て替えが１回行われたと考えられる。その他の主柱穴や出入口ピットは，その位置関係から調査区外に展開すると考えられる。カマドは住居跡北壁やや東側に，北壁を 61 ㎝ほど削り出して構築されていて，Ｎ－４°－Ｗの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 138 ㎝，袖部外側の幅は 120 ㎝を測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる２層や４層,11 層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて，浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用している。袖部内側の最大幅は 57 ㎝を測り，火床部は床面から 13 ㎝ほど楕円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は焼土に覆われ，底面は赤変硬化して，焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は急角度に立ち上がる。支脚は検出されていない。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，カマド周辺は浅いが，ロームブロックと暗褐色土を基調とした土が全面に最大 25 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏を持つ。遺物は 288 点,5,863.8 ｇが出土している。内訳は土器が須恵器の坏類・高台付坏類・壺・蓋，土師器の坏類・甕壺類・甑，灰釉陶器の壺・蓋，石器が縄文時代の打製石斧，鉄製品の釘である。このうち５点の遺物を図示することができた。１から３は須恵器の坏である。どれも，その胎土か

第 11 図　第 1 号住居跡


54260
45280
54265
45280
A′
B
K
4号ピット
E
E′
1号ピット
2号ピット
調査区外
A
3号ピット
54260
45275
54265
45275
B′
A
H=32.5m
A′
カマド
調査区外
E
H=32.5m
E′
2号ピット
A
H=32.5m
A′
調査区外
B
H=32.5m
B′
粘土ブロック
1号ピット
3号ピット
0
2m
1:60

第１号住居跡
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。
2　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子・焼土粒子を微量含む。
3　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を少量含む。
4　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
5　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
6　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
7　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
8　10YR8/3 浅黄橙色シルト層　粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，黒色土を少量含む。
9　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
10　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
11　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
12　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，粘土ブロック（φ４cm）を微量含む。
13　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
14　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
15　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。粘土ブロック（φ１cm）を少量含む。
16　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，粘土ブロック（φ４cm）を微量含む。
17　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
18　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
19　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。（掘り方）

第１号住居跡１号ピット
①　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
②　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。

第１号住居跡２号ピット
1　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を少量含む。（柱圧痕）

第１号住居跡３号ピット
①　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
②　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
③　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
④　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。

第１号住居跡４号ピット
1　10YR3/4 第１号住居跡１号ピット
①　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
②　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。

第１号住居跡２号ピット
1　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を少量含む。（柱圧痕）

第１号住居跡３号ピット
①　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
②　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
③　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
④　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。

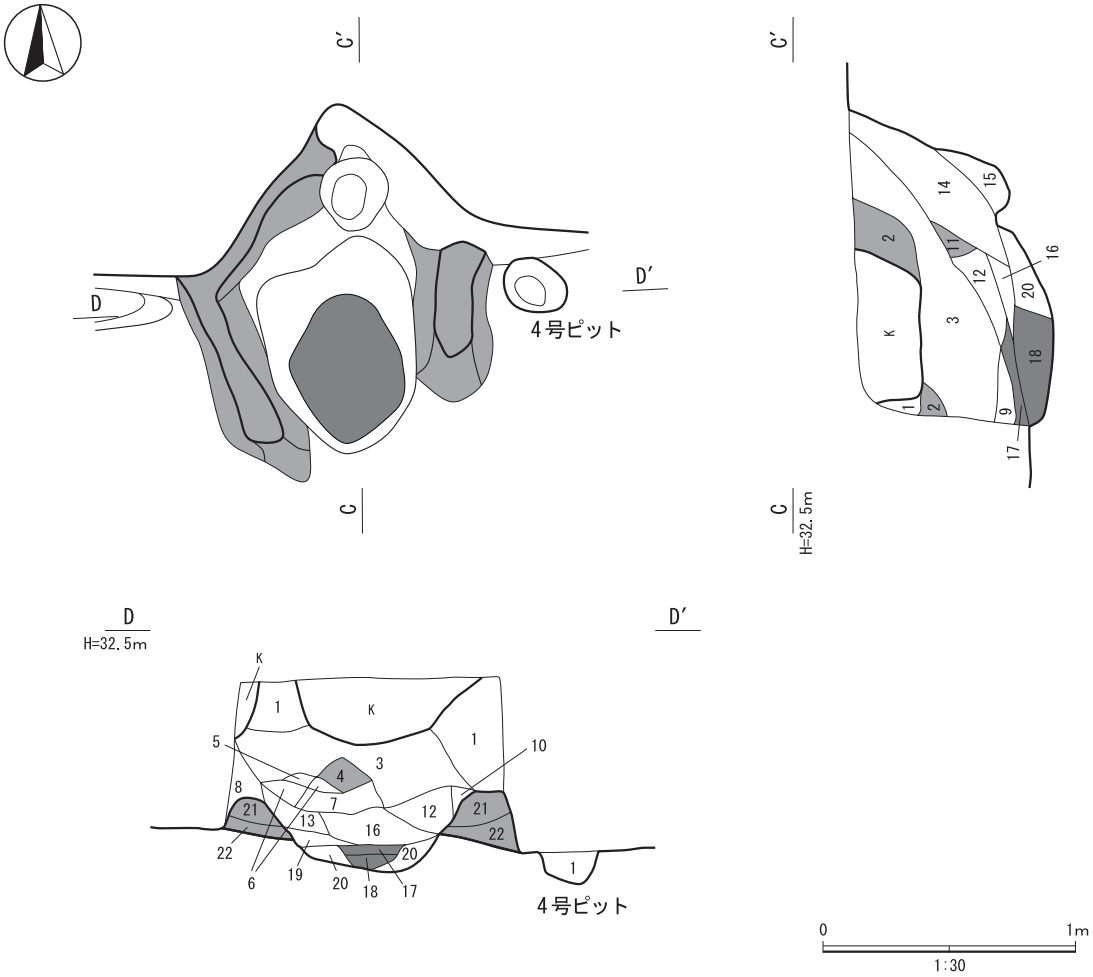
第１号住居跡４号ピット
1　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

第６表　第１号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北西	推定円形	有段筒状	65	―	42・48	ほぼ垂直	平坦	2	円形・中央やや東および南東	20	有り	自然	主柱穴	―	無し	南西 1/2 調査区外
2号ピット	北東	楕円形	筒状	91	65	45・45	急角度だが一部緩やか	丸味を帯びる	2	円形・中央部	17	―	自然	主柱穴	―	無し	
3号ピット	南東	推定円形	不整筒状	63	―	45・52	急角度だが一部緩やか	平坦	2	円形・中央および中央やや北西	8	―	自然	主柱穴	―	無し	南西 1/2 調査区外
4号ピット	カマド東	楕円形	筒状	28	21	15	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	不明	―	無し	

ら木葉下窯跡群産と考えられる。３点共に底部外面に釈読不明のヘラ書きが施される。４はかえりを伴わない須恵器の蓋である。５は最大径が胴部上位の土師器常総型甕である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況のから９世紀前半の所産であった可能性が高い。

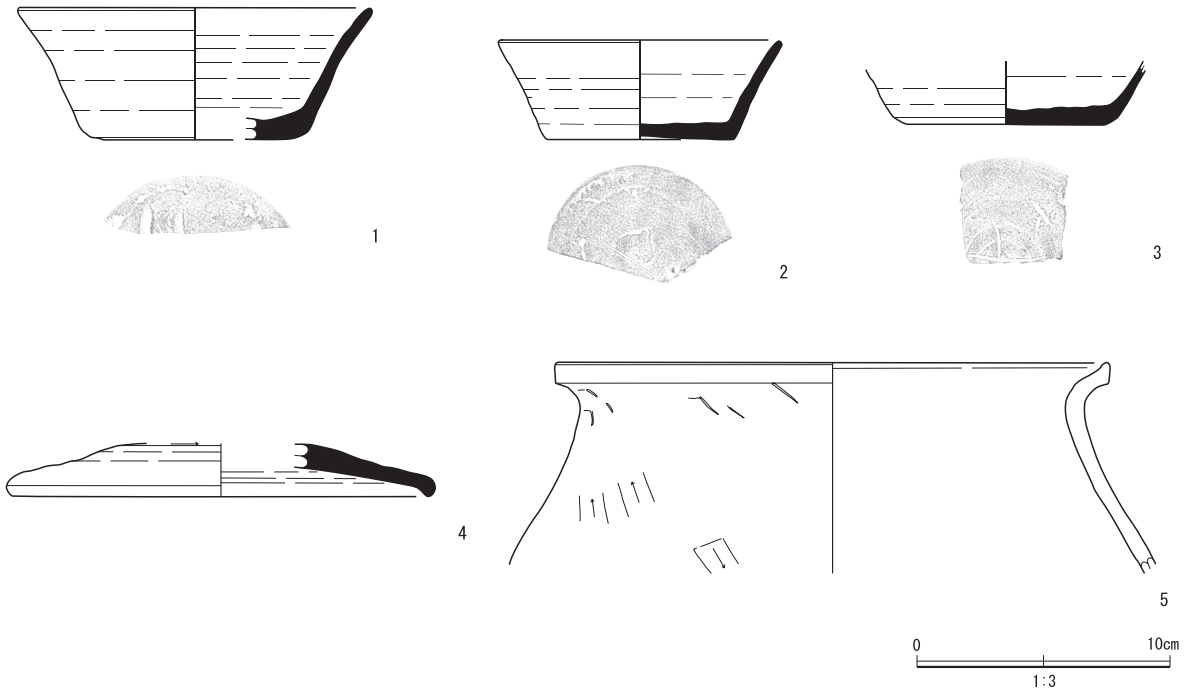
第 12 図　第１号住居跡カマド



第１号住居跡カマド

1	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
2	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
3	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
4	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
5	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもつが，やや締まりに欠ける。粘土粒子を多量に含む。
6	2.5YR3/4 暗赤褐色土層	粘性・締まりに欠ける。焼土粒子主体。焼土ブロック（φ１cm）・黒色土を少量含む。
7	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
8	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
9	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，やや締まる。粘土ブロック（φ１cm）を少量含む。
10	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもつが，締まりに欠ける。粘土粒子を多量に含む。
11	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，褐色土を少量含む。
12	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子・粘土粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
13	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
14	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子・粘土粒子を少量，焼土ブロック（φ１cm）を微量含む。
15	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち,締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に,焼土粒子･粘土粒子を少量,焼土ブロック（φ１cm）を微量含む。
16	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，やや締まる。焼土ブロック（φ１cm）・焼土粒子を少量含む。
17	10R4/8 赤色土層	粘性に欠け，やや締まる。焼土粒子を多量に，粘土ブロック（φ１cm）を少量含む。（燃焼部）
18	10R4/8 赤色土層	粘性に欠け，やや締まる。焼土主体，焼土ブロック（φ２cm）を多量に含む。（燃焼部）
19	10YR6/8 明黄褐色土層	粘性・締まりに欠ける。被熱したロームブロック（φ１cm）主体。
20	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に，焼土粒を少量含む。（掘り方）
21	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。（袖部）
22	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，褐色土を少量含む。（袖部）

第 13 図　第１号住居跡の出土遺物



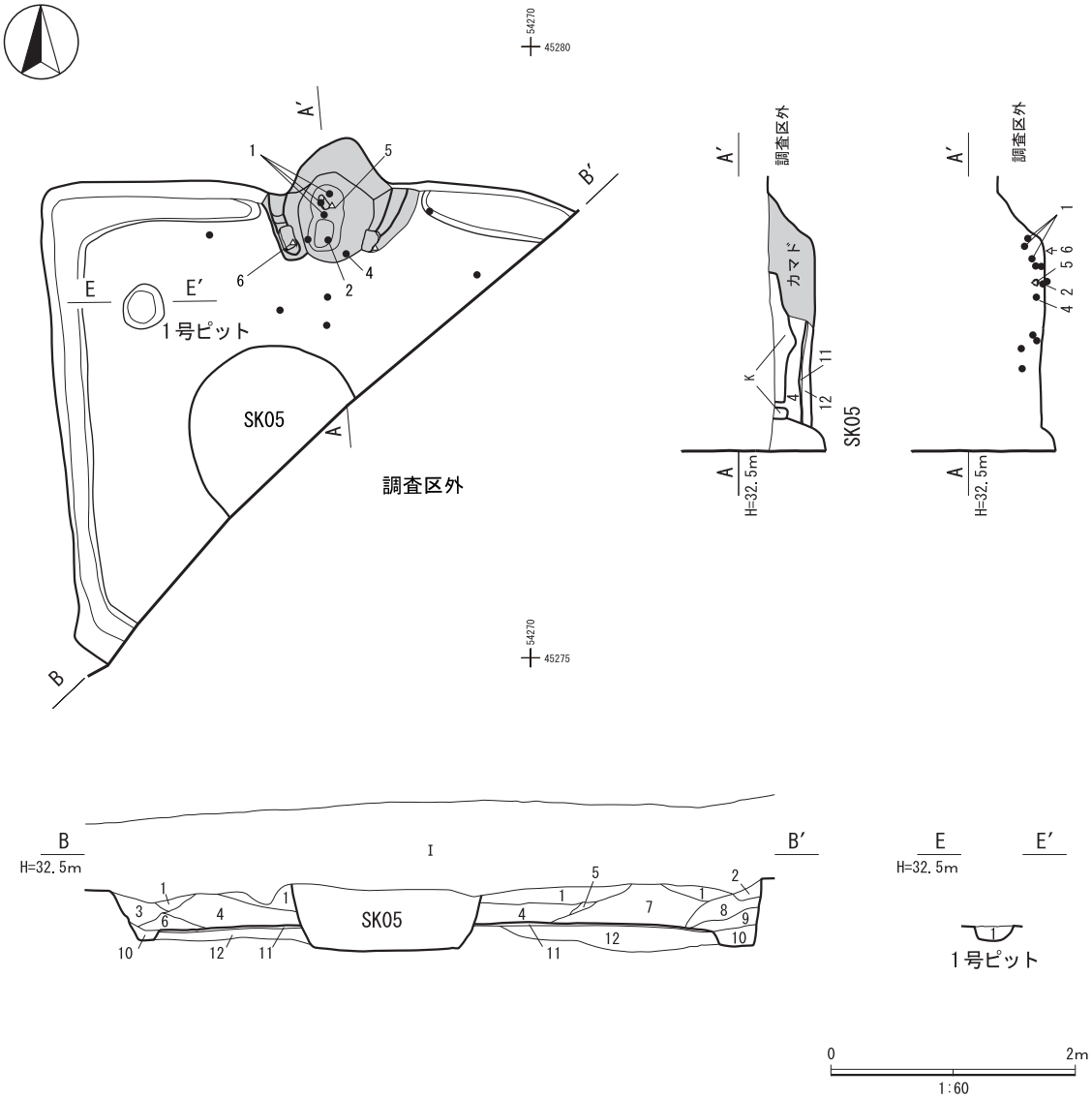
第７表　第１号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI01	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	30	(13.8)	(8.1)	5.2	口縁部わずかに外湾。内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部外面切り離し技法不明ナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	2.5Y5/1黄灰色	木葉下窯跡群	底部外面釈読不明のヘラ記号
2	SI01	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	45	(11.0)	(7.4)	3.9	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面丁寧なナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後丁寧なナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	10YR7/1灰白色	木葉下窯跡群	底部外面釈読不明のヘラ記号
3	SI01	覆土	須恵器	坏	体部～底部	5	－	(7.7)	〈2.5〉	体部内外面回転ナデ。底部内面ロクロ目顕著，底部外面右回転ヘラ切り離し後手持ちナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	2.5Y7/2灰黄色	木葉下窯跡群	底部外面釈読不明のヘラ記号
4	SI01	覆土	須恵器	蓋	端部	10	(16.4)	－	〈2.1〉	端部短く垂下，かえりなし。天井部外面上位右回転ヘラケズリ，下位回転ナデ，内面回転ナデ。	白色粒子・黒色粒子・チャート粒・雲母片	×	良好	2.5Y7/2灰黄色	新治窯跡群	
5	SI01	覆土	土師器	甕	口縁部	5	(21.8)	－	〈8.3〉	常総型甕。口唇部上方につまみ出す。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後丁寧なナデ，内面横方向ヘラナデ後ナデ。最大径胴部。	白色粒子・石英粒子・チャート粒子・雲母片	×	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	－	

第２号住居跡（第 13 ～ 16 図，第８～ 10 表，写真図版２・3・17・18）

１区の南側，標高 32.3 m付近に第１号溝跡および第５号土坑に先行して位置する。住居跡の南側の半分は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，中央部に第５号土坑などが位置することなどからやや不良である。長軸 442 ㎝，短軸現存 396 ㎝の方形を呈し，主軸方位はＮ－２°－Ｗを示す。断面形は概ね箱形を呈し，最大壁高は 40 ㎝ほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は 12 層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，黒褐色土を基調とした厚さ１㎝から３㎝ほどのやや軟弱な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝はカマド部分を除き，確認された範囲で全周して，幅 19 ㎝から 40 ㎝，深さ８㎝から 15 ㎝ほどを測る。柱穴は主柱穴と考えられるピットが１基検出されたが，その他の主柱穴や出入口ピットは調査区外に展開すると考えられ，確認されていない。カマドは住居跡北壁中央部に，北壁を 41 ㎝ほど削り出して構築されていて，Ｎ－４°－Ｅの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 127 ㎝，袖部外側の幅は 103 ㎝を測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる７層や８層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて，浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用していて，芯材として方形に加工した凝灰岩の切石を利用している。また，内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。袖部内側の最大幅は 60 ㎝を測り，火床部は床面から 5.2 ㎝ほど楕円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化して，焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。また，カマドの中央やや北西寄りの位置に，凝灰岩を円柱状に削り出して作製された支脚が検出されている。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の中央部が浅く，ロームブロックが混入する褐色土を基調とした土が，床面から最大 21 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏に富んでいる。遺物は 125 点，9,312.4 ｇが出土している。点数に比べ，重量が大きいのは，カマドの芯材が６点で 6,338.1 ｇと本住居跡から出土した遺物重量の約 68％を占めるためである。内訳は土器が須恵器の坏類や高台付坏類・高台付盤・皿・甕壺類・鉢・蓋，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類である。このうち６点の遺物を図示することができた。１は須恵器の高台付坏，２は盤である。２は口縁部片のため，高台や脚が伴う可能性がある。３はかえりを伴わない蓋である。１から３は，その胎土から木葉下窯跡群産であろう。４は土師器の常総型甕口縁部片である。口縁部片のため最大径は不明である。５は石製支脚である。外面を多面の面取りをして，円柱状に成形している。６は凝灰岩のカマド芯材である。外面を５面の平坦面を造り出し，断面長方形様にする。これは左袖部の芯材であるが，右袖部も破砕した同様の芯材が確認されている。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀中葉の所産であった可能性が高い。

第 14 図　第２号住居跡



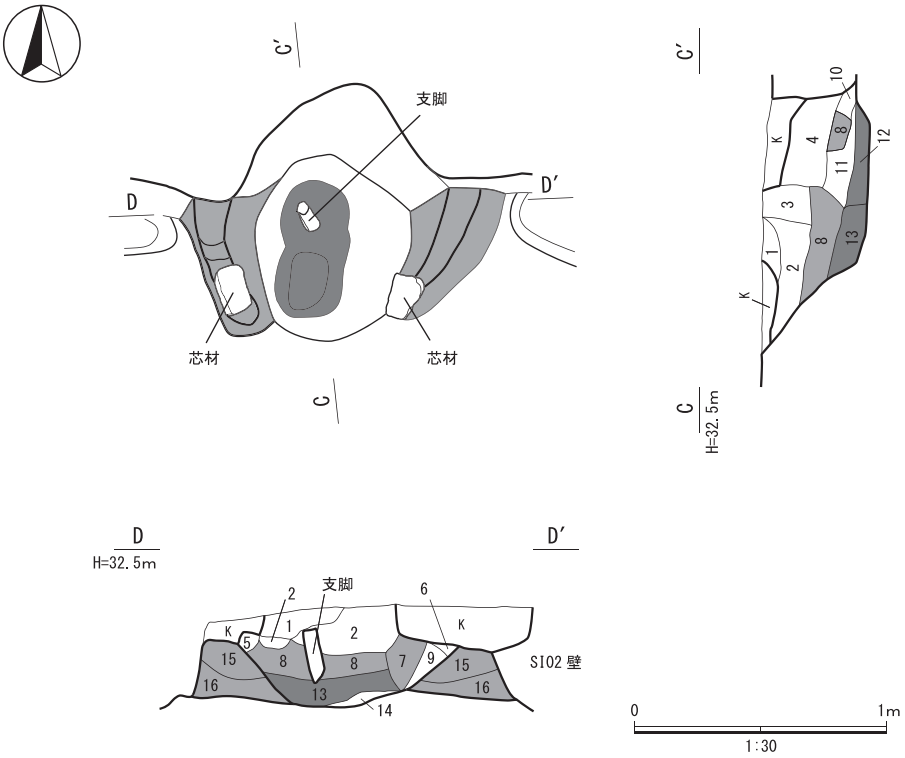
第２号住居跡
1　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
3　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
4　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
5　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
6　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
7　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
8　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
9　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
10　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量，ローム粒子を微量含む。
11　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
12　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を多量に含む。（掘り方）

第２号住居跡１号ピット
1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム土・ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を少量含む。

第８表　第２号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北西	楕円形	筒状	37	34	16	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	主柱穴	―	無し	

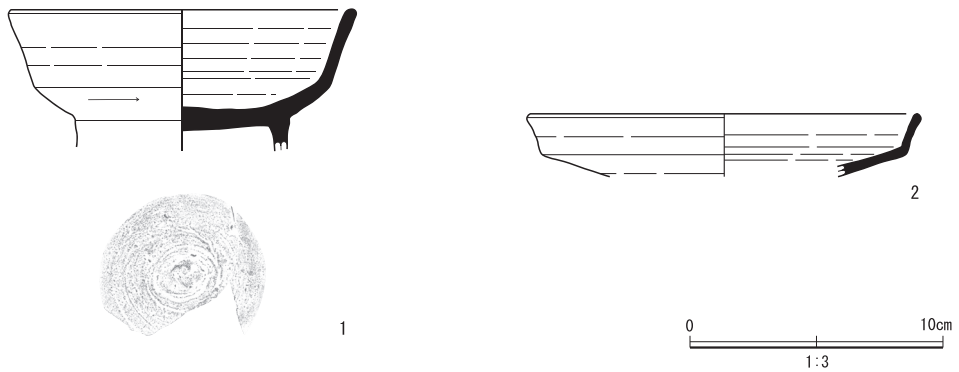
第 15 図　第２号住居跡カマド



第２号住居跡カマド

1	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）を少量，ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
2	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３cm）多量に，焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
3	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
4	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
5	10YR4/6 褐色土層	やや粘性をもち，やや締まる。焼土ブロック（φ２cm）を少量含む。
6	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもつが，締まりに欠ける。ローム粒子を多量に含む。
7	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。黒色土を少量含む。
8	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
9	10YR6/6 明黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土主体。粘土粒子を少量含む。
10	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
11	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。焼土ブロック（φ２cm）・黒色土を少量，焼土粒子を微量含む。
12	2.5YR4/6 赤褐色土層	粘性・締まりに欠ける。焼土ブロック（φ２cm）主体。
13	2.5YR3/6 暗赤褐色土層	粘性・締まりに欠ける。被熱したロームブロック（φ２cm）・焼土ブロック（φ２cm）を多量に含む。（燃焼部）
14	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。（掘り方）
15	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。（袖部）
16	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体，褐色土を少量含む。（袖部）

第 16 図　第２号住居跡の出土遺物（１）



第 17 図　第２号住居跡の出土遺物（２）

第９表　第２号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI02 カマド	覆土	須恵器	高台付坏	口縁部～底部	15	(13.5)	—	〈5.6〉	口縁部直線的に立ち上がる，中央部で角度を変え底部に至る。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部右回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部貼り付け。	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャート粒・小礫	○	良好	2.5Y5/ 暗灰黄色	木葉下窯跡群	
2	SI02 カマド	覆土	須恵器	盤	口縁部	5	(15.4)	—	〈2.5〉	口縁部を大きく折り外傾させる。内外面丁寧なナデ。	白色粒子・黒色粒子・チャート粒	×	良好	2.5Y6/1 黄灰色	木葉下窯跡群	
3	SI02	覆土	須恵器	蓋	端部	10	(17.8)	—	〈2.6〉	端部短く垂下させる。かえりなし。天井部外面左回転ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。	白色粒子・黒色粒子・チャート粒・小礫	○	良好	2.5Y6/2 灰黄色	木葉下窯跡群	
4	SI02 カマド	覆土	土師器	甕	口縁部	10	(19.8)	—	〈6.8〉	常総型甕。口縁部を垂直につまみ出される。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	—	

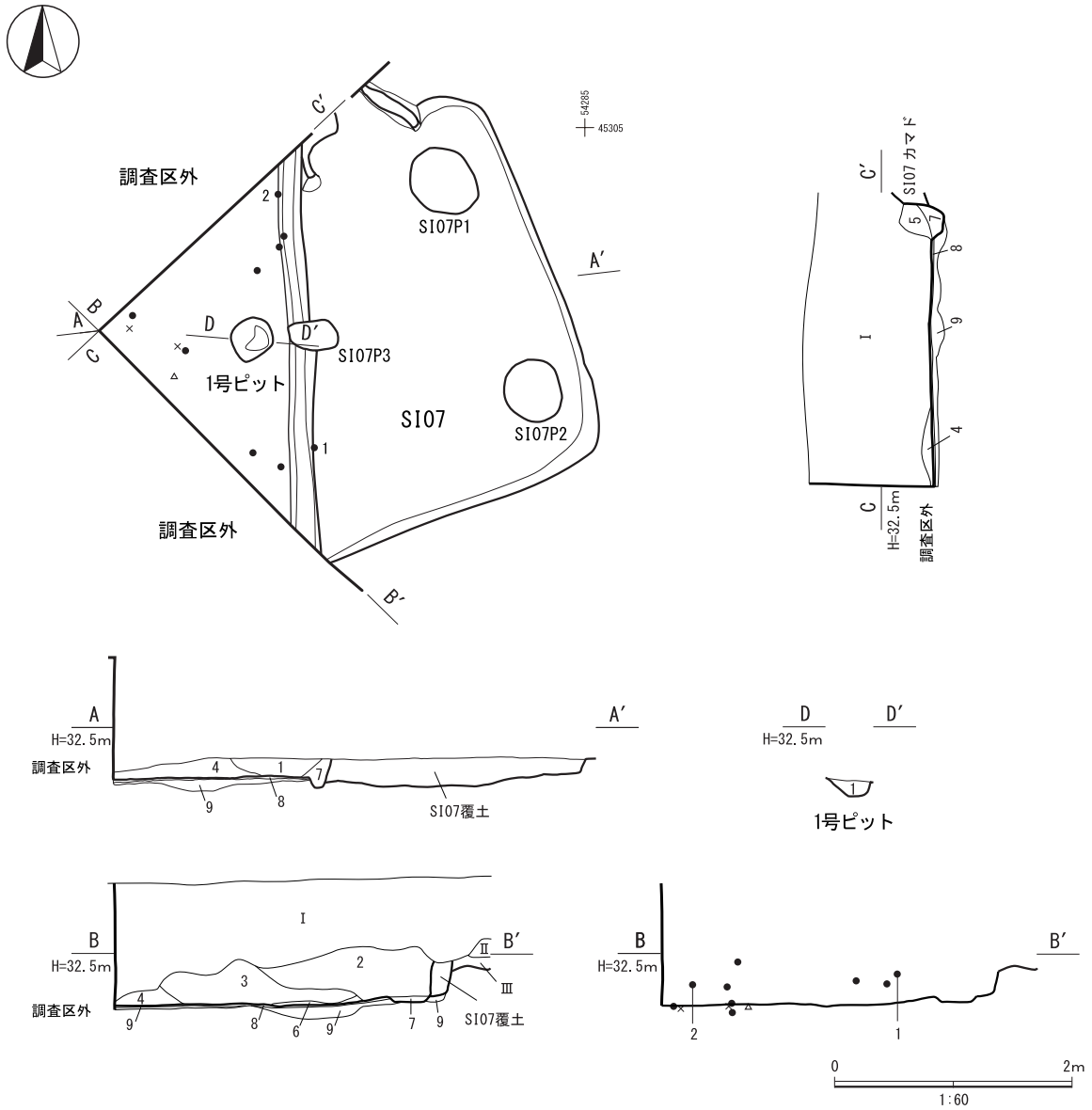
第 10 表　第２号住居跡出土石製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	特徴・手法	備考
5	SI02 カマド	覆土	石製品	支脚	凝灰岩	29.4	8.3	6.0	946.3	側面を細く十面面取りをする。上端は丸味を帯び，下端は未成形。側面被熱。	
6	SI02 カマド	覆土	石製品	カマド芯材	凝灰岩	20.2	13.9	10.7	2510.3	側面を五面面取りをする。両端未整形。全面被熱。	

第３号住居跡（第 17・18 図，第 11・12 表，写真図版３・18）

２区の西側，標高 32.3 m付近に第７号住居跡に後続して位置する。住居跡の東側以外は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，上面に大きな攪乱が位置することなどから不良である。長軸現存 346 cm，短軸現存 183 cmの方形を呈し，主軸方位はＮ－３°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，最大壁高は 16 cmほどを測り，緩やかに立ち上がる。土層は９層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，にぶい黄褐色土を基調とした厚さ１cmから３cmほどの堅固で緻密な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して，幅 19 cmから 23 cm，深さ５cmから９cmほどを測る。柱穴は１基検出されたが，その位置などから主柱穴ではないであろう。その他の柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは検出されていないが，覆土にカマド構築材由来と考えられる粘土粒子が確認されているため，調査区外である北壁に存在すると想定される。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面をロームブロックが混入する褐色土を基調とした土が，床面から最大 10 cmほど及んでいる。底面は起伏に富んでいる。遺物は 115 点，6,185.5 ｇが出土している。点数に比べ，重量が大きいのは，覆土中から砂岩の礫や凝灰岩片が６点で 4,369.6 ｇ出土しているためである。内訳は土器が須恵器の坏類や壺・甕壺類・蓋，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類，灰釉陶器の壺，鉄製品が刀子である。このうち２点の遺物を図示することができた。１は高台付壺の胴部から底部片である。内面に僅かな黒色付着物が確認できる。２は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。この住居跡からは限定的な調査範囲にも関わらず，残存が不良であるが，刀子と考えられる鉄片が２個体以上出土している。刀子はこの調査区において第９号や第 12 号住居跡で出土しているのみである。しかし調査範囲などの制約でこの住居跡の性格まで追うことができなかった。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 18 図　第３号住居跡



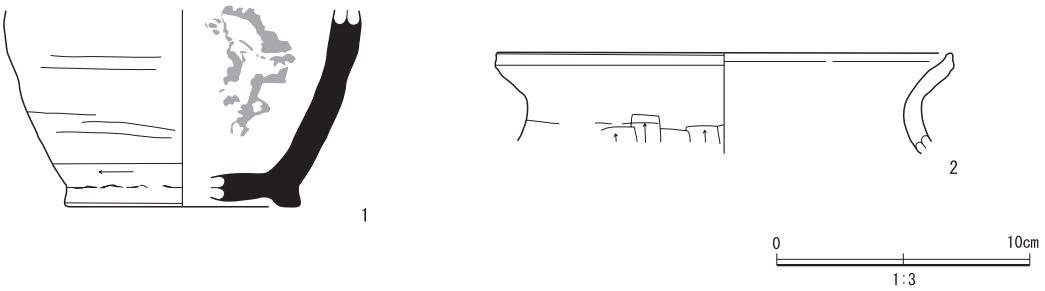
第３号住居跡
1　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
4　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
5　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
6　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
7　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
8　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
9　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３cm）・ローム粒子を多量に含む。（掘り方）

第３号住居跡１号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）を少量、ローム粒子を微量含む。

第 11 表　第３号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	中央やや東	不整楕円形	筒状	37	32	22	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	不明	－	無し	

第 19 図　第３号住居跡の出土遺物



第 12 表　第３号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点	遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI03		覆土	須恵器	高台付壺	胴部～底部	10	－	(9.0)	〈7.7〉	体部内外面回転ナデ。底部外面切り離し技法不明ナデ。外反する高台部を貼り付け。	白色粒子・石英粒子・チャート粒・小礫	×	不良	N 4/0 灰色	木葉下窯跡群ヵ	内面僅かな黒色付着物
2	SI03		覆土	土師器	甕	口縁部	5	(17.9)	－	〈4.0〉	常総型甕。口縁部上端を短くつまみ出す。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。最大径不明。	白色粒子・チャート粒子・雲母片	×	良好	5 YR 6/6 橙色	－	

第４号住居跡（第 19 ～ 21 図，第 13 ～ 16 表，写真図版３・４・18・19）

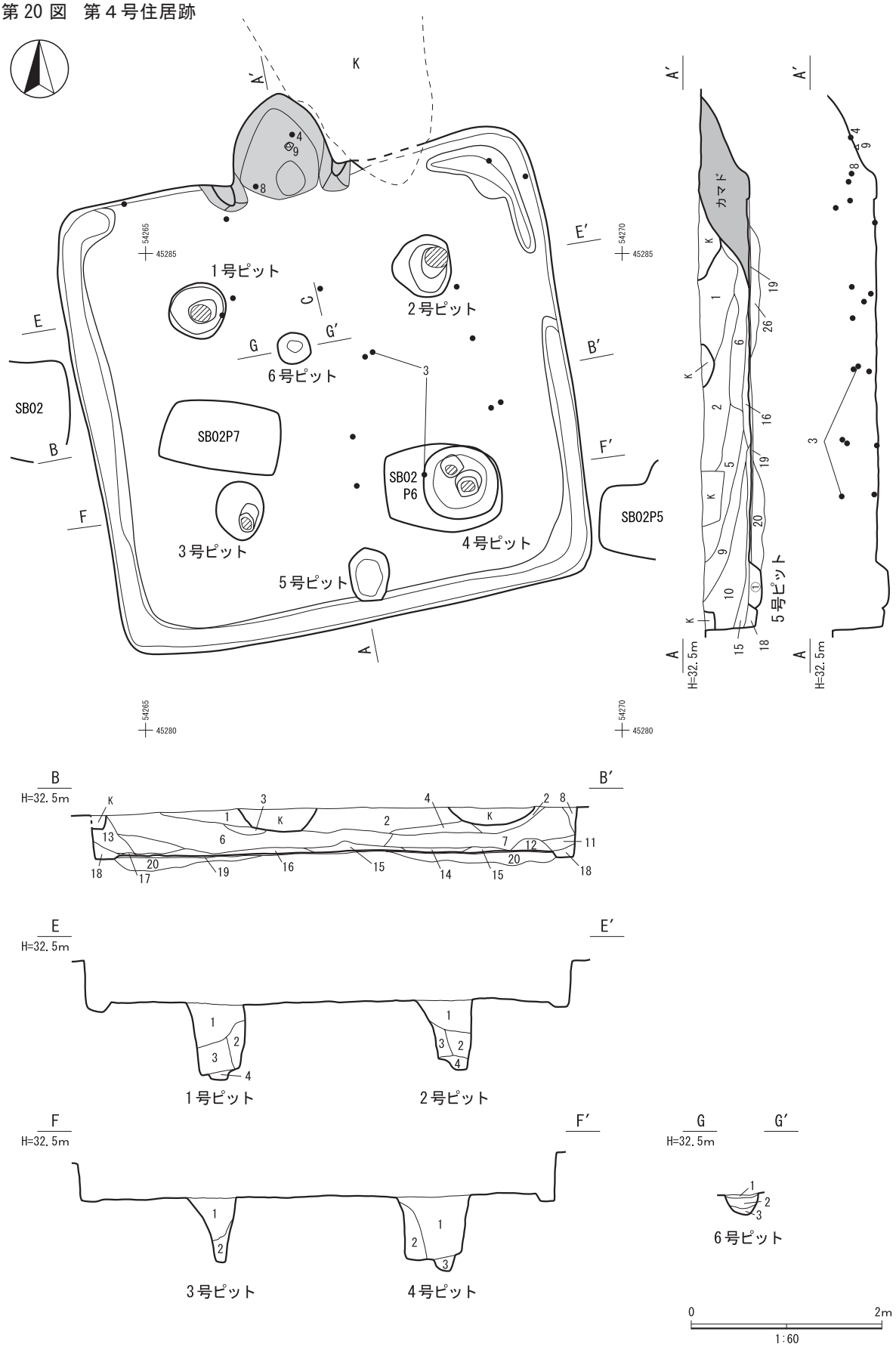
１区の中央部，標高 32.4 m付近に，第２号掘立柱建物跡に後続して位置する。住居跡の遺存度合は，北東側に大きな攪乱が位置することなどからやや不良である。長軸 508 cm，短軸 486 cmの方形を呈し，主軸方位はＮ－ 11°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 54 cmほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は 20 層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，黒褐色土を基調とした厚さ２cmから３cmほどの堅固で緻密な貼床が，全面に形成されている。壁溝は，北壁際および東壁際の一部を除き存在して，幅 24 cmから 39 cm，深さ３cmから 11 cmほどを測る。柱穴は６基検出されたが，このうち主柱穴は１号ピットから４号ピットの４基，出入口ピットはその位置から５号ピット考えられる。カマドは住居跡北壁中央部に，北壁を 85 cmほど削り出して構築されていて，Ｎ－ 10°－Ｗの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 159 cm，袖部外側の幅は 110 cmを測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトや明黄褐色シルトが主体的に含まれる４層から６層や９層・11・15 層が崩落土と考えられる。袖部は遺存度が悪く，全体的に攪乱などで大きく削平されているが，地山を袖状に削り残し，そこに浅黄橙色シルトを貼り付けて袖部としている。袖部は攪乱で一部削平されているが，概ね良好である。袖部内側の最大幅は 81 cmを測り，火床部は床面から４cmほど円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は上面に焼土が多量に拡がり，底面は赤変硬化して，焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。カマド中央の位置に，凝灰岩を円柱状に削り出して作製されたと考えられる支脚が検出されていが，

上面を攪乱で削られているうえ，被熱のため，細片で取り上げることしかできなかった。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の中央部が浅く，ロームブロックが混入する暗褐色土を基調とした土が，床面から最大 14 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 436 点，9,181.2 g が出土している。内訳は土器が縄文土器は早期稲荷原式期,前期黒浜式期,中期加曽利 E 式期の深鉢,須恵器は坏類や高台付坏類・高台付盤・壺・甕壺類・蓋，土師器の坏類や甕壺類・蓋，石製品が凝灰岩製の支脚，鉄製品が釘である。このうち９点の遺物を図示することができた。１は底部外面「｜」ヘラ記号を伴う須恵器坏である。２・３は須恵器の高台付坏，４は底部外面釈読不明のヘラ記号を伴う須恵器高台付盤,５は須恵器の甕口縁部片である。外面に黒色付着物が確認できる。６はかえりを伴わない須恵器の蓋である。１から６は，その胎土から木葉下窯跡群産であろう。７は内面を黒色処理されている，かえりを伴わない土師器の蓋である。８は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。９は凝灰岩製の石製支脚である。外面を複数面の面取りをして円柱状に成形している。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況より９世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 13 表　第４号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（㎝）	短径（㎝）	深さ（㎝）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（㎝）	断面柱痕					
1号ピット	北西	円形	有段筒状	61	－	77	ほぼ垂直	丸味を帯びる	1	円形・中央	20	－	自然	主柱穴	－	土師器甕	
2号ピット	北東	不整円形	有段筒状	63	－	75	ほぼ垂直	起伏をもつ	2	円形・北東	23・24 × 〈12〉	－	自然	主柱穴	－	須恵器坏 土師器甕	
3号ピット	南西	楕円形	逆円錐状	61	51	67	急角度	起伏をもつ	2	楕円形・南東	14 × 11・17 × 〈11〉	－	自然	主柱穴	－	須恵器坏 土師器甕	
4号ピット	南東	円形	有段筒状	77	－	74	ほぼ垂直	平坦	2	隅丸方形および円形・中央やや東側および中央	21 × 20・30	有り	自然	主柱穴	SB02P6 に後続	土師器甕	
5号ピット	南側中央	楕円形	筒状	57	41	14	ほぼ垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	出入口ピット	－	無し	
6号ピット	中央	円形	筒状	33	－	21	緩やか	起伏をもつ	－	－	－	－	自然	不明	－	須恵器坏・高台付坏 土師器甕	

第 20 図　第４号住居跡


K
A′
1号ピット
2号ピット
6号ピット
SB02
SB02P7
SB02
P6
SB02P5
3号ピット
4号ピット
5号ピット
E
E′
B
B′
F
F′
G
G′
C
A
カマド
5号ピット
H=32.5m
54265
45285
54270
45280
1号ピット
2号ピット
3号ピット
4号ピット
6号ピット
0
2m
1:60

第４号住居跡

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
２	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
３	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。暗褐色土を少量，ローム粒子を微量含む。
４	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）・ローム粒子を少量含む。
５	10YR4/6 明黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３cm～５cm）・ローム粒子・ローム土を多量に含む。
６	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
７	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土ブロック（φ１cm）を少量，焼土粒子を微量含む。
８	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に，ローム粒子を少量含む。
９	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子・炭化粒子を微量含む。
10	10YR3/4 暗褐色土層	ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
11	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量，ローム粒子を微量含む。
12	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
13	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
14	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
15	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に，ローム粒子を微量含む。
16	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子・粘土粒子を微量含む。
17	2.5YR4/6 赤褐色土層	粘性に欠け，やや締まる。焼土ブロック（φ１cm）を多量に含む。
18	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
19	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
20	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。（掘り方）

第４号住居跡１号ピット

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・黒色土粒子を少量含む。
２	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm～２cm）・ローム粒子を少量含む。
３	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。
４	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に，ローム粒子を少量含む。

第４号住居跡２号ピット

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・黒色土粒子を少量含む。
２	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。
３	10YR4/6 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。
４	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に，ローム粒子を少量含む。

第４号住居跡３号ピット

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・黒色土粒子を少量含む。
２	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。

第４号住居跡４号ピット

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・黒色土粒子を少量含む。
２	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm～２cm）・ローム粒子を少量含む。
３	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に，ローム粒子を少量含む。

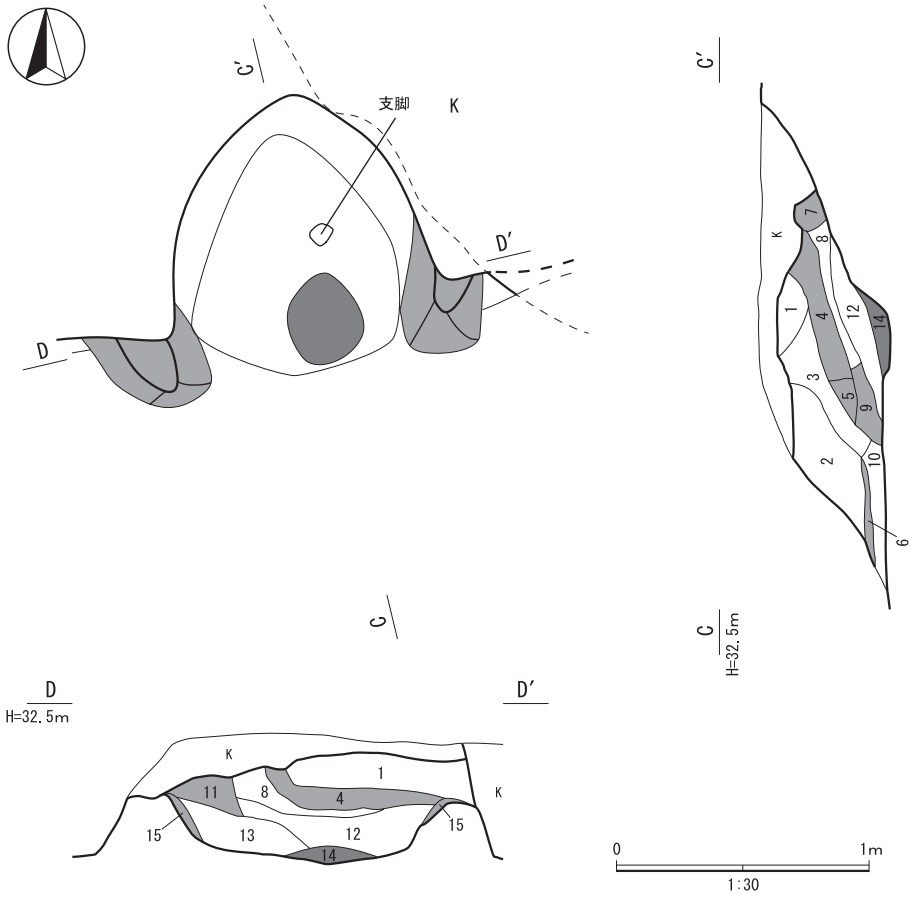
第４号住居跡５号ピット

①	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

第４号住居跡６号ピット

１	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
２	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ５cm）・ローム粒子を多量に含む。
３	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

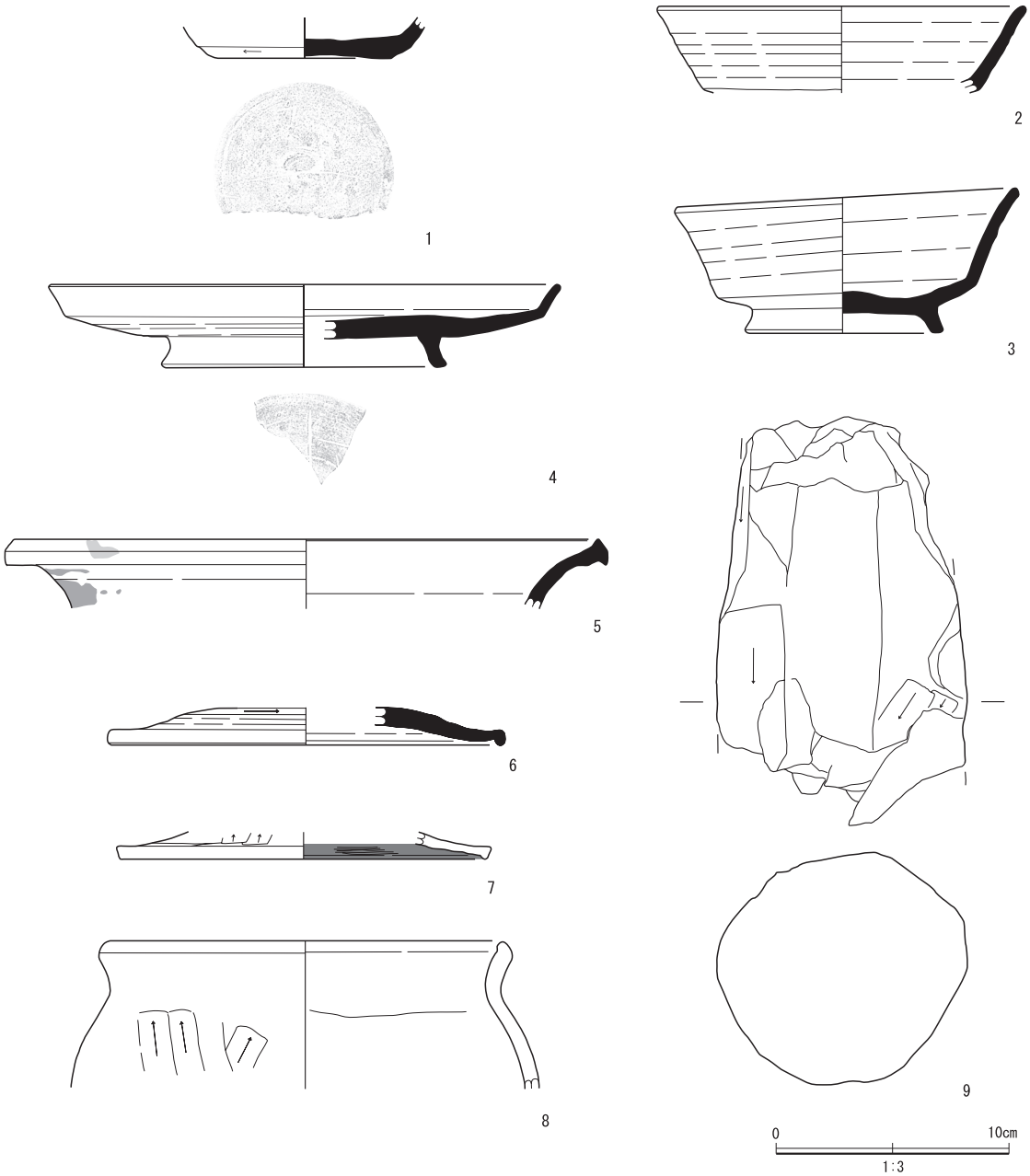
第21図　第４号住居跡カマド



第４号住居跡カマド

1	2.5YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
2	2.5YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
3	2.5YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック（φ２cm）を少量含む。
4	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土ブロック（φ２cm）を多量に，焼土ブロック（φ１cm）を微量含む。
5	10YR8/4 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子，黒色土を多量に含む。
6	10YR8/4 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土ブロック（φ３cm）を多量に，粘土粒子を少量含む。
7	10YR8/4 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
8	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
9	10YR8/4 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
10	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
11	10YR7/6 明黄褐色シルト層	粘性に欠け，締まる。黒色土を少量含む。
12	2.5YR4/6 赤褐色土層	やや粘性をもち，やや締まりに欠ける。焼土ブロック（φ１cmから３cm），焼土粒子を少量含む。
13	10R4/8 赤色土層	粘性に欠け，やや締まる。焼土ブロック（φ１cm～２cm）を多量に，焼土粒子・粘土ブロック（φ１cm～２cm）・粘土粒子を少量含む。
14	10R4/8 赤色土層	粘性に欠け，やや締まる。焼土ブロック（φ１cm～２cm）・焼土粒子を多量に，粘土ブロック（φ１cm～２cm）・粘土粒子を少量含む。（燃焼部）
15	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。

第 22 図　第４号住居跡の出土遺物



第 14 表　第４号住居跡出土土器属性一覧（１）

図版番号	出土地点	遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI04		覆土	須恵器	坏	底部	10	―	7.3	〈1.7〉	体部外反回転ナデ。底部内面右回転巻き上げ痕，外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子・チャート粒・小礫	○	良好	2.5Y 7/1 灰白色	木葉下窯跡群	底部外面「｜」ヘラ記号
2	SI04		覆土	須恵器	高台付坏	口縁部～底部	5	(5.6)	―	(3.8)	体部下端角度を変え直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，ロクロ目顕著，内面丁寧なナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・小礫	○	良好	10YR 6/2 灰黄褐色	木葉下窯跡群	
3	SI04		覆土	須恵器	高台付坏	口縁部～底部	75	14.5	8.3	6.3	体部わずかに外反して立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ，外面ロクロ目顕著，内面丁寧なナデ。底部内面丁寧なナデ，外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部貼り付け。	白色粒子・石英粒・チャート粒・小礫	○	良好	5Y 5/1 灰色	木葉下窯跡群	

第 15 表　第４号住居跡出土土器属性一覧（２）

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
4	SI04 カマド	覆土	須恵器	高台付盤	口縁部～底部	5	－	(12.0)	3.6	口縁部短く外反する。内外面ヨコナデ。体部内外面丁寧なナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部貼り付け。体部内面に自然釉。	白色粒子・石英粒・チャート粒・小礫	○	良好	7.5ＹＲ 6/2 灰褐色	木葉下窯跡群	底部外面釈読不明のヘラ記号
5	SI04	覆土	須恵器	甕	口縁部	5	(25.0)	－	〈3.0〉	口縁部外側に開き，口唇部をＴ字状に成形して上端を二面面取り。口縁部内外面ヨコナデ。内外面に自然釉。	白色粒子・黒色粒子・石英粒子・チャート粒子	×	良好	5Ｙ 7/1 灰色 釉：5Ｙ 3/1 オリーブ黒色	木葉下窯跡群	外面に黒色付着物
6	SI04	覆土	須恵器	蓋	天井部～端部	5	(16.8)	－	〈1.6〉	端部短く垂下させる，かえりなし。天井部外面右回転ヘラケズリ後ナデ，内面回転ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	10ＹＲ 6/1 褐灰色	木葉下窯跡群	
7	SI04	覆土	土師器	蓋	端部	5	(15.6)	－	〈1.2〉	端部短く垂下させる，かえりなし。天井部外面ナデ，内面丁寧なナデ。内面黒色化。	白色粒子・長石粒子	×	良好	10ＹＲ 5/4 にぶい黄褐色	－	
8	SI04 カマド	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	5	(16.9)	－	〈6.3〉	常総型甕。口唇部肥厚して，内側につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	2.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	－	

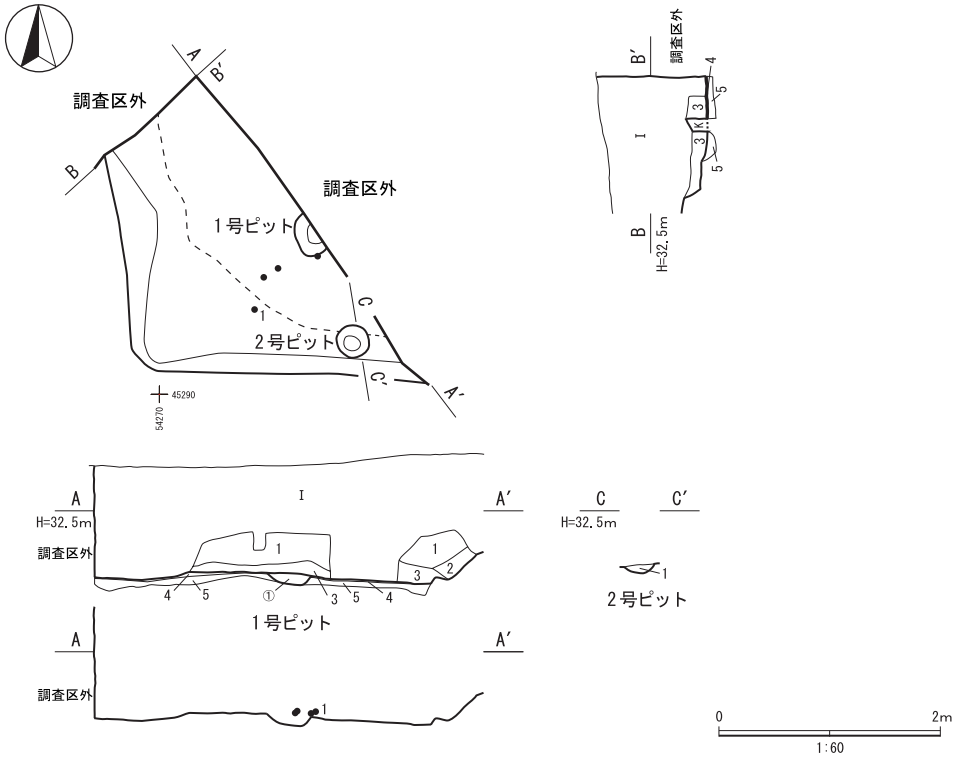
第 16 表　第４号住居跡出土石製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（ｇ）	特徴・手法	備考
9	SI04 カマド	覆土	石製品	支脚	凝灰岩	〈18.8〉	10.7	10.0	1022.8	上方に窄まる円柱状。外面は面数不明だが，複数面の面取り。全面被熱。	

第５号住居跡（第 22・23 図，第 17・18 表，写真図版４・19）

１区の北東側，標高 32.2ｍ付近に単独で位置する。住居跡の南西部分以外は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，上面の攪乱やトレンチャー痕などが原因で不良である。長軸現存 267 ㎝，短軸現存 266 ㎝の推定隅丸方形を呈し，主軸方位はＮ－２°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，最大壁高は 28 ㎝ほどを測り，緩やかに立ち上がる。土層は５層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面はやや起伏をもち，にぶい黄褐色土を基調とした厚さ１㎝から４㎝ほどの軟弱な貼床が，住居跡中央部を中心に形成されている。壁溝は検出されていない。柱穴は２基検出されたが，主柱穴は不明である。また，出入口ピットはその位置から２号ピットの可能性が高い。カマドは検出されていないが，本遺跡の傾向として調査区外である北壁に位置すると考えられる。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面を，ローム ブロックが混入する明黄褐色土を基調とした土が，床面から最大 11 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏に富む。遺物は 22 点，304.4 ｇと少数にとどまっている。内訳は土器が須恵器の坏類や盤・鉢・蓋，土師器の坏類や甕壺類である。このうち１点の遺物を図示することができた。１は須恵器の坏である。体部外面にロクロ目が顕著に残り，胎土に海綿骨針が含まれる木葉下窯跡群の遺物である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況より９世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 23 図　第５号住居跡



第５号住居跡

1　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
2　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
3　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量含む。
4　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
5　10YR7/6 明黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に含む。（掘り方）

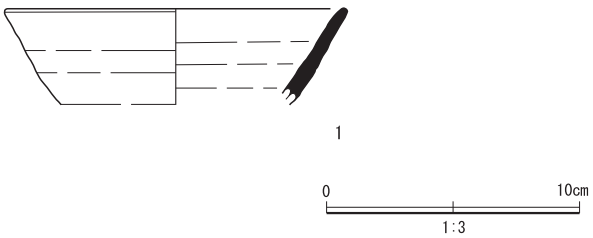
第５号住居跡１号ピット
①　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

第５号住居跡２号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

第 17 表　第５号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	中央	楕円形	筒状	39	〈20〉	21	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	不明	―	無し	北東側 1/2 が調査区外
2号ピット	南側中央	円形	筒状	29	―	12	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	出入口ピットか	―	無し	

第 24 図　第５号住居跡の出土遺物



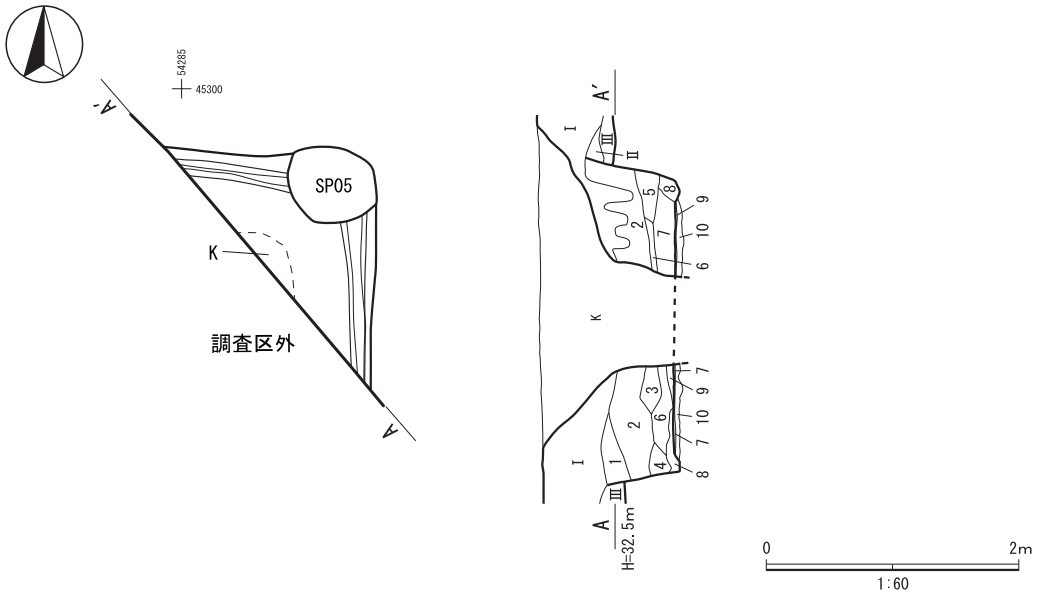
第 18 表　第５号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI05	覆土	須恵器	坏	口縁部～体部	5	(13.4)	―	〈3.9〉	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ロクロ目を残し，回転ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子・石英粒	○	良好	5Y 6/2 灰オリーブ色	木葉下窯跡群	

第６号住居跡（第 24 図，写真図版４）

２区の南西側，標高 32.5 m付近に第５号ピットに先行して位置する。住居跡の北東側以外は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，中央部に大きな攪乱が位置することなどからやや不良である。長軸現存 174 cm，短軸現存 172 cmの推定方形を呈し，主軸方位はＮ－５°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 48 cmほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は 10 層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，にぶい黄褐色土を基調とした厚さ１cmから４cmほどの堅固で緻密な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して，幅 15 cmから 27 cm，深さ４cmほどを測る。柱穴やカマド，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面に，ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が，床面から最大６cmほど及んでいる。底面はやや起伏をもつ。遺物は３点，13.9 g とごく少量にとどまる。内訳は土器が須恵器の坏類，土師器の甕壺類である。しかし，すべて細片のため図示することはできなかった。出土遺物が少数のため判断が難しいが，遺構の形状や覆土の状況，重複関係より９世紀代の所産であった可能性が高い。

第 25 図　第６号住居跡

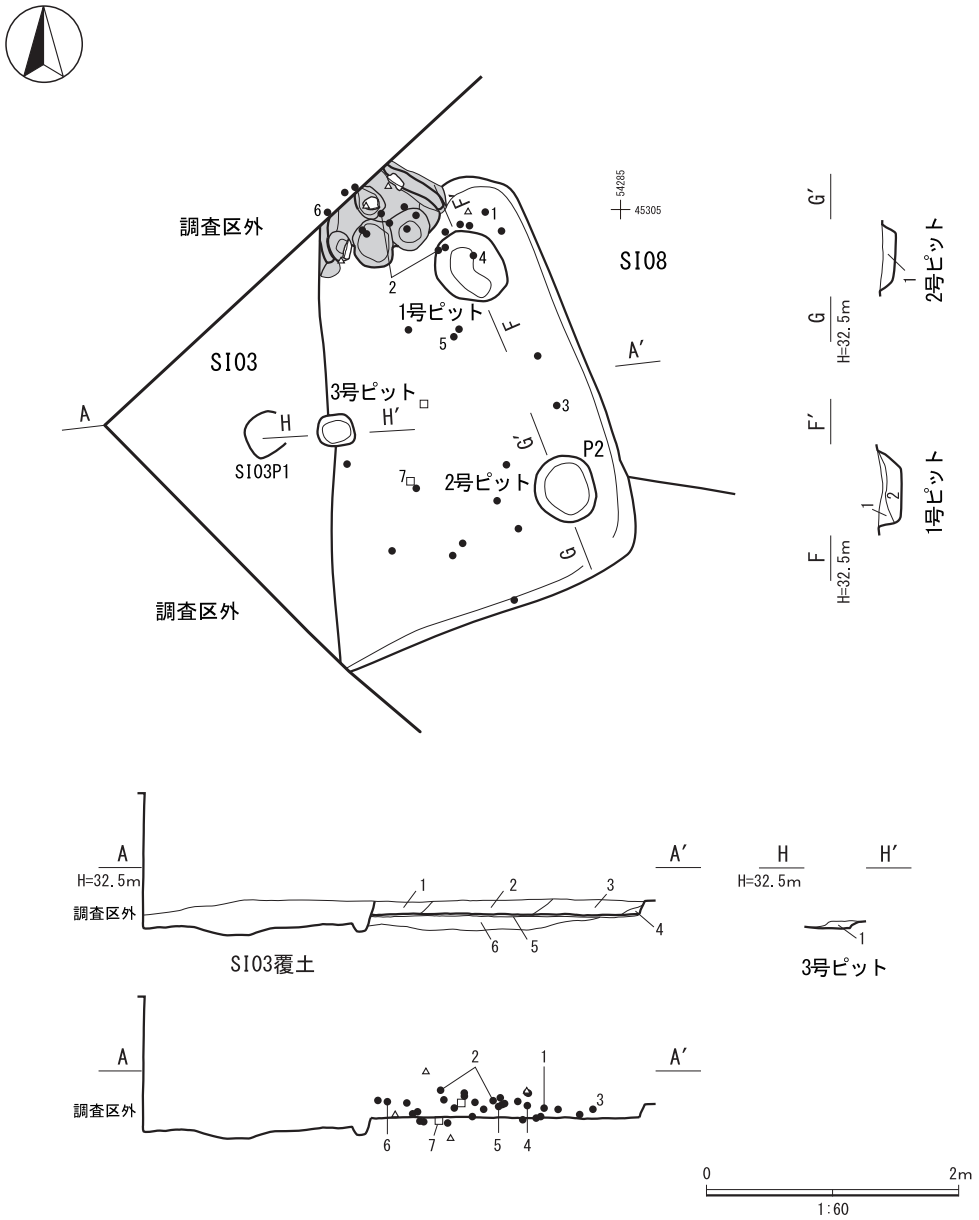


第６号住居跡
1　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
2　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・褐色土を少量含む。
3　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・黒色土を少量含む。
4　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量，ロームブロック（φ１cm）を微量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
6　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・黒色土を少量，ロームブロック（φ２cm）を微量含む。
7　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を少量含む。
8　10YR5/8 黄褐色土層　粘性をもつが，締まりに欠ける。ロームブロック（φ１cm～４cm）主体，黒色土を少量含む。
9　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
10　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量含む。（掘り方）

第７号住居跡（第 25 ～ 27 図，第 19 ～ 22 表，写真図版４・５・20）

２区の西側，標高 32.5 m付近に，第３号住居跡に先行，第８号住居跡に後続して位置する。住居跡のカマド煙道の一部が調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，上面が攪乱で削平され，第３号住居跡に掘り込まれていることからやや不良である。長軸 333 cm，短軸現存 267 cmの隅丸方形を呈し，主軸方位はＮ－ 22°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，最大壁高は 37 cmほどを測り，緩やかに立ち上がる。土層は６層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，黒褐色土を基調とした厚さ１cmから３cmほどの堅固で緻密な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は検出されていない。柱穴は３基検出され，このうち主柱穴は１・２号ピットの２基である。その他の主柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは住居跡北壁の東寄りに，北壁を確認された範囲で 33 cmほど削り出して構築されていて，Ｎ－ 25°－Ｗの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 118 cm，袖部外側の幅は確認された範囲で 72 cmを測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の明黄褐色シルトやにぶい黄褐色シルトが主体的に含まれる２層や８層が崩落土と考えられる。袖部は上面を攪乱に削平されているが概ね良好に遺存していて，浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用していて，芯材として厚さ５cmほどに打ち欠いた凝灰岩を利用している。袖部内側の最大幅は 92 cmを測り，火床部は床面から７cmほど円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化して，焼土のブロック化が僅かに確認されている。火床面から煙道部は段を持ち，緩やかに立ち上がる。カマド中央部に，凝灰岩を円柱状に削り出して制作された支脚が検出されている。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の中央部を深く掘り窪められ，ロームブロックが混入する暗褐色土を基調とした土が,床面から最大 11 cmほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 454 点，11,919.5 ｇが出土している。内訳は土器が縄文時代中期加曽利Ｅ式期の深鉢，弥生時代後期十王台式期の甕壺類，須恵器の坏類や高台付坏類・高台付盤・高盤・壺・甕壺類・鉢・蓋，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類，石製品の凝灰岩製支脚やカマド芯材，平瓦，凝灰岩の礫である。このうち７点の遺物を図示することができた。１から３は体部に膨らみをもつ土師器の坏である。３は内面黒色処理が施され,外面の一部にもその影響が確認される。また，底部外面に渦巻き状のヘラ書きが確認される。４・５は土師器の高台付坏である。内面を黒色処理が施され，４が体部外面に黒色付着物，５は底部外面に僅かだが，墨様の付着物が確認される。７は凸面がナデ整形される平瓦である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 26 図　第７号住居跡



第７号住居跡
1　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
3　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。
4　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
6　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。（掘り方）

第７号住居跡１号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量，ローム粒子を微量含む。

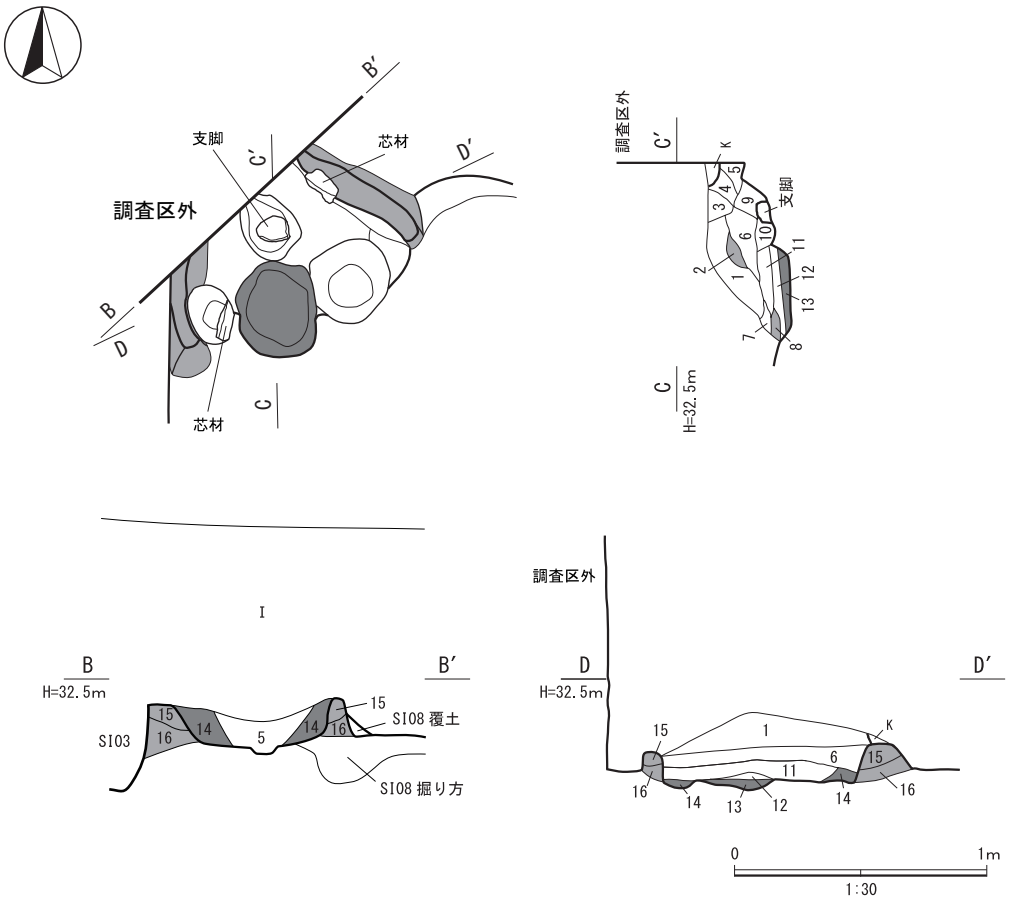
第７号住居跡２号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

第７号住居跡３号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

第 19 表　第７号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北東	楕円形	筒状	61	52	20	緩やか	やや起伏をもつ	―	―	―	―	自然	主柱穴	―	土師器坏	
2号ピット	南東	楕円形	筒状	53	48	12	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	主柱穴	―	土師器坏・甕	
3号ピット	中央	楕円形	皿状	28	24	13	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	不明	―	無し	

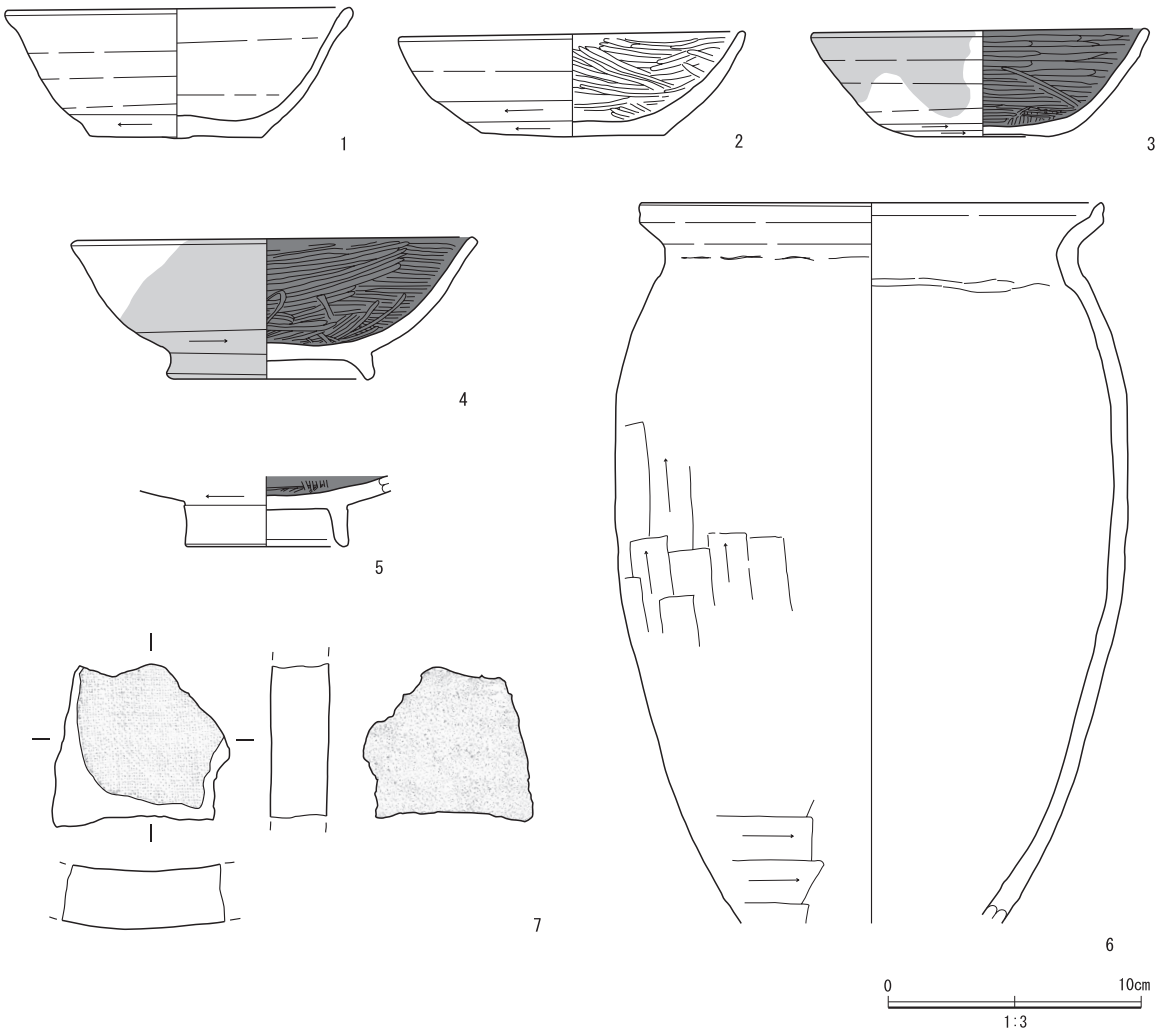
第 27 図　第７号住居跡カマド



第７号住居跡カマド

1	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
2	10YR7/6 明黄褐色シルト層	粘性に欠け，締まる。黒色土を少量含む。
3	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもつが，締まりに欠ける。焼土ブロック（φ 0.5 cm）を多量に，焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
4	2.5YR3/6 暗赤褐色土層	やや粘性をもち,締まる。焼土ブロック（φ 0.5 cm）を多量に,焼土粒子･粘土ブロック（φ 0.5 cm)･粘土粒子を少量含む。
5	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
6	2.5YR4/6 赤褐色土層	やや粘性をもち，やや締まりに欠ける。焼土ブロック（φ１cmから３cm），焼土粒子を少量含む。
7	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土を多量に含む。
8	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト層	粘性をもち，やや締まる。粘土粒子を多量に，粘土ブロック（φ１cm～４cm）・黒色土を少量含む。
9	2.5YR4/6 赤褐色土層	やや粘性をもつが，やや締まりに欠ける。焼土ブロック（φ２cmから３cm）・焼土粒子を少量含む。
10	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。粘土粒子を多量に，粘土ブロック（φ１cm）・焼土粒子を少量含む。
11	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
12	2.5YR4/6 赤褐色土層	やや粘性をもつが，やや締まりに欠ける。焼土ブロック（φ１cmから３cm）主体。(燃焼部)
13	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を微量含む。
14	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に，焼土粒子を少量含む。(燃焼部)
15	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。(袖部)
16	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，褐色土を少量含む。(袖部)

第 28 図　第７号住居跡の出土遺物



第 20 表　第７号住居跡出土土器属性一覧（１）

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI07	覆土	土師器	坏	口縁部～底部	90	13.5	6.8	5.2	口縁部わずかに外反して，底部わずかに突出，体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面丁寧なナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小礫	×	良好	7.5ＹＲ 7/4 にぶい橙色	－	
2	SI07	カマド・覆土	土師器	坏	口縁部～底部	80	13.5	7.1	4.2	体部わずかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ。底部外面左回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子・チャート粒・小礫	×	良好	7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	－	
3	SI07	覆土	土師器	坏	口縁部～底部	65	13.1	5.4	4.3	内黒坏。体部わずかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ、下端右方向手持ちヘラケズリ，内面丁寧なナデ後横方向ミガキ。底部内面一方向ミガキ，外面右方向回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒・小礫	×	良好	10ＹＲ 6/2 灰黄褐色	－	体部外面一部黒色化，渦巻状のヘラ書き
4	SI07	覆土	土師器	高台付坏	口縁部～底部	80	15.7	7.7	5.7	内黒坏。体部にわずかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ，内面横及び斜方向のミガキ。底部内面多方向のミガキ，底部外面左回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部貼り付け。	白色粒子・石英粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	－	体部外面全面に黒色付着物

第 21 表　第７号住居跡出土土器属性一覧（２）

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
5	SI07	覆土	土師器	高台付坏	底部	25	－	6.2	〈2.8〉	底部内面黒色化，多方向の弱いミガキ，外面左回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部環状，貼り付け。	白色粒子・石英粒	×	良好	7.5ＹＲ 7/4 にぶい橙色	－	底部僅かな外面墨状の痕跡
6	SI07 カマド	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	15	(18.2)	－	〈28.6〉	常総型甕。口唇部上方につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位から中位縦方向ヘラナデ後ナデ。最大径は胴部上位。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ 5/6 明褐色	－	

第 22 表　第７号住居跡出土瓦属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	全長（cm）	全幅（cm）	厚さ（cm）	重量（ｇ）	凹面痕跡	凹面調整	凸面痕跡	凸面調整	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
7	SI07	覆土	平瓦	〈6.3〉	〈6.9〉	2.2	118.3	目の細かい布目	－	－	丁寧なナデ	白色粒子・石英粒	×	良好	10ＹＲ 5/2 灰黄褐色	一枚造り

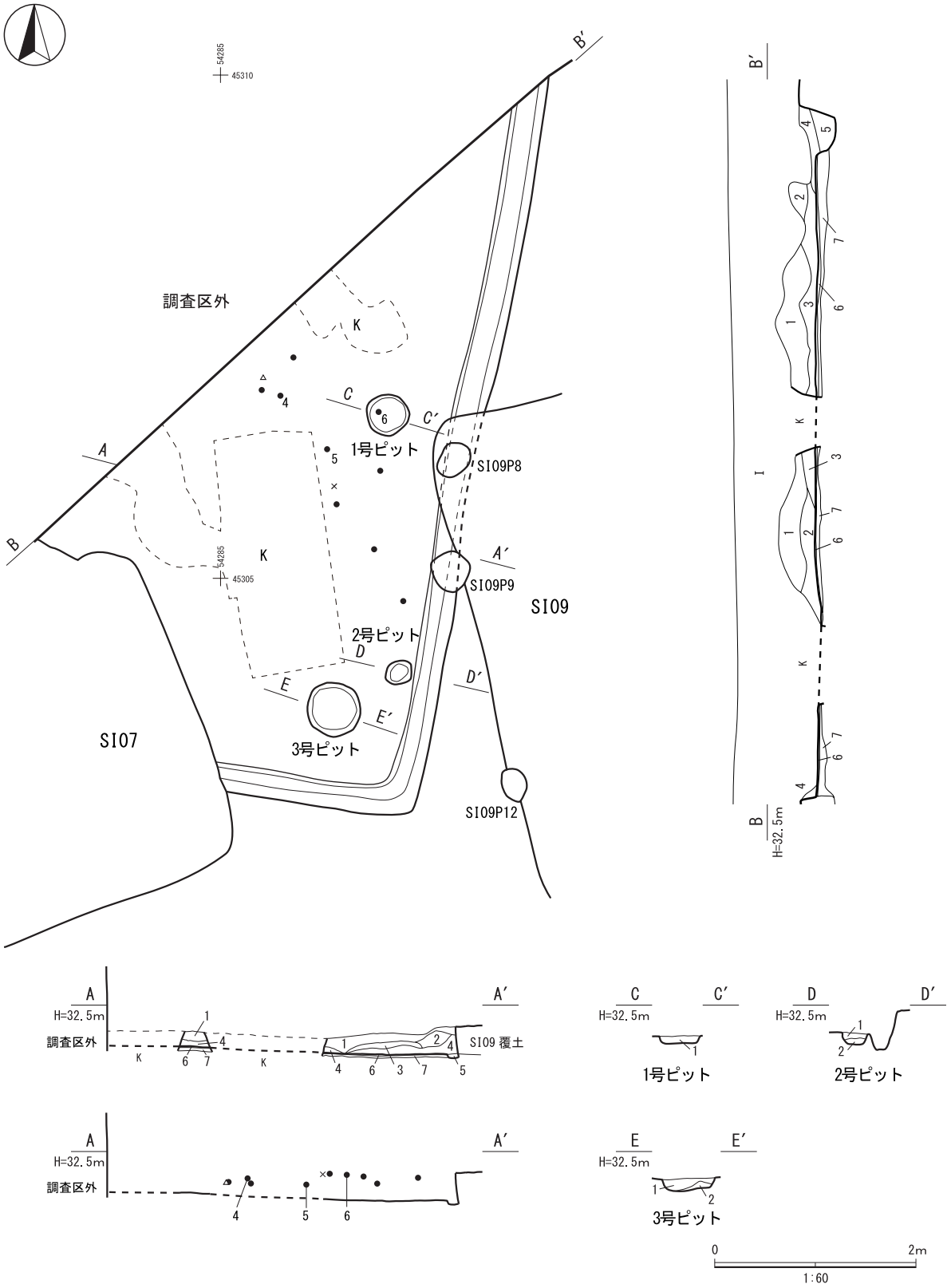
第８号住居跡（第 28・29 図，第 23・24 表，写真図版５・21）

２区の西側，標高 32.5 m付近に，第７号・９号住居跡に先行して位置する。住居跡の中央部から北西側が調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，中央部や上面に大きな攪乱が位置することや南西側が第７号住居跡で掘り込まれていることなどからやや不良である。長軸現存 756 ㎝，短軸現存 427 ㎝の方形を呈し，主軸方位はＮ－ 11°－Ｅを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 28 ㎝ほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は７層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，にぶい黄褐色土を基調とした厚さ１㎝から２㎝ほどの堅固で緻密な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して，幅 28 ㎝から 34 ㎝，深さ４㎝から 20 ㎝ほどを測る。柱穴は３基検出されたが，このうち主柱穴は１号・３号ピットの２基，その他の主柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは検出されていないが，覆土に粘土粒子や焼土粒子が確認されていることや，本調査地点の傾向から調査区外である北壁に位置すると考えられる。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の中央部が浅く，ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が，床面から最大 14 ㎝ほど及んでいる。底面はやや起伏に富む。遺物は 120 点，4,919.3 ｇが出土している。内訳は土器が縄文時代前期黒浜式期，中期加曽利Ｅ式期の深鉢，弥生時代後期十王台式期の甕壺類，須恵器の坏類や壺・甕壺類・鉢・蓋，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類，鉄滓や安山岩の礫である。このうち５点の遺物を図示することができた。１は短いかえりを伴う須恵器の蓋である。２から４は土師器の坏である。３は器面に赤彩が施される。５は土師器の常総型甕である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より７世紀後葉から８世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 23 表　第８号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	東	円形	逆台形状	40	－	7	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	無し	
2号ピット	南東	円形	筒状	28	－	13	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	不明	－	無し	
3号ピット	南東	円形	逆台形状	56	－	13	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	無し	

第 29 図　第８号住居跡


調査区外
K
1号ピット
SI09P8
SI09P9
SI09
2号ピット
3号ピット
SI07
SI09P12
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
H=32.5m
SI09 覆土
1号ピット
2号ピット
3号ピット
0
2m
1:60

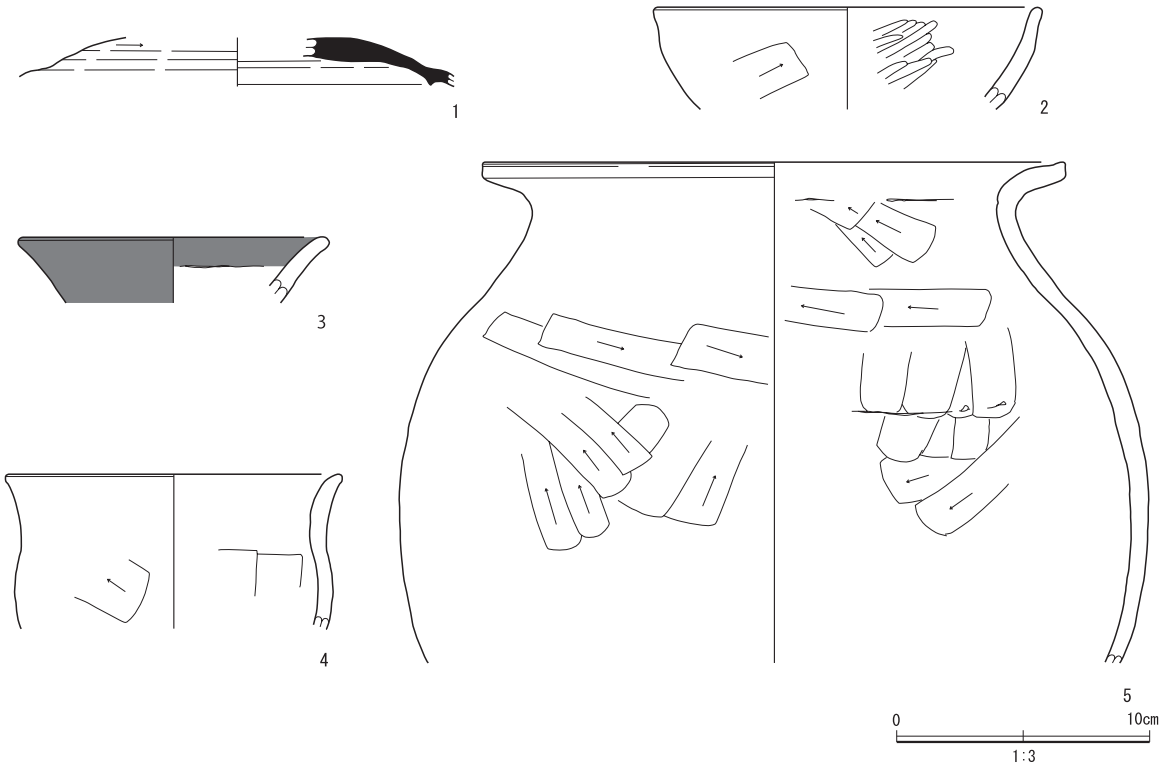
第８号住居跡
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ１cm）を少量含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
4　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～２cm）・ローム粒子を少量，焼土粒子・粘土粒子を微量含む。
5　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。
6　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
7　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm～４cm）を多量に含む。（掘り方）

第８号住居跡１号ピット
1　10YR2/3 黒色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

第８号住居跡２号ピット
1　10YR2/3 黒色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ４cm）・ローム粒子を少量含む。

第８号住居跡３号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ４cm）・ローム粒子を少量含む。

第 30 図　第８号住居跡の出土遺物



第 24 表　第８号住居跡出土土器属性一覧

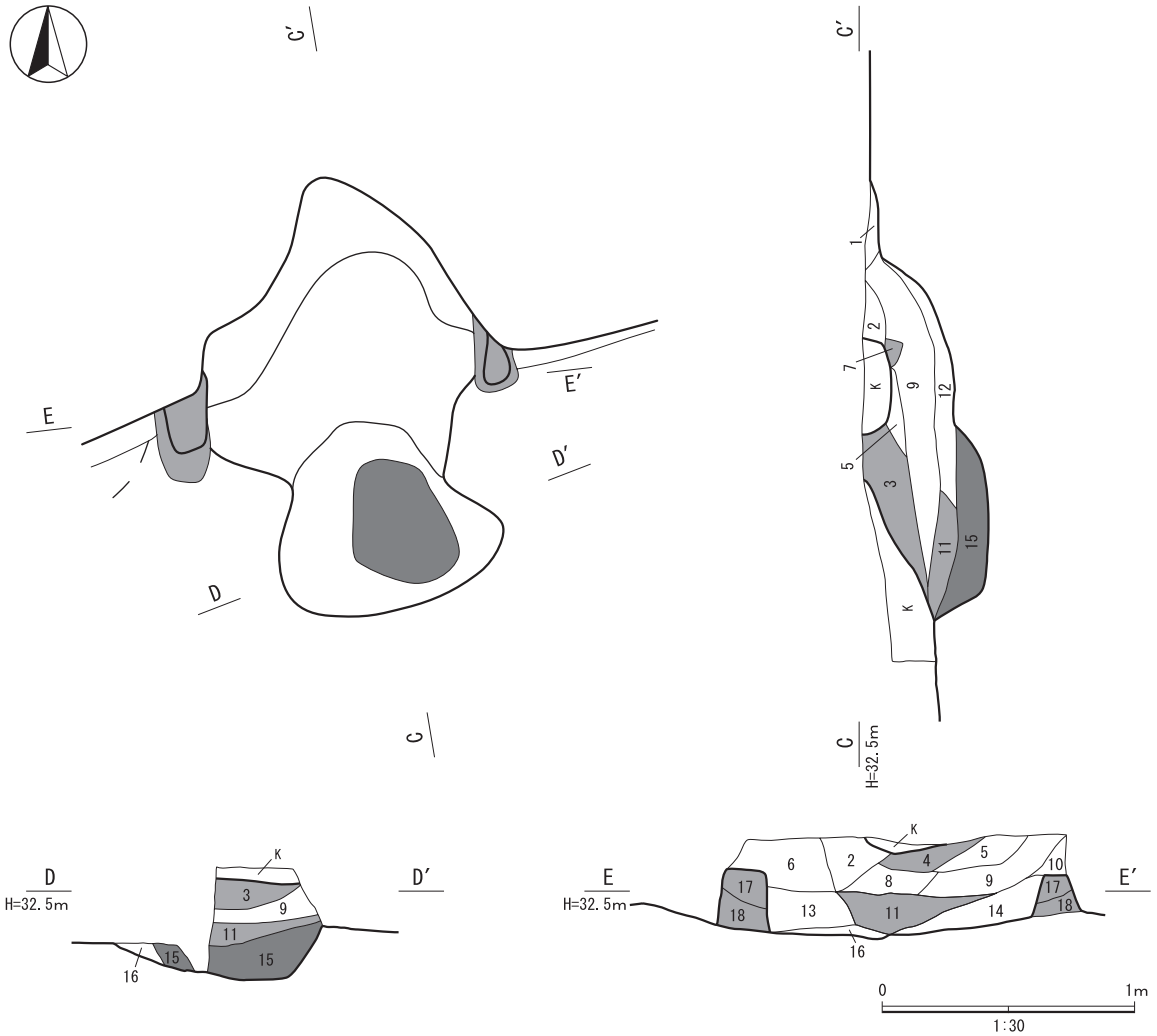
図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI08	覆土	須恵器	蓋	天井部	5	〈17.0〉	—	〈1.9〉	かえり短く貼り付け。天井部外面左回転ヘラケズリ後回転ナデ，内面ナデ。	白色粒子･チャート粒･雲母片	×	良好	10ＹＲ 7/1 灰白色	新治窯跡群	
2	SI08	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	(15.0)	—	〈4.0〉	体部膨らみを持ち、口縁部短くわずかに外傾，内外面ヨコナデ，体部外面丁寧なナデ，内面斜方向ミガキ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒	×	良好	5ＹＲ 6/6 橙色	—	
3	SI08	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	(11.8)	—	〈2.6〉	口縁部外傾して，内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ，内面横方向強いナデ。	白色粒子･黒色粒子･雲母片	×	良好	2.5ＹＲ 5/6 にぶい赤褐色	—	外面及び口縁部内面赤彩。
4	SI08	覆土	土師器	坏	口縁部	5	(13.0)	—	〈6.1〉	器高の高い坏。口縁部緩やかに外反，内外面ヨコナデ。体部外面ナデ，内面横方向の強いナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・小礫	×	良好	5Ｙ 4/1 灰色	—	
5	SI08	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	15	(23.0)	—	〈19.8〉	常総型甕。口唇部わずかに上方につまみ出す。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向のヘラケズリ後ナデ，内面横方向ヘラナデ後ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小礫	×	良好	7.5ＹＲ 6/6 橙色	—	

第９号住居跡（第 30 ～ 35 図，第 25 ～ 29 表，　写真図版６・７・21 ～ 26）

２区の中央部，標高 32.5 m付近に，第１号掘立柱建物跡や第３号土坑，第６号ピットに先行，第８号・第 13 号・第 14 号住居跡に後続して位置する。住居跡の南側の半分は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，北西側や西側に大きな攪乱が位置するが概ね良好である。長軸 562 ㎝，短軸 528 ㎝の方形を呈し，主軸方位はＮ－ 14°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 55 ㎝ほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は９層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，にぶい黄褐色土を基調とした厚さ１㎝から２㎝ほどの堅固で緻密な貼床が，中央部を中心に形成されている。壁溝は北壁際および北西壁際の一部を除き，全周して，幅 20 ㎝から 42 ㎝，深さ８㎝から 14 ㎝ほどを測る。柱穴は 16 基検出され，このうち主柱穴は１号ピットから４号ピットの４基，出入口ピットはその位置から 15 号ピット考えられる。また，５号ピットから 14 号ピットはその位置関係から壁柱穴と考えられる。カマドは住居跡北壁中央部に，北壁を 77 ㎝ほど削り出して構築されていて，Ｎ－ 14°－Ｗの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 169 ㎝，袖部外側の幅は 142 ㎝を測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる３層や７層・11 層が崩落土と考えられる。袖部は上面や一部を攪乱で破壊されてことなどから遺存度は不良である。構築材は浅黄橙色シルトやにぶい黄褐色土を使用している。袖部内側の最大幅は 87 ㎝を測り，火床部は床面から 18 ㎝ほど不整形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化しているが，焼土のブロック化などが確認されていない。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。支脚は検出されていない。また，土坑が１基住居跡の南側に検出されているが，位置や起伏をもつ底面の状況から貯蔵穴の可能性は低く，性格は現状不明である。その他の付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の中央部が浅く，ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が，床面から最大 15 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏に富む。遺物は 1,689 点，26,880.7 ｇが出土している。内訳は土器が縄文時代の中期阿玉台式期および加曽利Ｅ式期，時期不明の深鉢，弥生時代後期十王台式期の甕壺類，須恵器の坏類や高台付坏類・高台付盤・盤・壺・長頸壺・甕壺類・鉢・蓋・円面硯，土師器の坏類や高台付坏類・蓋・皿・高台付皿・鉢・甑，灰釉陶器は壺や皿，土製品は焼成土塊，石器・石製品は縄文時代の軽石や安山岩製の砥石，鉄製品は釘や刀子・楔状製品・不明鉄製品，平瓦，雲母片岩の礫である。このうち 37 点の遺物を図示することができた。１は灰釉陶器の高台付皿，２・３は壺である。３の把手単位数は不明である。胎土からどちらも湖西窯跡群産の可能性が高い。４から 10 は須恵器坏である。４・７は底部外面に「｜」状，５・６・８は底部外面に釈読不明へラ書き，９は体部内面に２条の平行する沈線を垂下，10 は体部外面に釈読不明のへラ書きが施される。５・９は新治窯跡群産である。11 は須恵器高台付坏，12 は須恵器小型壺，13 は新治窯跡群産の須恵器鉢，14 は須恵器甕，15・16 は新治窯跡群産の須恵器甑，16 は単孔である。17 は疑宝珠状鈕をもつ須恵器蓋，18 は須恵器円面硯の周堤部である。19 から 27 は土師器坏である。19 から 21・23・24・26・27 は内面が黒色処理された坏で，19 から 21・23・26 体部外面に釈読不明の墨書，27 は体部外面に「枚□」の墨書が書かれる。28 は土師器の高台付坏である。内面が黒色処理を施される。29 は内面が黒色処理を施された土師器皿である。30 は粗雑な土師器の鉢である。

31・32 は最大径が胴部上位となる土師器常総型甕である。33 は釘，34・35 は刀子，36 は環状の性格不明鉄製品である。37 は凸面正格子目叩きの 1 枚造り平瓦である。本住居跡から第 3 号や第 12 号住居跡と同様に刀子を中心とした鉄製品が多数出土していることや，円面硯や長頸壺などの出土から，近隣の台渡里廃寺や那賀郡衙に関連する住居跡と考えられる。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より 9 世紀後葉の所産であった可能性が高い。

第 31 図　第９号住居跡カマド



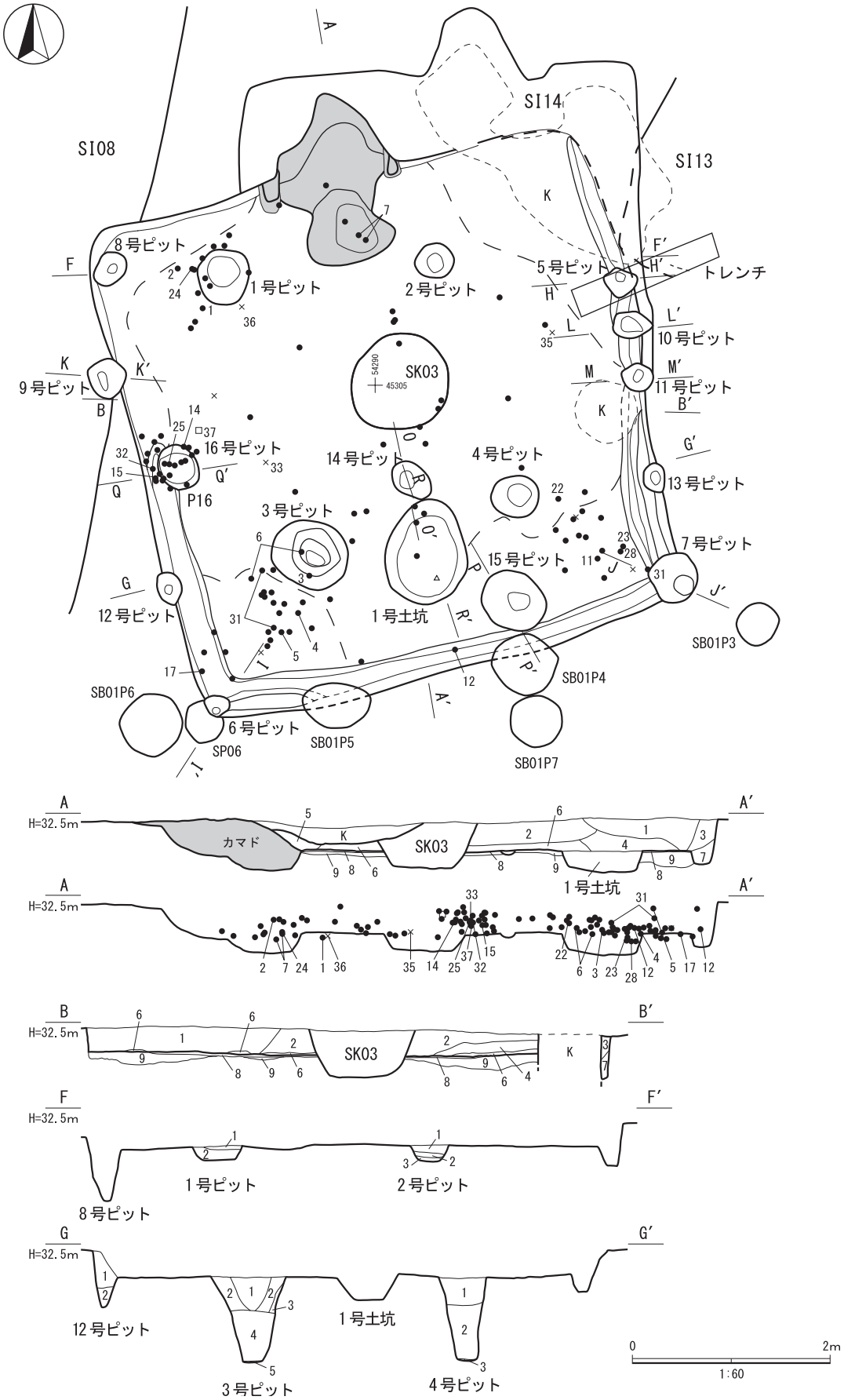
第９号住居跡カマド

1	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。粘土粒子を少量含む。
2	2.5YR5/2 灰赤色土層	粘性をもち，やや締まる。焼土粒子を多量に，粘土粒子を少量含む。
3	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土ブロック（φ３cm）・粘土粒子を少量含む。
4	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
5	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
6	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
7	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，やや締まりに欠ける。粘土粒子主体。
8	2.5YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を多量に，焼土ブロック（φ１cm）・粘土粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
9	2.5YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を多量に，焼土ブロック（φ１cm）・粘土粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
10	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
11	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。
12	2.5YR4/8 赤褐色土層	粘性・締まりに欠ける。焼土粒子主体。焼土ブロック（φ１cm）少量，粘土粒子を微量含む。
13	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・焼土ブロック（φ１cm）・焼土粒子を少量含む。
14	10YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，やや締まる。焼土ブロック（φ 0.5 cm～１cm）を多量，焼土粒子・灰を少量含む。
15	10YR3/4 暗赤褐色土層	粘性をもち，やや締まる。焼土ブロック（φ 0.5 cm～１cm）・焼土粒子・灰を多量に含む。（燃焼部）
16	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，焼土粒子・炭化粒子を微量含む。（掘り方）
17	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。（袖部）
18	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・黒色土を少量含む。（袖部）

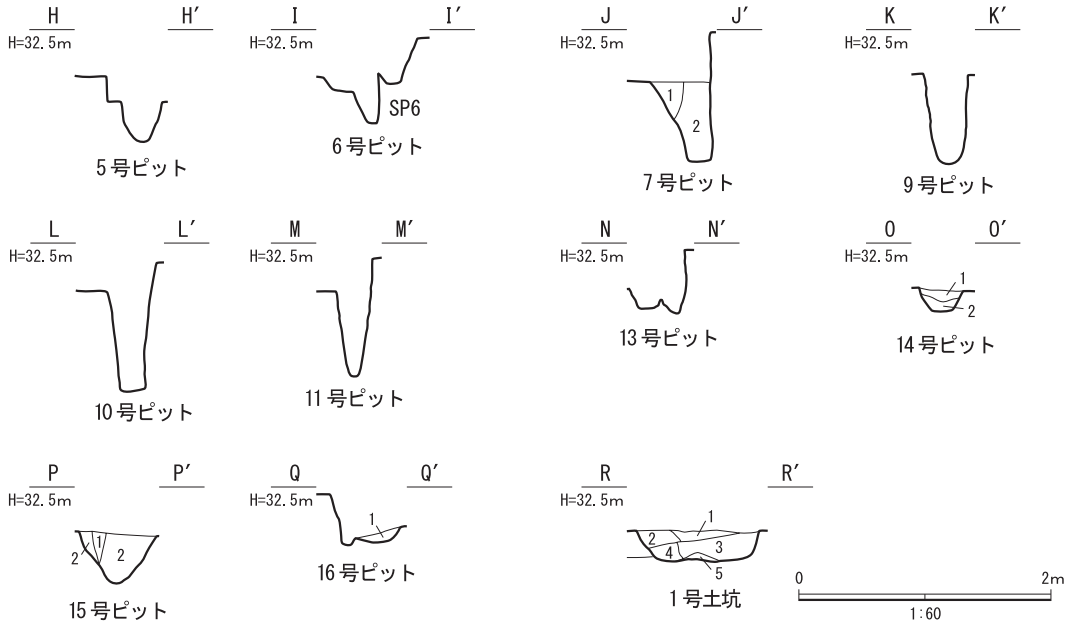
第 25 表　第９号住居跡ピット属性一覧

ピット・番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北西	楕円形	逆台形状	55	52	18	緩やか	起伏をもつ	―	―	―	―	自然	主柱穴	―	須恵器坏 土師器坏・甕	
2号ピット	北東	楕円形	逆台形状	39	35	17	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	主柱穴	―	無し	
3号ピット	南西	楕円形	筒状	77	67	82	急角度	丸味を帯びる	1	楕円形・中央	21ラ12	―	自然	主柱穴	―	須恵器坏 土師器坏・甕	
4号ピット	南東	楕円形	筒状	48	42	84	ほぼ垂直	丸味を帯びる	1	円形・中央やや東	22	―	自然	主柱穴	―	須恵器坏 土師器坏・甕	
5号ピット	東	不整円形	筒状	34	―	52	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
6号ピット	南西隅	不整円形	筒状	21	―	39	急角度だが一部ほぼ垂直	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	SP06 に先行	無し	底面が住居跡の外側となる斜柱
7号ピット	南東隅	不整円形	筒状	49	―	99	急角度だが一部ほぼ垂直	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	須恵器坏 土師器坏	
8号ピット	北西隅	楕円形	筒状	37	29	66	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
9号ピット	西	不整円形	筒状	39	―	69	ほぼ垂直	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
10号ピット	東	楕円形	筒状	40	27	67	ほぼ垂直	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
11号ピット	東	円形	筒状	32	―	89	ほぼ垂直	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
12号ピット	西	楕円形	筒状	34	24	54	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
13号ピット	東	楕円形	筒状	30	22	48	急角度だが一部ほぼ垂直	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	無し	
14号ピット	中央やや南東	楕円形	筒状	47	30	16	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	添柱穴	―	須恵器坏	
15号ピット	南	楕円形	筒状	58	55	45	緩やか	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	出入口ピット	―	須恵器坏・甕壺類・壺・蓋 土師器坏・甕 焼成土塊	
16号ピット	西	楕円形	皿状	45	40	20	緩やか	起伏をもつ	―	―	―	―	自然	不明	―	無し	
1号土坑	中央やや南	楕円形	逆台形状	107	83	32	緩やか	起伏をもつ	―	―	―	―	自然	不明	―	須恵器坏・甕壺類 土師器坏・甕	

第 32 図　第９号住居跡（１）



第 33 図　第９号住居跡（２）



第９号住居跡

１	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
２	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・炭化粒子を微量含む。
３	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
４	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，粘土粒子を微量含む。
５	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
６	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
７	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる　ローム粒子を少量含む。
８	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。(貼床)
９	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量含む。(掘り方)

第９号住居跡１号ピット

１	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
２	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量，焼土粒子・粘土粒子を微量含む。

第９号住居跡２号ピット

１	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
２	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３cm）を多量に含む。
３	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。

第９号住居跡３号ピット

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量，焼土粒子・粘土粒子を微量含む。
２	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
３	10YR5/8 黄褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
４	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
５	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。

第９号住居跡４号ピット

１	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量，焼土粒子・粘土粒子を微量含む。
２	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
３	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。

第９号住居跡７号ピット

１	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
２	10YR2/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を微量含む。

第９号住居跡 12 号ピット

１	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
２	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を微量含む。

第９号住居跡 14 号ピット

１	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
２	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土を少量含む。

第９号住居跡 15 号ピット

１	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
２	2.5YR3/2 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を少量，ロームブロック（φ４cm）を微量含む。

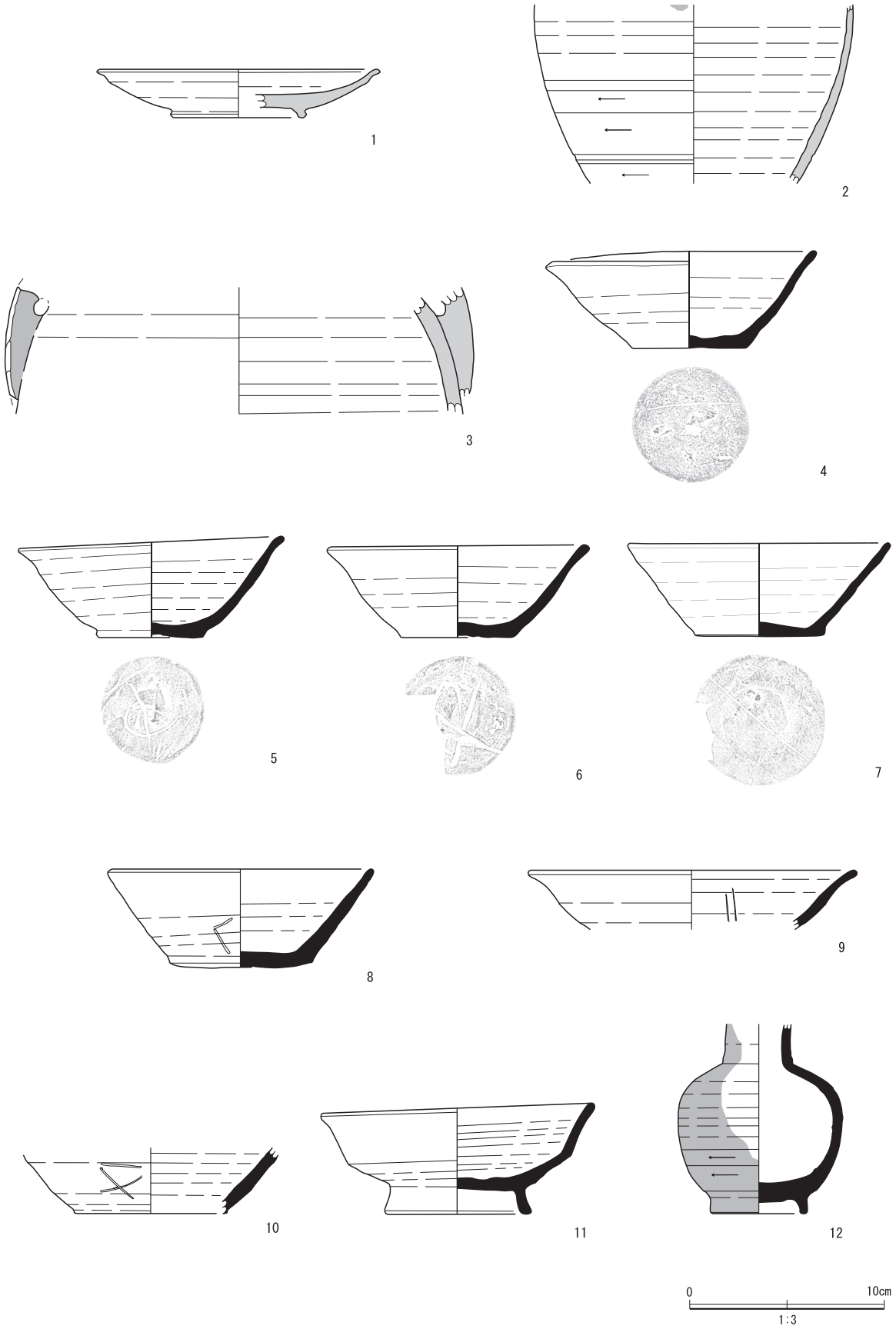
第９号住居跡 16 号ピット

１	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。

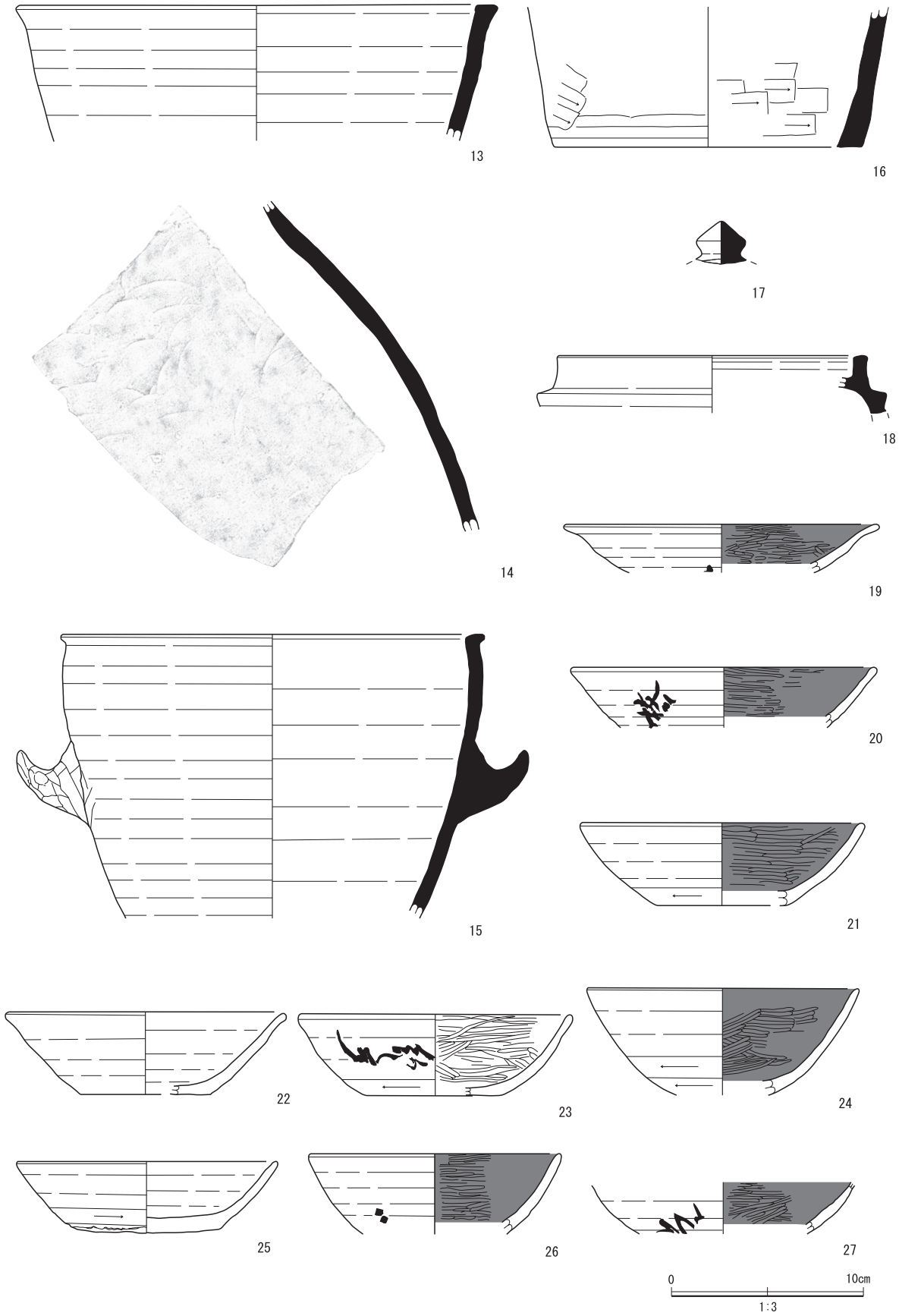
第９号住居跡１号土坑

１	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
２	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を少量含む。
３	2.5YR3/2 暗赤褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を少量，ロームブロック（φ４cm）を微量含む。
４	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子・粘土粒子を微量含む。
５	10YR7/6 明黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ４cm）を多量に含む。

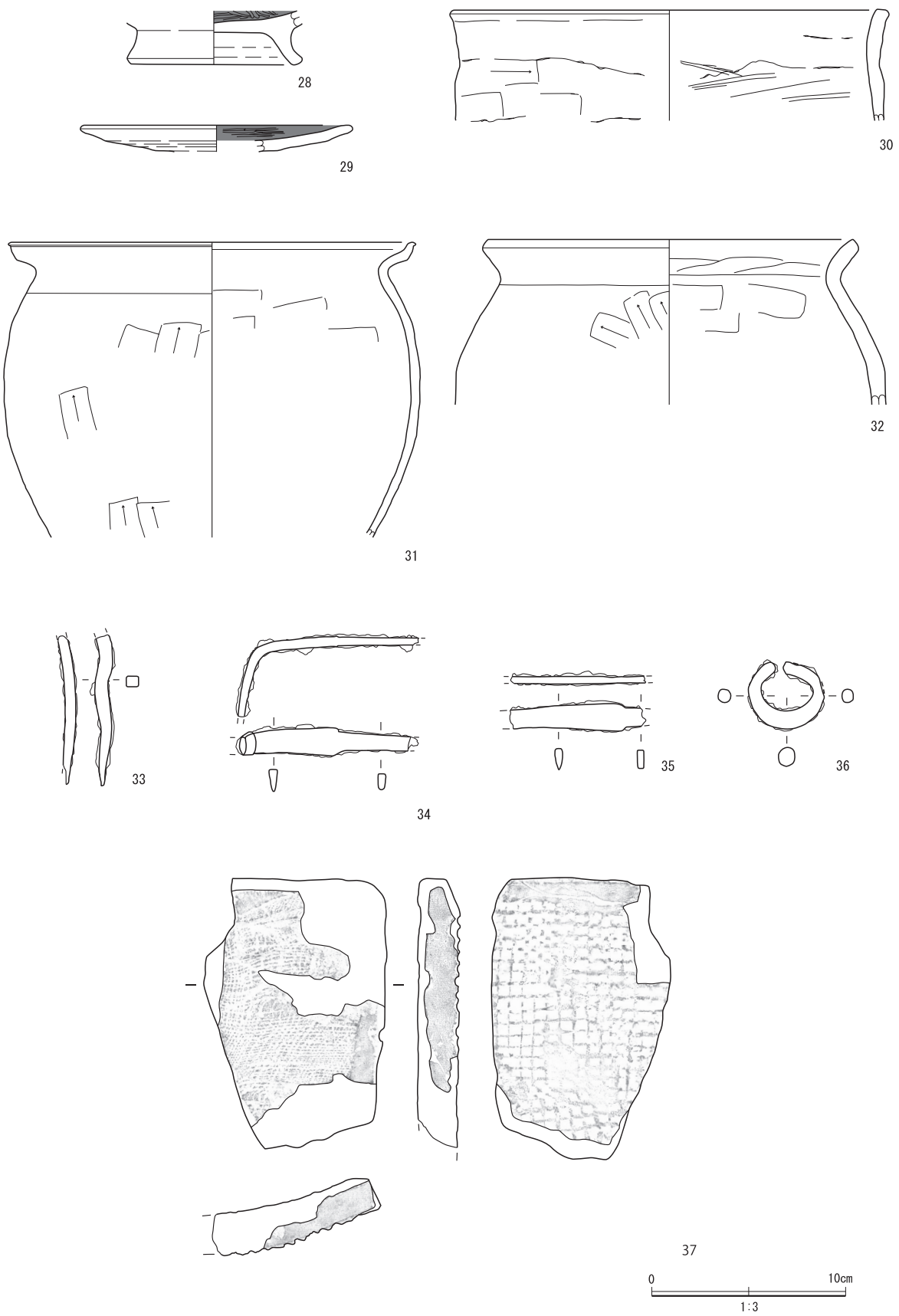
第 34 図　第９号住居跡の出土遺物（１）



第 35 図　第９号住居跡の出土遺物（２）



第 36 図　第９号住居跡の出土遺物（３）



第 26 表　第９号住居跡出土土器属性一覧（１）

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI09	床面直上	灰釉陶器	高台付皿	口縁部～底部	10	(14.2)	(6.7)	2.5	体部わずかに膨らみを持ち，口縁部外反する。全面回転ナデ，後ナデ，釉内外面塗り掛け。	白色粒子･黒色粒子	×	良好	5Y 7/2 灰白色 釉：7.5Y 6/2 灰オリーブ色	猿投窯跡群	
2	SI09	覆土	灰釉陶器	壺	胴部	5	—	—	〈9.2〉	体部外面回転ヘラケズリ後ナデ，内面丁寧なナデ。釉剥落。	白色粒子･雲母片	×	良好	2.5Y 7/2 灰黄色	猿投窯跡群	体部外面微小な黒色湧出物付着
3	SI09	床面直上	灰釉陶器	壺	把手	5	—	—	〈6.5〉	単位数不明の把手を縦状に貼り付け。体部内外面ナデ，把手部ヘラ状工具で面取り。体部外面塗り掛けの釉。	白色粒子	×	良好	10YR 7/1 灰白色 釉：7.5Y 4/2	—	
4	SI09	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	85	13.6	5.9	5.0	体部わずかに膨らみを持ち，口縁部外反する。底部わずかに突出。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面巻き上げ痕顕著，外面切り離し技法不明後強いナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒･小礫	×	良好	2.5Y 5/1 黄灰色	木葉下窯跡群	底部外面「丨」状のヘラ書き。
5	SI09	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	75	13.4	5.2	5.2	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面巻き上げ痕顕著，底部外面切り離し技法不明後ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒･雲母片	×	良好	10YR 7/3 にぶい黄橙色	新治窯跡群	底部外面釈読不明ヘラ書き。
6	SI09	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	55	(13.0)	5.9	〈4.7〉	体部直線的に立ち上がり，口縁部外反する。内外面ヨコナデ。体部内外面回ナデ。底部内面巻き上げ痕顕著，底部外面切り離し技法不明後強いナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	2.5Y 6/1 黄灰色	木葉下窯跡群	底部外面釈読不明のヘラ書き。
7	SI09	カマド・掘り方	須恵器	坏	口縁部～底部	60	(13.1)	6.6	4.8	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	5Y 6/2 灰オリーブ色	木葉下窯跡群	底部外面「丨」状のヘラ書き。
8	SI09	掘り方	須恵器	坏	口縁部～底部	50	(13.3)	7.3	〈5.1〉	体部直線的に立ち上がり，口縁部わずかに外反する。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ，内面ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	2.5Y 6/2 灰黄色	木葉下窯跡群	体部外面釈読不明のヘラ書き。
9	SI09	覆土	須恵器	坏	口縁部～体部	5	(16.4)	—	〈3.1〉	体部わずかに膨らみを持つ。口縁部外反，口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒･雲母片	×	良好	10YR 6/6 明黄褐色	新治窯跡群	体部内面に２条の平行する沈線を垂下。
10	SI09	掘り方	須恵器	坏	体部	5	—	(7.6)	〈3.4〉	底部突出。体部内外面回転ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	10YR 6/4 にぶい黄橙色	木葉下窯跡群	体部外面釈読不明のヘラ書き。
11	SI09	覆土	須恵器	高台付坏	口縁部～底部	80	13.7	7.0	5.7	体部中央部下位で角度を変える。口縁部わずかに外反。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ，高台部わずかに外反，貼り付け。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	5Y 5/1 灰色	木葉下窯跡群	
12	SI09	覆土	須恵器	小型壺	頸部～底部	90	—	(4.8)	〈9.7〉	頸部貼り付け，内外面回転ナデ。体部丁寧なナデ，底部外面切り離し技法不明後ナデ。高台部貼り付け。	白色粒子･石英粒･チャート粒	×	良好	5Y 7/1 灰白色	木葉下窯跡群	
13	SI09	覆土	須恵器	鉢	口縁部～胴部	5	(24.5)	—	〈7.1〉	口唇部平坦，口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面回転ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒･雲母片	×	良好	10YR 7/2 にぶい黄橙色	新治窯跡群	
14	SI09	覆土	須恵器	甕	胴部	5	—	—	〈17.3〉	胴部外面斜方向の平行叩き目後強いナデ，内面当て具痕。	白色粒子･石英粒子･チャート粒子	○	良好	2.5Y 6/1 黄灰色	木葉下窯跡群	
15	SI09	覆土	須恵器	甑	口縁部～胴部	5	(21.7)	—	〈14.9〉	口唇部平坦，外側に突出する。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面回転ナデ，内面強いナデ。把手部手捏ねで「L」字状に成形して貼り付け，単位数不明。	白色粒子･石英粒･チャート粒･雲母片	×	良好	7.5YR 6/3 にぶい褐色	新治窯跡群	

第 27 表　第９号住居跡出土土器属性一覧（２）

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
16	SI09	掘り方	須恵器	甑	胴部～底部	5	—	(16.0)	〈7.3〉	胴部外面丁寧なナデ，下端粘土の削り取り痕，内面丁寧なナデ，下端横方向ヘラケズリ。底面ナデ。単孔。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ 6/3 にぶい褐色	新治窯跡群	
17	SI09	周溝覆土	須恵器	蓋	鈕	5	—	—	〈2.1〉	疑宝珠状鈕，上端は大きく突出，全面ナデ。	白色粒子・石英粒	×	良好	2.5Ｙ 5/1 黄灰色	木葉下窯跡群	
18	SI09	覆土	須恵器	円面硯	周堤部	5	(16.0)	—	〈3.0〉	周堤部片。上端を平坦に面取り，全面ナデ。内面自然釉。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	2.5Ｙ 5/1 黄灰色	木葉下窯跡群ヵ	
19	SI09	掘り方	土師器	坏ヵ	口縁部～体部	5	(16.0)	—	〈2.5〉	内黒坏ヵ。体部膨らみを持つ。口縁部外反する。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ，内面多方向ミガキ。	白色粒子・赤色粒子・チャート粒	×	良好	10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色	—	体部外面に釈読不明の墨書。
20	SI09	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	(15.6)	—	〈3.1〉	内黒坏。体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，内面丁寧なナデ，横方向ミガキ。	白色粒子・チャート粒	○	良好	7.5ＹＲ 6/6 橙色	—	体部外面に釈読不明の墨書。
21	SI09	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	10	(14.6)	(6.7)	4.3	内黒坏。体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，内面丁寧なナデ後横方向ミガキ。	白色粒子・赤色粒子・石英粒	×	良好	7.5ＹＲ 7/3 にぶい橙色	—	体部外面に釈読不明の墨書。
22	SI09	覆土	土師器	坏	口縁部～底部	30	(14.2)	(6.8)	4.2	体部直線的に立ち上がり，口縁部わずかに外反する。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部外面切り離し技法不明後ナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	5ＹＲ 6/6 橙色	—	
23	SI09	床面直上	土師器	坏	口縁部～底部	20	(14.0)	(7.1)	4.2	内黒坏。体部膨らみを持ち，口縁部外反する。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ，内面丁寧なナデ後横及び斜方向ヘラミガキ。底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ，内面丁寧なナデ。	白色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	7.5ＹＲ 6/2 灰褐色	—	体部外面に釈読不明の墨書。
24	SI09	床面直上	土師器	坏	口縁部～体部	15	(14.0)	—	〈5.6〉	内黒坏。体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面丁寧なナデ，内面丁寧なナデ後多方向ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ 8/2 灰白色	—	
25	SI09	覆土	土師器	坏	口縁部～底部	75	(13.3)	7.7	3.7	体部わずかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ，外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色	—	
26	SI09	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	(13.0)	—	〈4.2〉	内黒坏。体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ，内面横方向ミガキ。	白色粒子・石英粒	×	良好	5ＹＲ 6/6 橙色	—	体部外面に釈読不明の墨書。
27	SI09	覆土	土師器	坏	体部	5	—	—	〈2.6〉	内黒坏。体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，内面丁寧なナデ，横方向ミガキ。	白色粒子・石英粒	×	良好	10ＹＲ 7/4 にぶい黄橙色	—	体部外面に「枚□」の墨書。
28	SI09	床面直上	土師器	高台付坏	底部	20	—	8.2	〈2.6〉	内黒坏。底部内面丁寧なナデ，多方向ミガキ，底部外面右回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部貼り付けで「ハ」字状に開く，ナデ。	白色粒子・石英粒	×	良好	10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色	—	
29	SI09	覆土	土師器	皿	口縁部～体部	5	(13.4)	—	〈1.3〉	内黒の皿。体部直線的に開く。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，下端右回転ヘラケズリ，内面丁寧なナデ，多方向ミガキ。	白色粒子・石英粒	○	良好	10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	—	
30	SI09	覆土	土師器	鉢	口縁部～胴部	5	(22.2)	—	〈5.7〉	粗雑な鉢。口唇部平坦。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面横方向ヘラケズリ後ナデ，内面多方向ヘラナデ後ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	—	
31	SI09	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	5	(20.7)	—	〈15.3〉	常総型甕。口唇部上方につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。最大径は胴部上位。	白色粒子・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ 6/4 にぶい橙色	—	
32	SI09	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	5	(18.8)	—	〈8.5〉	常総型甕。口唇部断面山形で外面を平坦。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面斜方向ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。最大径は胴部上位。	白色粒子・石英粒・雲母片・小礫	×	良好	7.5ＹＲ 6/3 にぶい褐色	—	

第 28 表　第９号住居跡出土鉄製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	特徴・手法	備考
33	SI09	覆土	鉄製品	釘	鉄製	〈7.7〉	0.65	0.55	13.8	頭頂部欠損，基部は断面四角形。	
34	SI09	掘り方	鉄製品	刀子	鉄製	〈9.3〉	1.50	0.45	19.4	先端部欠損，刃部中央部より折れ曲がる。	
35	SI09	床面直上	鉄製品	刀子	鉄製	〈6.9〉	1.40	0.38	11.5	基部及び先端部欠損。	
36	SI09	床面直上	鉄製品	不明	鉄製	3.90	3.50	0.85	20.1	環状鉄製品，用途不明。	

第 29 表　第９号住居跡出土瓦属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	全長（cm）	全幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	凹面痕跡	凹面調整	凸面痕跡	凸面調整	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
37	SI09	覆土	平瓦	〈13.8〉	〈9.4〉	2.0	309.2	目の粗い布目	周縁部一方向ヘラケズリ	正格子目叩き	周縁部一方向ヘラケズリ	白色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	10ＹＲ 7/2 にぶい黄橙色	一枚造り

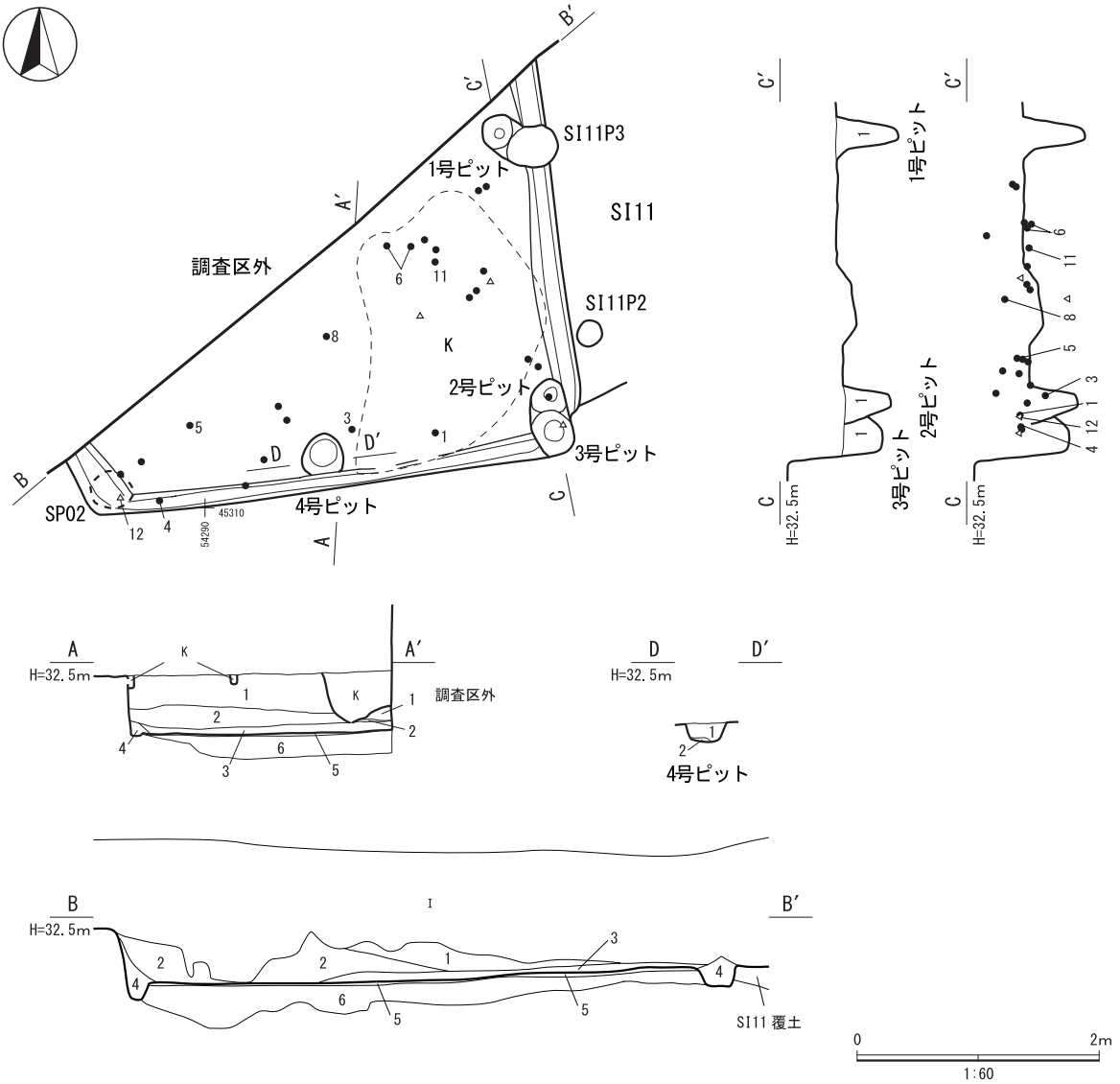
第 10 号住居跡（第 36 ～ 38 図，第 30 ～ 32 表，写真図版７・26 ～ 28）

２区の北側，標高 32.5 ｍ付近に，第２号ピットに先行，第 11 号住居跡に後続して位置する。住居跡の北側の 2/3 は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，中央部に大きな攪乱が位置することなどからやや不良である。長軸 432 ㎝，短軸現存 330 ㎝の方形を呈し，主軸方位はＮ－７°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 53 ㎝ほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は６層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，黒褐色土を基調とした厚さ１㎝から４㎝ほどの堅固で緻密な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して，幅 13 ㎝から 28 ㎝，深さ３㎝から 15 ㎝ほどを測る。柱穴は４基検出されたが，その位置関係からどれも主柱穴とは考えられないが，Ｐ４はその位置から出入り口ピットの可能性が高い。カマドは検出されていないが，本調査地点の傾向から北壁に位置する可能性が高い。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面に，ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が，床面から最大 19 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏に富む。遺物は 265 点，14,539.9 ｇが出土しているが，このうち砂岩の礫が２点で 9,041.9 ｇと重量の 62％を占める。内訳は土器が縄文時代中期加曽利Ｅ式期の深鉢，弥生時代後期十王台式期の甕壺類，須恵器の坏類や高台付坏類・高台付盤・高台付皿・壺・甕壺類・鉢・蓋・円面硯，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類・蓋・高坏，土製品はミニチュアの鉢や焼成土塊，石器は縄文時代の磨石・敲石・砂岩や片岩の砥石，砂岩の礫である。このうち 12 点の遺物を図示することができた。

１・２は須恵器の坏である。胎土から１が新治窯跡群産，２は木葉下窯跡群産である。３は須恵器の高台付坏である。４・５は須恵器の高台付盤である。４は底面外面を硯として再利用した痕跡が残る。５は底部外面釈読不明のヘラ書きが確認される。６は須恵器の盤である。底部外面に「十」字状のヘラ書きが確認された。７は笠状の須恵器の蓋である。偏平疑宝珠状の鈕を貼り付ける。８は脚付き円面硯の脚部である。獣脚様であり，縦の沈線が８条垂下する。９は土師器の坏である。内面に黒色処理が施される。10 は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。11 はミニチュアの土師器鉢である。内面を黒色化を施す。12 は砂岩製の砥石である。使用面は３面を数える。第９号住居跡と同様に円面硯が出土していることから，同様な寺院や群衙関連の住居跡の可能性をもつが，刀子な

どの関連遺物の出土していないため，現状では特殊な性格の住居跡と判断することは困難である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀後葉の所産であった可能性が高い。

第 37 図　第 10 号住居跡



第 10 号住居跡
1　10YR3/2 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，焼土粒子を微量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
3　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
4　10YR4/4 褐色土層　粘性をもつが，締まりに欠ける。ローム粒子を多量に含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に含む。（床）
6　10YR2/2 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（掘り方）

第 10 号住居跡１号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

第 10 号住居跡２号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

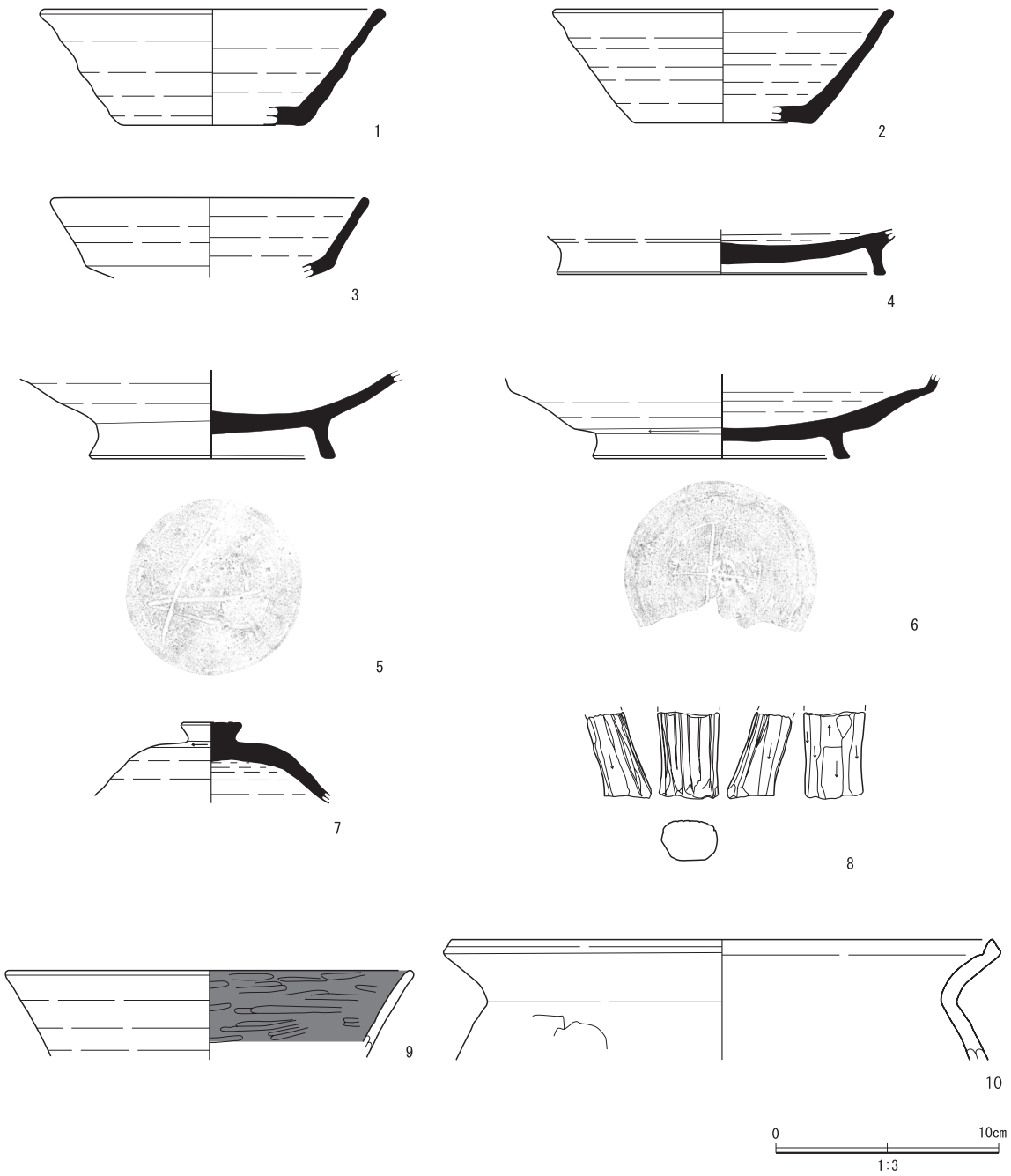
第 10 号住居跡３号ピット
1　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

第 10 号住居跡４号ピット
1　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR2/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

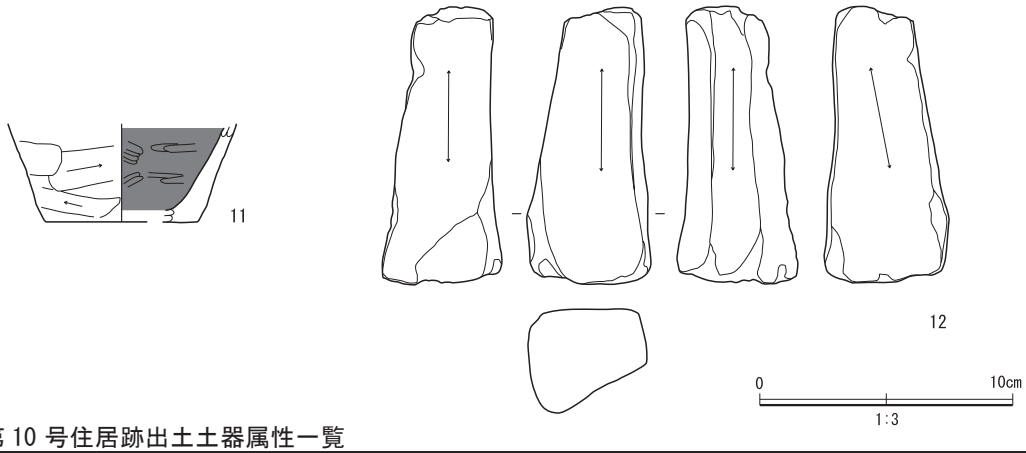
第 30 表　第 10 号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	東	楕円形	筒状	29	26	47	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	不明	―	無し	
2号ピット	南東	円形	筒状	29	―	40	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	不明	SI10P3 に後続	無し	
3号ピット	南東	楕円形	筒状	39	32	75	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	自然	不明	SI10P2 に先行	無し	
4号ピット	南	円形	逆台形状	35	―	21	緩やか	やや起伏をもつ	―	―	―	―	自然	出入り口ピット	―	須恵器坏・蓋 土師器甕	

第 38 図　第 10 号住居跡の出土遺物（１）



第 39 図　第 10 号住居跡の出土遺物（２）



第 31 表　第 10 号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI10	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	20	(15.0)	(8.0)	5,2	体部直線的に立ち上がる，口縁部外反。内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ，外面ロクロ目顕著。底部外面切り離し技法不明後ナデ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒･雲母片	×	良好	10ＹＲ 6/3 にぶい黄橙色	新治窯跡群	
2	SI10	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	15	(15.0)	(8.0)	5.1	体部直線的に立ち上がる。口縁部玉縁状で内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部外面切り離し技法不明後ナデ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	10ＹＲ 6/1 褐灰色	木葉下窯跡群	
3	SI10	掘り方	須恵器	高台付坏	口縁部～体部	15	(14.0)	―	〈3.6〉	体部中央部下位で角度が変わる。体部わずかに外反。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	10ＹＲ 6/2 灰黄褐色	木葉下窯跡群	
4	SI10	覆土	須恵器	高台付盤	底部	40	―	(14.6)	〈2.0〉	底部内面ナデ，外面右回転ヘラ切り離し後ナデ，高台部ナデ，貼り付け。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒･小礫	○	良好	10YR5/1 褐灰色	木葉下窯跡群	底部外面硯として転用。
5	SI10	覆土	須恵器	高台付盤	体部～底部	40	―	10.8	〈4.0〉	体部膨らみを持つ。内外面回転ナデ後ナデ。底部内面ナデ，外面左回転ヘラ切り離し後ナデ。高台部外反してナデ，貼り付け。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒･小礫	○	良好	10YR5/2 灰黄褐色	木葉下窯跡群	底部外面釈読不明のヘラ書き。
6	SI10	床面直上・覆土	須恵器	盤	体部～底部	40	―	11.4	〈4.1〉	体部わずかに外反。外面上位回転ナデ，下位左回転ヘラケズリ，内面回転ナデ後ナデ。底部右回転ヘラ切り離し後未調整。高台部外反し貼り付け，ナデ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	2.5Ｙ 5/1 黄灰色	木葉下窯跡群	底部外面に「十」字状のヘラ書き。
7	SI10 P4	覆土	須恵器	蓋	鈕～天井部	25	鈕径 2.6	―	〈3.6〉	笠状。偏平疑宝珠状鈕を貼り付け，ナデ。天井部外面上位右回転ヘラケズリ，下位ナデ，内面回転ナデ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	5Y5/1 灰色	木葉下窯跡群	
8	SI10	覆土	須恵器	円面硯	脚	5	長さ 〈3.9〉	幅 〈2.7〉	厚さ 2.9	獣脚付円面硯の脚部。柱状粘土をヘラ状工具で棒状に成形し，ナデ後外面に荒い８条の沈線を施す。	白色粒子･黒色粒子･石英粒	○	良好	2.5Ｙ 5/1 黄灰色	木葉下窯跡群	
9	SI10	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	5	(18,0)	―	3.9	内黒坏。体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ，内面丁寧なナデ後横方向ミガキ。	白色粒子･黒色粒子･石英粒･雲母片	○	良好	7.5ＹＲ 6/6 橙色	―	
10	SI10	覆土	土師器	甕	口縁部～頸部	5	(24.0)	―	〈5.4〉	常総型甕。口唇部斜上方内側につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	白色粒子･黒色粒子･チャート粒･雲母片･小礫	○	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	―	
11	SI10	床面直上	土師器	ミニチュア鉢	胴部～底部	10	―	(6.0)	〈3.8〉	内面黒色化。胴部直線的に立ち上がる。外面ナデ，内面丁寧なナデ，横方向ミガキ。底部外面ナデ。	白色粒子･黒色粒子･赤色粒子･石英粒子･チャート粒子･雲母片	○	良好	10ＹＲ 5/3 にぶい黄橙色	―	

第 32 表　第 10 号住居跡出土石製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（ｇ）	特徴・手法	備考
12	SI10	覆土	石製品	砥石	砂岩	11.0	4.9	4.7	286.1	使用面は３面，上端と下端は未使用面。	

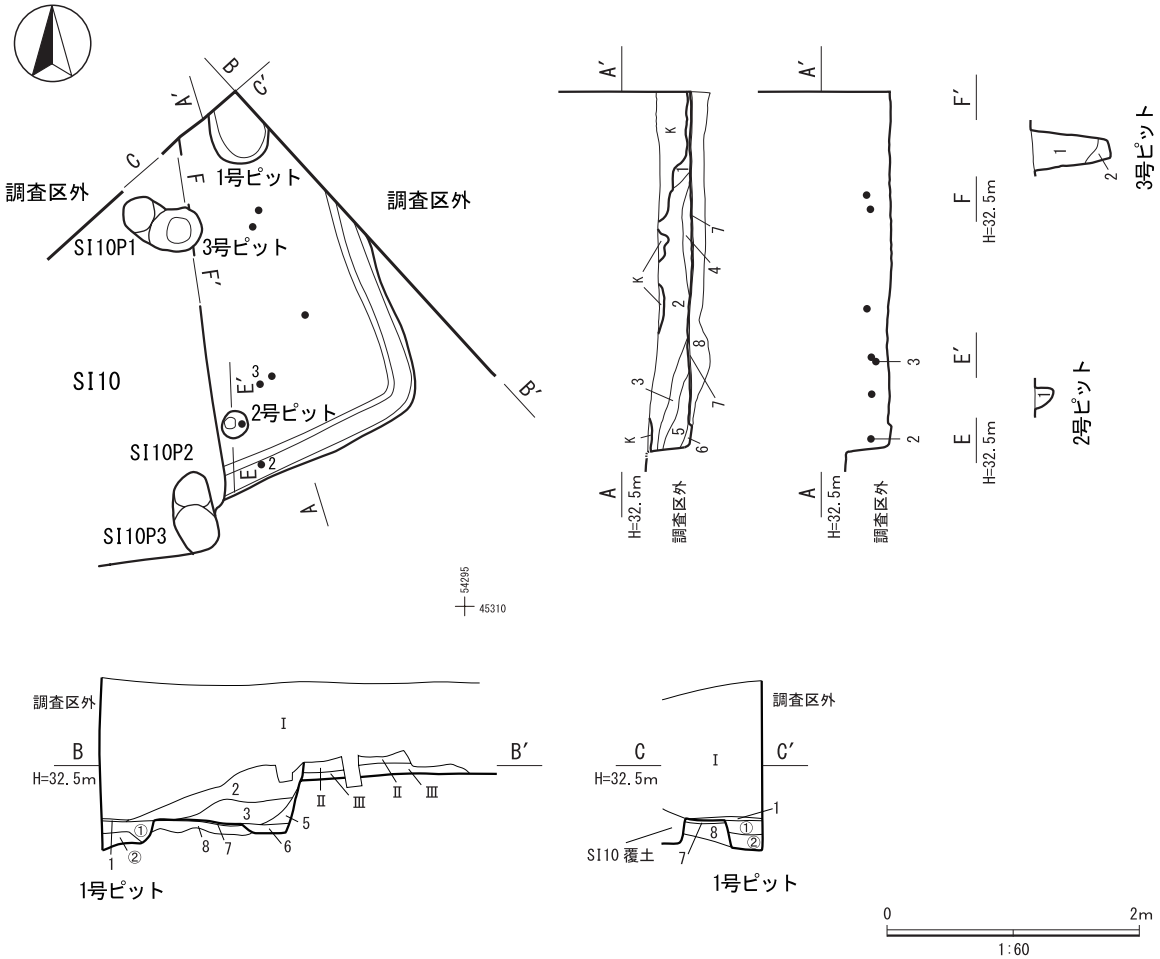
第 11 号住居跡（第 39・40 図，第 53・54 表・　写真図版７・28）

２区の北側，標高 32.4 m付近に，第 10 号住居跡に先行して位置する。住居跡の北側の 2/3 は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，住居跡西側を第 10 号住居跡により掘り込まれ，中央部上面や南西側を攪乱が位置することなどから不良である。長軸現存 293 cm，短軸現存 181 cmの方形を呈し，主軸方位はＮ－ 20°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 42 cmほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は８層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面はやや起伏を持ち，黒褐色土を基調とした厚さ１cmから３cmほどのやや軟弱な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して，幅 21 cmから 24 cm，深さ３cmから８cmほどを測る。柱穴は３基検出されたが，主柱穴は不明である，出入口ピットはその位置から２号ピットと考えられる。カマドは検出されていないが，本調査地点の傾向から調査区外である北壁に位置すると考えられる。その他,貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面を，ロームブロックが混入する黄褐色土を基調とした土が，床面から最大 16 cmほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 64 点，1,683.8 g が出土している。内訳は土器が縄文時代中期加曽利Ｅ式期の深鉢，須恵器の坏類や高台付坏類・壺・甕壺類・鉢・蓋，土師器の坏類や甕壺類である。このうち４点の遺物を図示することができた。１は須恵器の坏である。２は須恵器の高台付坏である。体部外面の黒色付着物が確認された。３はかえりを伴わない須恵器の蓋である。４は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 33 表　第 11 号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北東	楕円形	筒状	〈57〉	49	25	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	不明	－	須恵器鉢・蓋 土師器甕	北側 1/2 が調査区外
2号ピット	南	円形	筒状	21	－	63	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	出入口ピット	－	無し	
3号ピット	やや北	楕円形	筒状	42	34	26	ほぼ垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	不明	－	無し	

第 40 図　第 11 号住居跡



第 11 号住居跡

1	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
3	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。
4	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
5	10 Y R 2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
6	10 Y R 4/4 褐色土層	粘性をもつが，締まりに欠ける。ローム粒子を多量に，黒色土粒子を少量含む。
7	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
8	10YR5/8 黄褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ３cm）を多量に，黒色土を少量含む。（掘り方）

第 11 号住居跡１号ピット

①	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・黒色土を少量含む。
②	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を多量に含む。

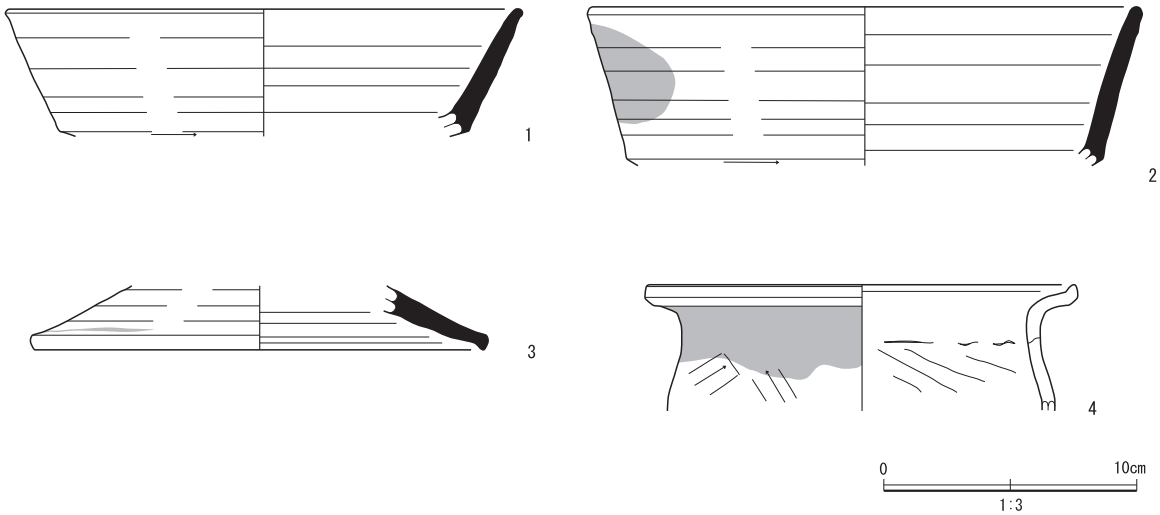
第 11 号住居跡２号ピット

1	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。

第 11 号住居跡３号ピット

1	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。
2	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・黒色土を少量含む。

第 41 図　第 11 号住居跡の出土遺物



第 34 表　第 11 号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI11	覆土	須恵器	坏	口縁部～体部	10	(20.0)	－	〈5.0〉	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面丁寧なナデ。	白色粒子･黒色粒子・石英粒	×	良好	2.5Y 6/2 灰黄色	不明	
2	SI11	覆土	須恵器	高台付坏	口縁部～体部	30	(21.6)	－	〈6.3〉	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ後丁寧なナデ。	白色粒子･黒色粒子・石英粒･チャート粒･小礫	×	良好	2.5Y 7/1 灰白色	不明	体部外面黒色付着物。
3	SI11	覆土	須恵器	蓋	天井部～端部	10	(17.7)	－	〈2.5〉	かえし短く垂下，かえりなし。天井部内外面回転ナデ。	白色粒子･黒色粒子・石英粒･チャート粒	×	良好	2.5Y 5/1 黄灰色	木葉下窯跡群	
4	SI11	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	10	(16.8)	－	〈5.0〉	常総型甕。口唇部上方につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	白色粒子･石英粒・チャート粒･雲母片･小礫	×	良好	2.5YR 4/4 にぶい赤褐色	－	

第 12 号住居跡（第 41 ～ 44 図，第 35 ～ 38 表，写真図版８・29）

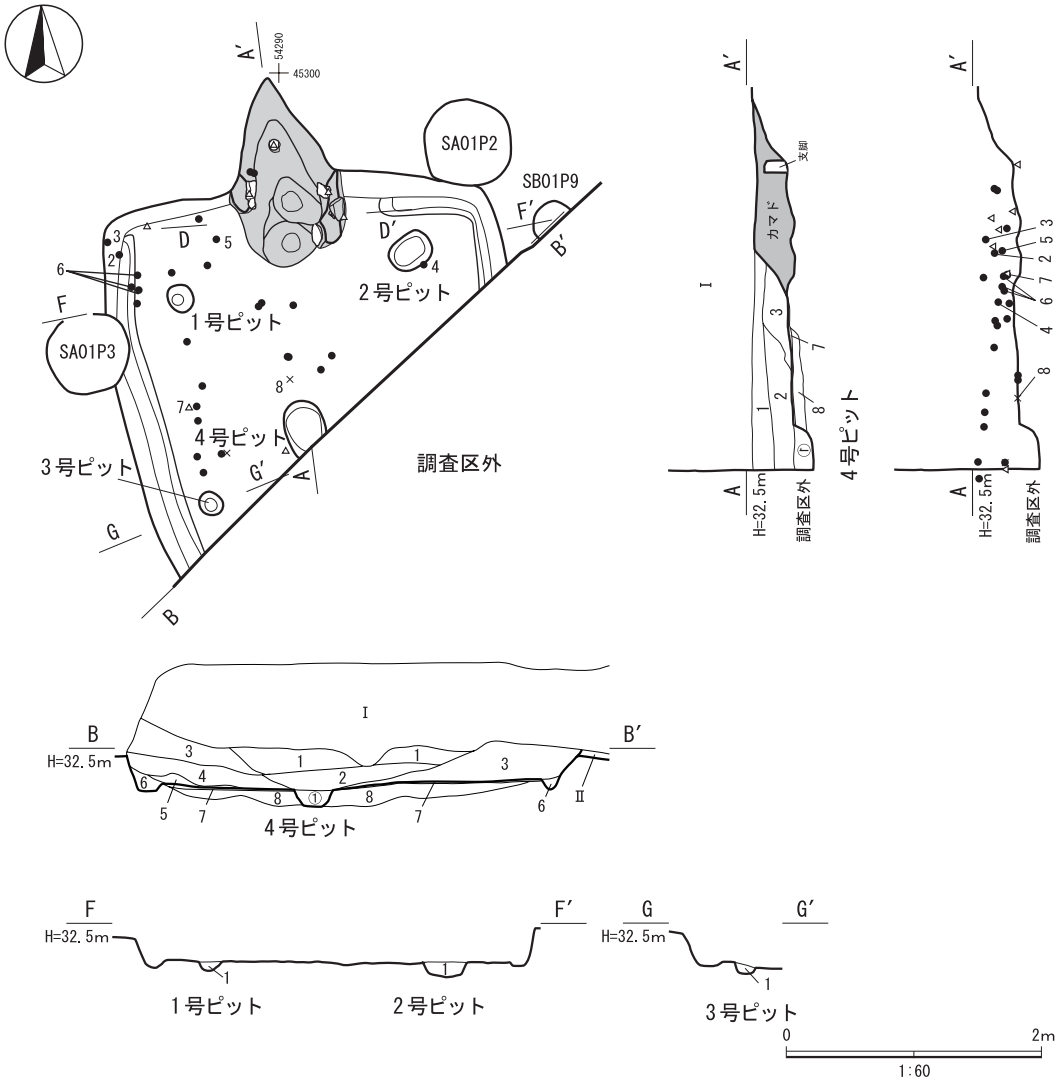
２区の南側，標高 32.5 m付近に，第１号ピット列に先行して位置する。住居跡の南側半分は調査区外であるため，その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は，概ね良好である。長軸 318 cm，短軸現存 296 cmの方形を呈し，主軸方位はＮ－６°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，最大壁高は 29 cmほどを測り，緩やかに立ち上がる。土層は８層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面はやや起伏を持ち，黒褐色土を基調とした厚さ１cmから３cmほどの軟弱な貼床が，確認された範囲で全面に形成されている。壁溝はカマド部分および住居跡北側際の一部を除き，確認された範囲で全周して，幅 19 cmから 30 cm，深さ６cmから９cmほどを測る。柱穴は４検出され，このうち主柱穴は１号ピットから３号ピットの３基と考えられる。その他の主柱穴や出入口ピットは調査区外に展開すると考えられ，検出されていない。カマドは住居跡北壁中央部に，北壁を 82 cmほど削り出して構築されていて，Ｎ－５°－Ｅの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 148 cm，袖部外側の幅は 84 cmを測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の橙色シルトが主体的に含まれる５層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて，にぶい黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用していて，芯材として，砕片だが方形に加工したと考えられる凝灰岩の切石を利用している。また，内壁の一部が被熱により

強く赤変硬化していることが確認された。袖部内側の最大幅は 50 ㎝を測り，火床部は床面から５㎝ほど２ヶ所を円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は赤変硬化して，焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。また，カマド中央やや奥の位置に，凝灰岩を円柱状に削り出して作製された支脚が検出されているが，強く熱を受け，取上げ時に破砕してしまったため，図示することはできなかった。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の中央部を深く，ロームブロックが混入する褐色土を基調とした土が，床面から最大 15 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 236 点，9,037.6 g が出土している。内訳は土器が縄文時代は前期黒浜式期，中期加曽利Ｅ式期，時期不明深鉢，須恵器の坏類や高台付坏類・壺・甕壺類・鉢・蓋，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類，灰釉陶器は壺，土製品は焼成土塊，石器・石製品は凝灰岩製のカマド芯材および支脚・片岩製の砥石，鉄製品は釘，安山岩の礫である。このうち８点の遺物を図示することができた。１は胎土から湖西窯跡群産と考えられる，灰釉陶器の壺である。２は新治窯跡群産の須恵器坏である。３は大型の須恵器の壺である。４・５は土師器の坏である。４は内面に黒色処理が施される。５は体部内面に黒色付着物か確認される。６は土師器の常総型甕である。最大径は胴部上位に位置する。７は片岩製の砥石である。砥面は４面を数える。８は刀子である。残存は悪く，基部や先端部を欠く。この住居跡からも第３号・第９号住居跡と同様に刀子が出土しているが，第３号住居跡と同様，この住居跡の性格までは確認できなかった。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀後葉から 10 世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 35 表　第 12 号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北西	円形	皿状	20	－	8	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	無し	
2号ピット	北東	楕円形	筒状	34	26	12	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	無し	
3号ピット	南西	円形	筒状	19	－	8	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	土師器坏・甕	
4号ピット	中央	楕円形	筒状	36	31	18	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	不明	－	無し	南側 1/4 が調査区外

第 42 図　第 12 号住居跡



第 12 号住居跡

1	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
2	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
3	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
4	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
5	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。焼土粒子を多量に，ローム粒子を少量，粘土粒子を微量含む。
6	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
7	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に含む。(床)
8	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち,強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に,ローム粒子を少量含む。(掘り方)

第 12 号住居跡１号ピット

1	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

第 12 号住居跡２号ピット

1	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

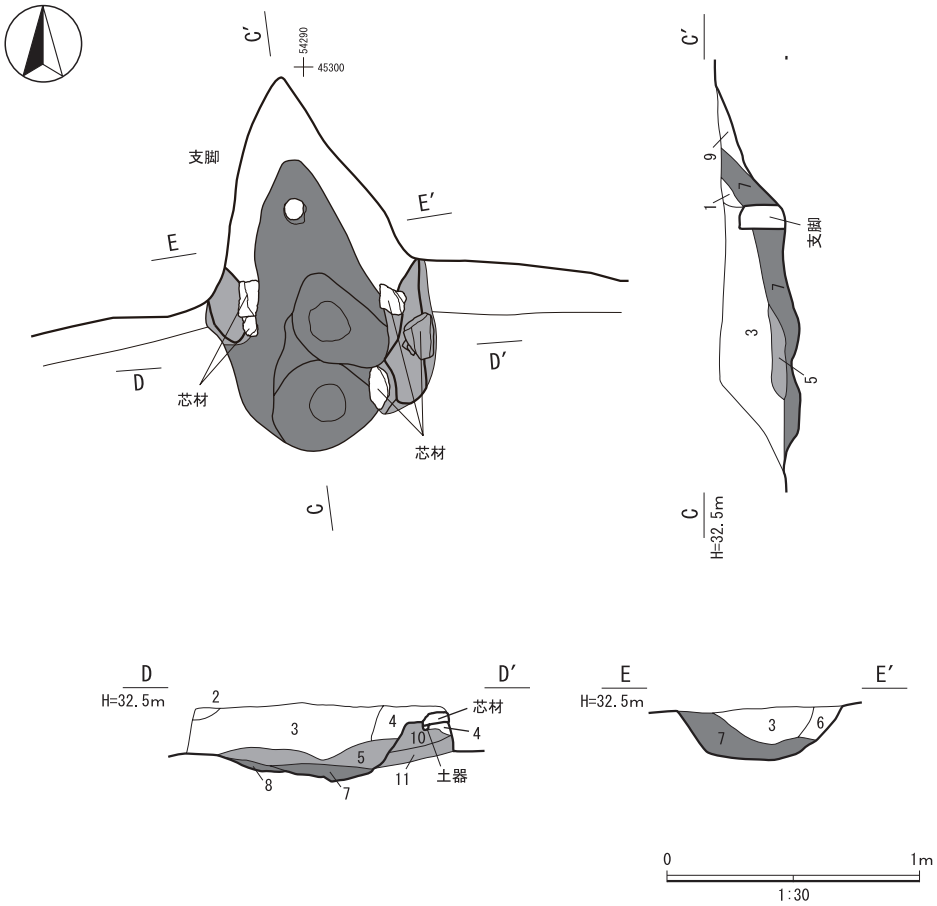
第 12 号住居跡３号ピット

1	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

第 12 号住居跡４号ピット

①	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

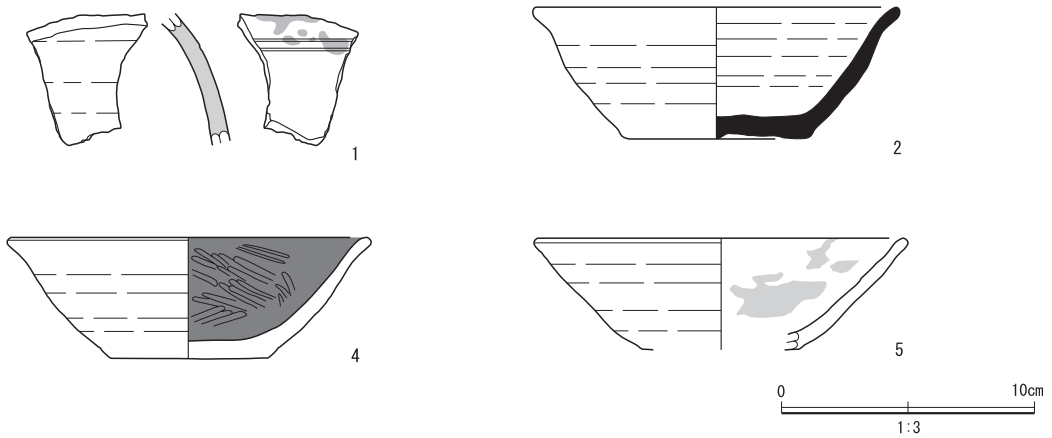
第 43 図　第 12 号住居跡カマド



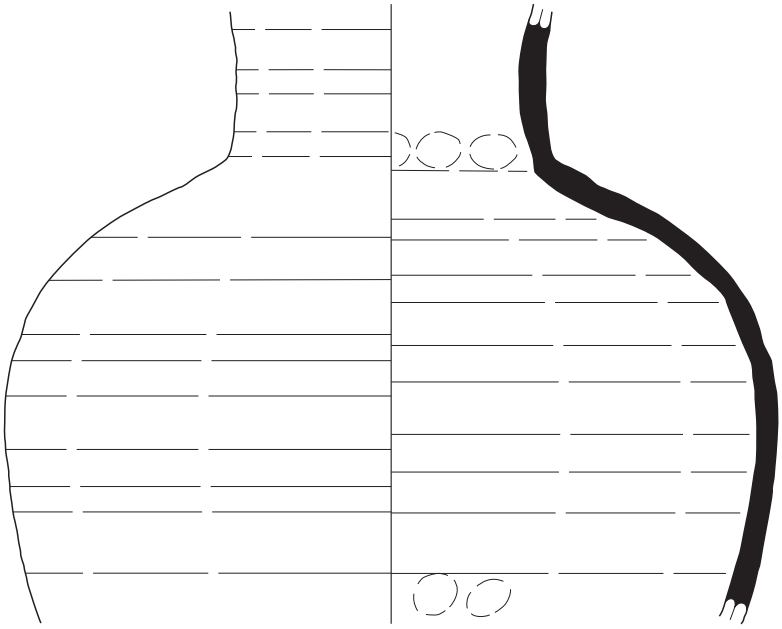
第 12 号住居跡カマド

1	10YR4/4 褐色土層	粘性をもつが，締まりに欠ける。ローム粒子を多量に，焼土粒子を少量含む。
2	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。
3	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
4	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
5	2.5YR6/6 橙色シルト層	粘性を強いが，やや締まりに欠ける。焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
6	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム土・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
7	2.5YR3/6 暗赤褐色土層	粘性に欠け，やや締まりに欠ける。焼土ブロック（φ１cm）・焼土粒子を少量含む。
8	2.5YR3/6 暗赤褐色土層	粘性に欠け，やや締まりに欠ける。ロームブロック（φ２cm）・焼土ブロック（φ１cm）・焼土粒子を少量含む。
9	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を微量含む。
10	10YR7/4 にぶい黄橙シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，黒色土を少量含む。（袖部）
11	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に，粘土ブロック（φ２cm）を少量含む。（袖部）

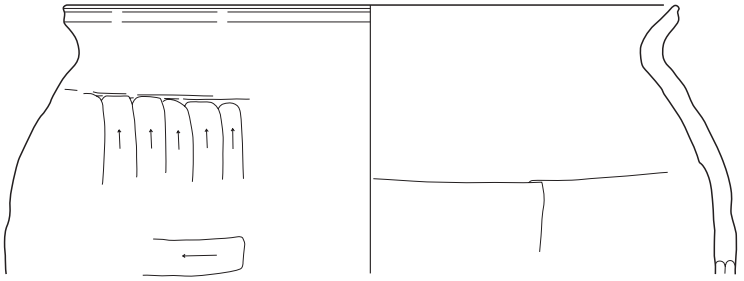
第 44 図　第 12 号住居跡の出土遺物（１）



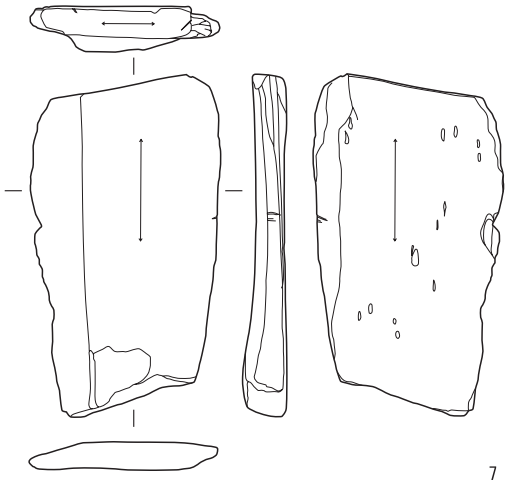
第 45 図　第 12 号住居跡の出土遺物（２）



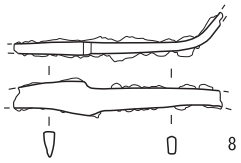
3



6



7



8

0　10cm
1:3

第 36 表　第 12 号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI12	覆土	灰釉陶器	壺	胴部	5	—	—	〈4.8〉	体部外面に平行する沈線を横走。全面ナデ。釉塗り掛け，自然釉。	白色粒子・黒色粒子	×	良好	10 Y R 7/2 にぶい黄橙色 釉：7.5Y4/2 灰オリーブ色	猿投窯跡群ヵ	
2	SI12	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	55	(14.2)	7.0	5.2	体部膨らみを持つ。口縁部外反。内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ，外面左回転ヘラ切り離し後ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	2.5 Y 6/2 灰黄色	新治窯跡群	
3	SI12	床面直上	須恵器	長頸壺	頸部～胴部	30	—	—	〈24.5〉	全面回転ナデ。肩部自然釉。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	N 5/0 灰色	木葉下窯跡群	
4	SI12	覆土	土師器	坏	口縁部～底部	40	(14.0)	6.2	4.8	内黒坏。体部わずかに膨らみを持つ。口縁部外反。内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，内面丁寧なナデ後斜方向ヘラミガキ。底部内面一方向ヘラミガキ，底部外面切り離し技法不明後丁寧なナデ。	白色粒子・チャート粒・雲母片・小礫	○	良好	10 Y R 4/3 にぶい黄橙色	—	
5	SI12	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	10	(14.4)	—	〈4.4〉	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	10 Y R 6/4 にぶい黄橙色	—	体部内面黒色付着物
6	SI12	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	10	(24.0)	—	〈10.7〉	常総型甕。口唇部斜め外側につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上端横方向ヘラケズリ，以下縦方向ヘラケズリ後ナデ，内面横方向ヘラナデ後ナデ。最大径は胴部上位。	白色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 Y R 6/4 にぶい橙色	—	

第 37 表　第 12 号住居跡出土石製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	特徴・手法	備考
7	SI12	覆土	石製品	砥石	片岩	13.1	7.9	1.8	248.2	右側面及び表裏面，下端面が使用面。	

第 38 表　第 12 号住居跡出土鉄製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	特徴・手法	備考
8	SI12	床面直上	金属製品	刀子	鉄製	〈8.2〉	1.3	0.6	29.4	基部及び先端部を欠損。刃部幅狭い。	

第 13 号住居跡（第 45 ～ 47 図，第 39・40 表，写真図版 9・29・30）

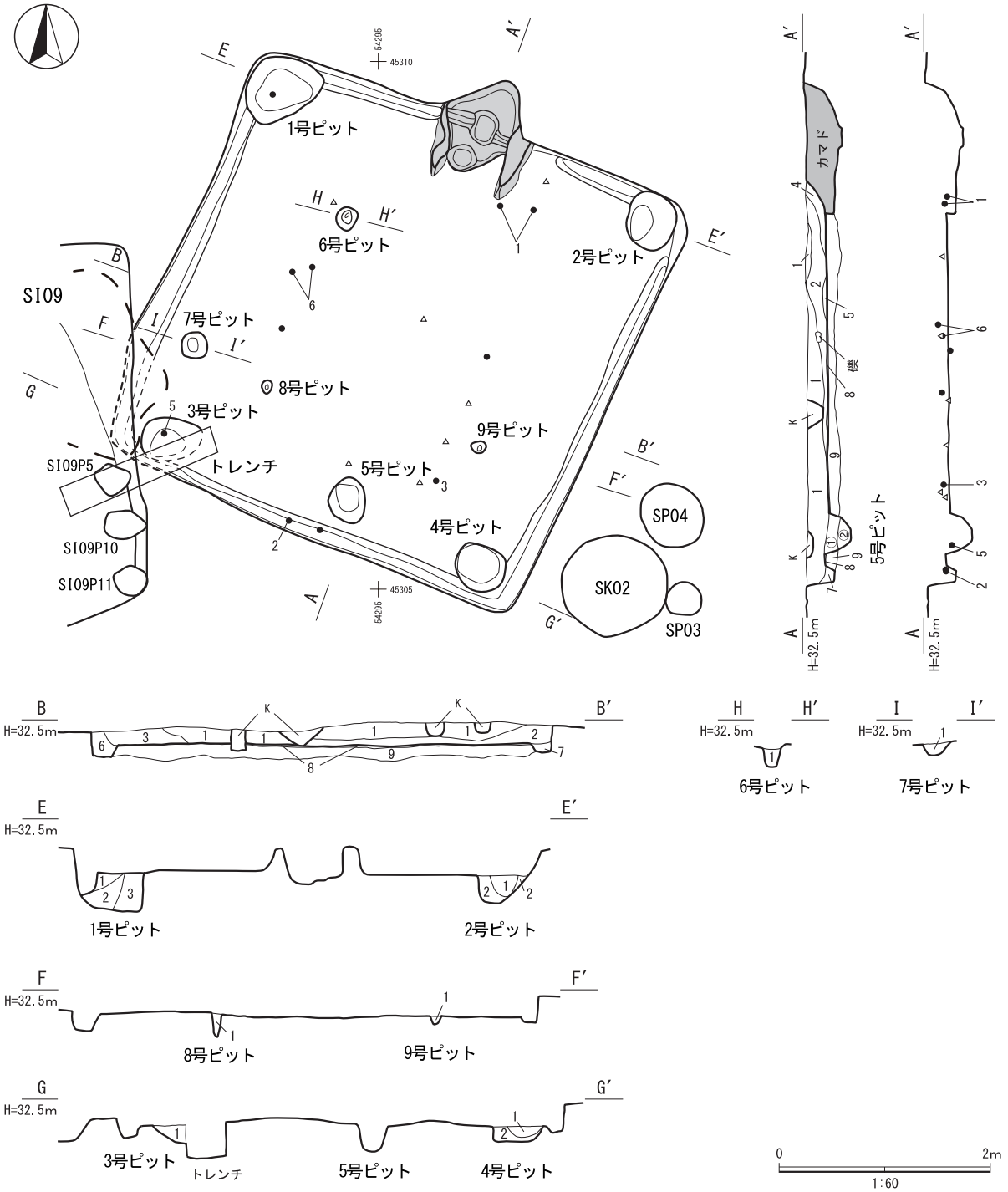
２区の東側，標高 32.5 m付近に，第９号・第 14 号住居跡に先行して位置する。住居跡の遺存度合は，南西隅に一部攪乱が位置する程度で概ね良好である。長軸 430 cm，短軸 422 cmの方形を呈し，主軸方位はＮ－ 21°－Ｅを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は 24 cmほどを測り，垂直に立ち上がる。土層は９層に分けられ，自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で，黒褐色土を基調とした厚さ１cmから２cmほどの堅固で緻密な貼床が全面に形成されている。壁溝は北壁際の一部および北東隅の一部を除き，カマド下部を含め全周して，幅 12 cmから 28 cm，深さ９cmから 12 cmほどを測る。柱穴は９基検出され，主柱穴は１号ピットから４号ピットの４基，出入口ピットはその位置から５号ピット考えられる。また，７号から９号ピットはその位置から添柱穴の可能性を持つ。カマドは住居跡北壁中央部に，北壁を 44 cmほど削り出して構築されていて，Ｎ－ 13°－Ｗの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 94 cm，袖部外側の幅は 97 cmを測り，天井部は崩落していて，

カマド土層断面図中の黄橙色シルトや橙色シルトが主体的に含まれる３層や４層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて，浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用している。また,内壁のごく一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。袖部内側の最大幅は 57 ㎝を測り，火床部は床面から 14 ㎝ほど２ヶ所を円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化しているが,顕著な焼土のブロック化は確認されていない。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。支脚は検出されていない。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面を，ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が，床面から最大 13 ㎝ほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 115 点, 9,244.9 ｇが出土しているが, 砂岩や安山岩･チャートの礫が６点で 5,776.7 ｇ，重量の 62％を締める。内訳は土器が縄文時代の中期加曽利Ｅ式期，須恵器の坏類や壺・鉢・蓋，土師器の坏類や甕壺類，石器は縄文時代の磨石・敲石，砂岩や安山岩・チャートの礫である。このうち６点の遺物を図示することができた。１は須恵器の坏である。２は須恵器の壺である。胴部外面に黒色付着物か確認される。３は偏平疑宝珠状鈕の須恵器蓋である。新治窯跡群産であろう。４･５は丸底の土師器坏である。２点共内面に２条一単位の放射状暗文が施される。６は素口縁の土師器甕である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より８世紀前葉から中葉の所産であった可能性が高い。

第 39 表　第 13 号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	北西隅	不整楕円形	逆台形状	76	58	6.9	ほぼ垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	土師器甕	
2号ピット	北東隅	楕円形	不整筒状	54	44	29	ほぼ垂直だが一部緩やか	起伏をもつ	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	土師器坏・甕	
3号ピット	南西隅	楕円形	推定筒状	60	〈26〉	19	緩やか	起伏をもつ	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	須恵器蓋 土師器甕	南半をトレンチで破壊
4号ピット	南東隅	円形	逆台形状	48	－	19	ほぼ垂直だが一部緩やか	起伏をもつ	－	－	－	－	自然	主柱穴	－	土師器坏	
5号ピット	南	楕円形	筒状	51	35	29	急角度	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	出入口ピット	－	無し	
6号ピット	中央やや南東	楕円形	筒状	21	19	24	ほぼ垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	不明	－	無し	
7号ピット	南西	円形	筒状	24	－	13	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	添柱穴ヵ	－	無し	
8号ピット	中央やや南東	不整円形	逆円錐状	12	－	25	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	添柱穴ヵ	－	無し	
9号ピット	中央やや南東	不整円形	逆円錐状	14	－	8	ほぼ垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	自然	添柱穴ヵ	－	無し	

第 46 図　第 13 号住居跡



第 13 号住居跡

1	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
2	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
3	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。
4	2.5YR3/6 暗赤褐色土層	やや粘性をもち，やや締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
5	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
6	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・褐色土を少量含む。
7	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
8	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
9	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を少量含む。（掘り方）

第 13 号住居跡１号ピット

1	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を少量含む。
2	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。
3	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・焼土ブロック（φ0.5cm）・焼土粒子を少量含む。

第 13 号住居跡２号ピット
１　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を少量含む。
２　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。

第 13 号住居跡３号ピット
１　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，焼土粒子を微量含む。

第 13 号住居跡４号ピット
１　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に，ロームブロック（φ１cm）を少量含む。
２　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム土を少量含む。

第 13 号住居跡５号ピット
①　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
②　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子・焼土粒子を多量に含む。

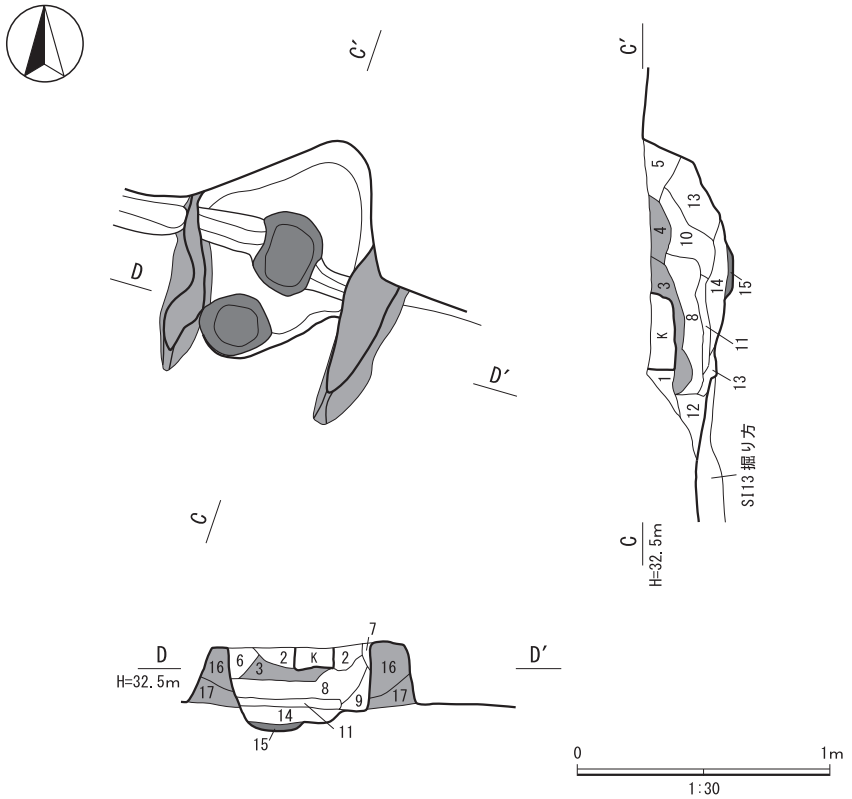
第 13 号住居跡６号ピット
１　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。

第 13 号住居跡７号ピット
１　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。

第 13 号住居跡８号ピット
１　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。

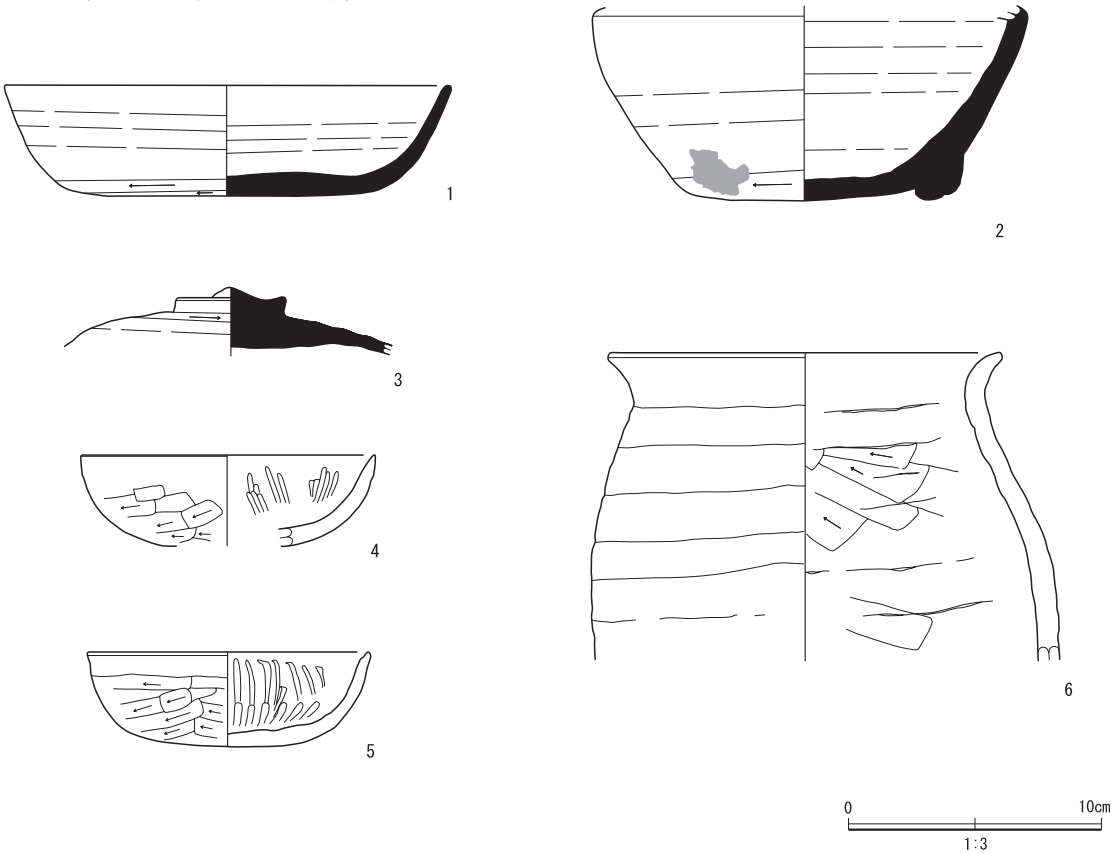
第 13 号住居跡９号ピット
１　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。

第 47 図　第 13 号住居跡カマド



第 13 号住居跡カマド
１　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に，焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
２　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に，粘土粒子を少量含む。
３　10YR8/6 黄橙色シルト層　粘性は強いが，締まりに欠ける。粘土主体，黒色土を少量含む。
４　2.5YR6/6 橙色シルト層　粘性を強いが，やや締まりに欠ける。焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
５　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
６　10YR8/6 黄橙色土層　　やや粘性に欠け，やや締まる。焼土ブロック（φ４cm）・焼土粒子を少量，黒色土粒子を微量含む。
７　2.5YR6/6　橙色土層　　粘性を強いが，やや締まりに欠ける。粘土粒子を多量に，焼土粒子を少量含む。
８　10YR4/4 褐色土層　　やや粘性に欠け，やや締まる。ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を少量含む。
９　10YR4/6 褐色土層　　やや粘性に欠け，やや締まる。焼土粒子・粘土粒子・黒色土粒子を少量含む。
10　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。焼土粒子・粘土粒子を少量，ロームブロック（φ１cm）を微量含む。
11　2.5YR4/6 赤褐色土層　　粘性・締まりに欠ける。焼土ブロック（φ0.5cm～４cm）主体。
12　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土ブロック（φ0.5cm）を少量含む。
13　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもつが，締まりに欠ける。黒色土粒子を少量含む。
14　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。焼土ブロック（φ１cm）を少量，ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。
15　2.5YR3/6 暗赤褐色土層　　粘性に欠け，やや締まりに欠ける。焼土ブロック（φ１cm）・焼土粒子を少量含む。
16　10YR8/3 浅黄橙色シルト層　粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。（袖部）
17　10YR8/3 浅黄橙色シルト層　粘性をもち，締まる。粘土粒子主体，褐色土を少量含む。（袖部）

第 48 図　第 13 号住居跡の出土遺物



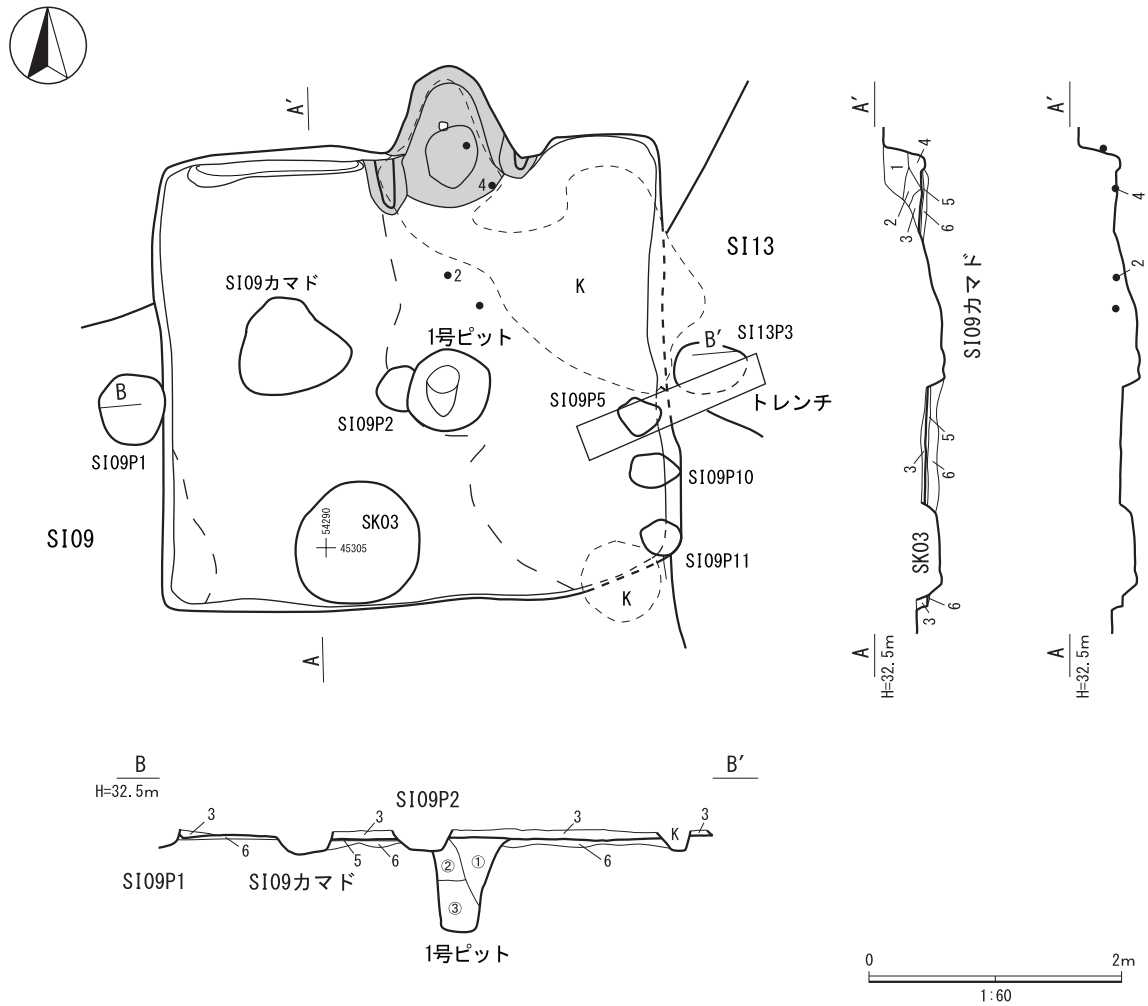
第 40 表　第 13 号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI13	カマド袖部・覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	85	17.4	10.0	4.4	体部わずかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ後ナデ，外面下端横方向手持ちヘラケズリ。底部内面ナデ，外面左回転ヘラ切り離し後未調整。	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英粒子・チャート粒子・雲母片	○	良好	10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色	木葉下窯跡群	
2	SI13	床面直上	須恵器	壺	胴部～底部	40	―	(8.8)	〈7.7〉	胴部内外面回転ナデ。底部内面ナデ，外面右回転ヘラ切り離し後強いナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	2.5Ｙ 5/1 黄灰色	―	胴部外面に黒色付着物
3	SI13	床面直上・覆土	須恵器	蓋	鈕～天井部	30	鈕部径 4.2	―	〈2.7〉	偏平疑宝珠状鈕。鈕部ナデ。天井部上位外面左回転ヘラケズリ，下位回転ナデ，内面ナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小礫	×	良好	10ＹＲ 6/4 にぶい黄橙色	新治窯跡群	
4	SI13	覆土	土師器	坏	口縁部～体部	45	(11.5)	―	〈3.6〉	丸底。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面斜方向ヘラケズリ，内面ナデ，２条１単位の放射状暗文。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5ＹＲ 5/4 にぶい褐色	―	
5	SI13 Ｐ３	覆土	土師器	坏	口縁部～底部	80	11.0	―	3.7	丸底須恵器模倣坏。口縁部と体部の境に稜を持たない。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位横方向のヘラケズリ，下位多方向ヘラケズリ，内面ナデ，２条１単位の放射状暗文。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・雲母片	×	良好	2.5ＹＲ 5/8 明赤褐色	―	
6	SI13	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	40	15.2	―	〈12.2〉	素口縁甕。口縁部外反，内外面ヨコナデ。胴部輪積み痕顕著。内外面ナデ。	白色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小礫	×	良好	10ＹＲ 7/3 にぶい黄橙色	―	

第14号住居跡（第48～50図，第41・42表，写真図版10・30）

２区の中央部，標高32.4ｍ付近に，第９号住居跡に先行，第13号住居跡に後続して位置する。住居跡の遺存度合は，全面を第９号住居跡に掘り込まれているうえ，北東側に大きな攪乱が位置することなどから不良である。長軸404㎝，短軸370㎝の方形を呈し，主軸方位はＮ－３°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，最大壁高は北壁の一部で35㎝ほどを測るが，全体的にほぼ上面を第９号住居跡により削平されている。壁は垂直に立ち上がる。土層は６層に分けられるが，全体的な状況が第９号住居跡により確認できなかったため埋没状況は不明である。床面はやや起伏をもち，黒褐色土を基調とした厚さ１㎝から３㎝ほどの堅固で緻密な貼床が，住居跡西側を中心に形成されている。壁溝は北壁西側際部分にのみ検出され，幅18㎝から25㎝，深さ３㎝から５㎝ほどを測る。柱穴は主柱穴と考えられるピットが１基検出されたが，その他の主柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは住居跡北壁中央部に，北壁を70㎝ほど削り出して構築されていて，Ｎ－４°－Ｗの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは138㎝，袖部外側の幅は112㎝を測り，天井部は崩落していて，カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる２層や５層・７層・11層が崩落土と考えられる。袖部は向かって東側の袖部が攪乱により一部削平されているが比較的良好に遺存していて，浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用している。袖部内側の最大幅は77㎝を測り，火床部は床面から９㎝ほど円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化しているが，顕著な焼土のブロック化などは確認されていない。火床面から煙道部は急角度に立ち上がる。また，中央やや北西寄りの位置に，凝灰岩を円柱状に削り出して作製された支脚が検出されている。その他，貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は，住居跡の全面を掘り込み，ロームブロックが混入する暗褐色土を基調とした土が，床面から最大９㎝ほど及んでいる。底面はやや起伏をもつ。遺物は128点，2,464.4ｇが出土している。内訳は土器が須恵器の坏類や高台付坏類・甕壺類・鉢・蓋，土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類・鉢である。このうち４点の遺物を図示することができた。１は木葉下窯跡群産の須恵器坏である。２は須恵器の蓋である。かえり・かえしが伴わない。３は土師器の高台付坏である。内面が黒色処理を施される。４は土師器の常総型甕である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 49 図　第 14 号住居跡



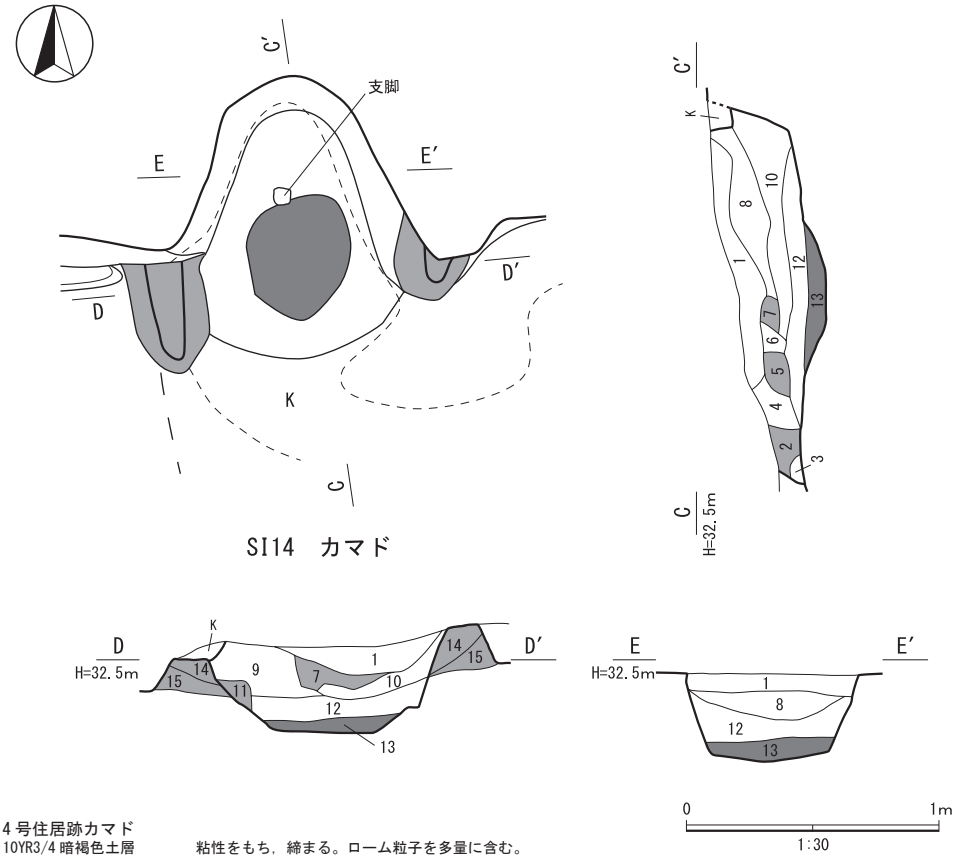
第 14 号住居跡
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ２cm）・粘土粒子を少量含む。
4　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～２cm）を少量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
6　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。（掘り方）

第 14 号住居跡１号ピット
①　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cmから２cm）を多量第 14 号住居跡
1　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ２cm）・粘土粒子を少量含む。
4　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～２cm）を少量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。（貼床）
6　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～４cm）を多量に含む。（掘り方）

第 41 表　第 14 号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	中央	円形	筒状	71	―	69	急角度	丸味を帯びる	―	―	―	―	人為	主柱穴ヵ	―	無し	

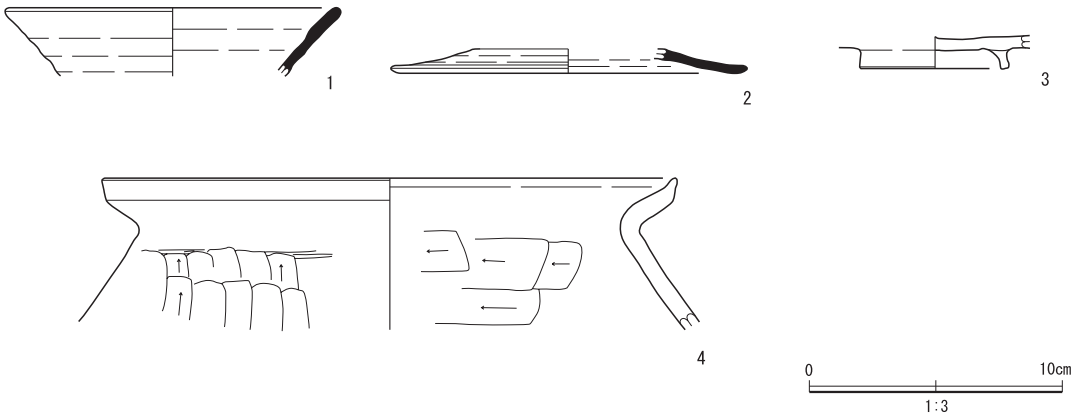
第 50 図　第 14 号住居跡カマド



第 14 号住居跡カマド

1	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
2	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土ブロック（φ２cm）を多量に含む。
3	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
4	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。粘土粒子を少量，ローム粒子を微量含む。
5	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘土ブロック（φ３cm）を多量に，粘土粒子を少量含む。
6	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
7	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘土粒子主体。黒色土を少量，焼土粒子を微量含む。
8	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
9	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量，焼土粒子を微量含む。
10	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を少量含む。
11	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘土粒子主体。黒色土を少量，焼土粒子を微量含む。
12	10YR4/4 褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子・焼土ブロック（φ１cm）・焼土粒子・粘土ブロック（φ0.5cm）を少量含む。
13	2.5YR4/6 赤褐色土層	粘性・締まりに欠ける。焼土ブロック（φ１cm）主体。（燃焼部）
14	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体。（袖部）
15	10YR8/3 浅黄橙色シルト層	粘性をもち，締まる。粘土粒子主体，褐色土を少量含む。（袖部）

第 51 図　第 14 号住居跡の出土遺物



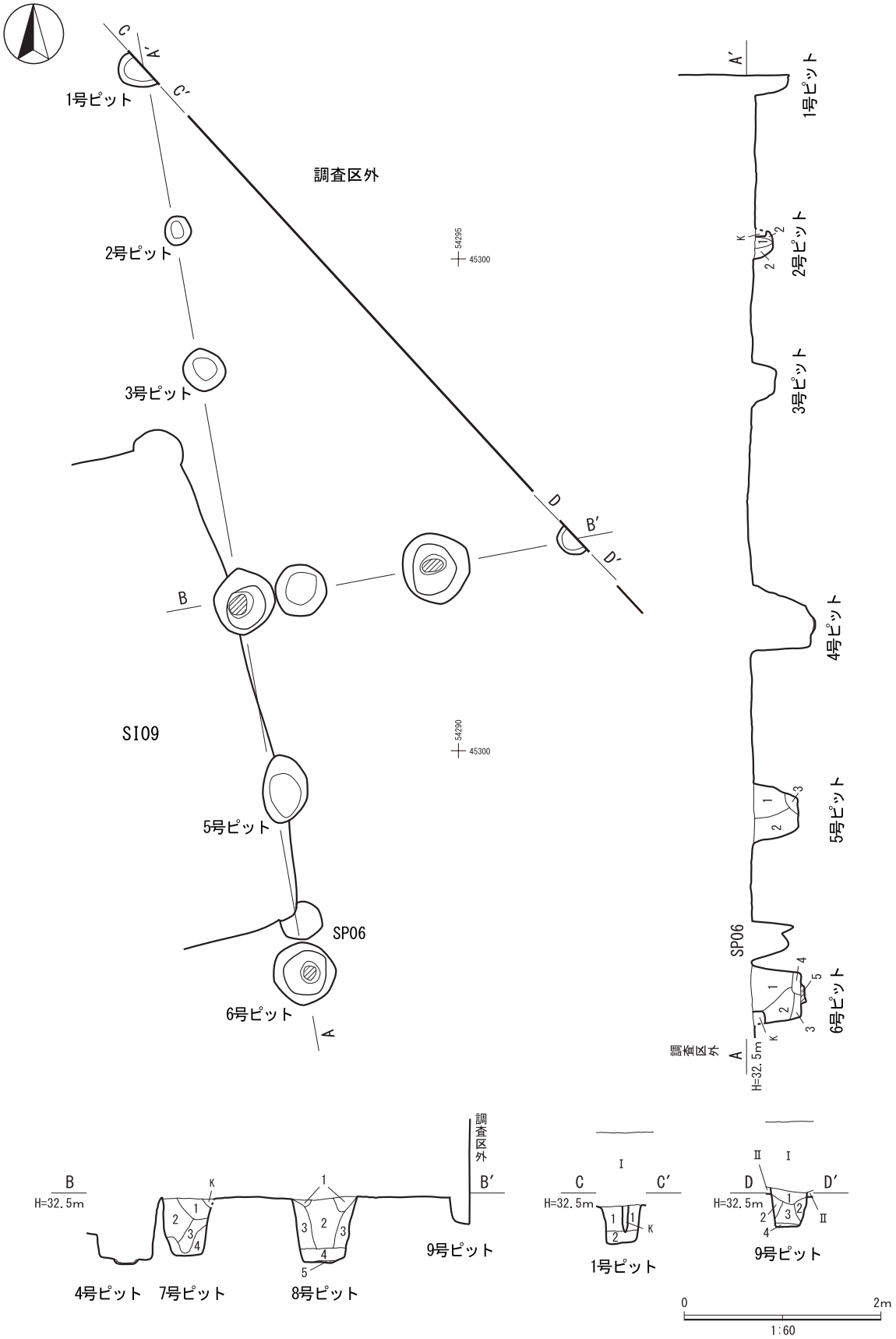
第 42 表　第 14 号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI14	掘り方	須恵器	坏	口縁部～体部	5	(13.0)	－	〈2.7〉	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面回転ナデ，外面ロクロ目顕著。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	2.5Y 6/3 にぶい黄橙色	木葉下窯跡群	
2	SI14	覆土	須恵器	蓋	端部	5	(12.6)	－	〈1.0〉	かえり・かえしなし。天井部内外面回転ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒	○	良好	2.5Y 5/2 暗灰黄色	木葉下窯跡群	
3	SI14	覆土	土師器	高台付坏	底部	5	－	5.2	〈1.3〉	内黒の高台付坏。底部内面一方向ミガキ，外面左回転ヘラ切り離し後強いナデ，高台部貼り付け。	白色粒子･石英粒	×	良好	7.5YR 6/4 にぶい橙色	－	
4	SI14 カマド	覆土	土師器	甕	口縁部～胴部	5	(22.6)	－	〈5.9〉	常総型甕。口唇部を上方につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ，内面横方向ヘラケズリ後ナデ。	白色粒子･石英粒･チャート粒･小礫	×	良好	7.5YR 5/4 にぶい褐色	－	

第１号掘立柱建物跡（第 51・52 図，第 43・44 表，写真図版 10・11・31）

２区の南東側から南側にかけて，標高 32.4 mから 32.5 mほどに，第９号住居跡に後続して分布する。桁行は２間以上，梁間は５間以上の建物で，桁行方向はＮ－ 10°－Ｗを示す。規模は桁行長 354 cm以上，梁間 936 cm以上，柱間寸法は平均 189.4 cmを測る。柱穴は９基確認されているが，１号から３号や９号ピットは，４号から８号ピットより径も小さく，深さも浅い。このことから，４号ピットから８号ピットまでで構成される掘立柱建物跡の可能性も指摘できる。しかし，ピットの配列は規則性を持つため，今回は掘立柱建物跡と報告する。各ピットの法量などは第 43 表を参照していただきたい。概ね平面形は円形または楕円形を呈し，径は平均 51 cm，深さは平均 45.7 cmを測る。ピット間距離は１号と２号ピット間が 170 cm，２号と３号ピット間は 146 cm，３号と４号ピット間は 242 cm，４号と５号ピット間は 201 cm，５号と６号ピット間は 188 cm，４号と７号ピット間は 66 cm，７号と８号ピット間は 136 cm，８号と９号ピット間は 148 cmほどを測る。４号・６号・８号ピットの底面から径 17 cmから 22 cmほどの，平面形が円形や楕円形の柱圧痕が，２号や８号ピットから断面で柱の抜き取り痕が確認されている。掘り方はにぶい黄褐色や黒褐色土などを基調とした，ローム粒子を含む，やや締まりをもつ土で構築されている。遺物は６号ピットから須恵器の坏類が１点，5.9 g，９号ピットから須恵器の蓋が１点，4.1 gが出土している。このうち須恵器の蓋１点を図示することができた。木葉下窯跡群産の蓋端部片である。かえりはない。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より 10 世紀前葉以降の所産であった可能性が高い。

第 52 図　第 1 号掘立柱建物跡



第１号掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡１号ピット
１　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
２　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に含む。

第１号掘立柱建物跡２号ピット
１　10YR3/2 黒褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
２　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。

第１号掘立柱建物跡５号ピット
１　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
２　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
３　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。

第１号掘立柱建物跡６号ピット
１　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
２　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
３　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
４　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。
５　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

第１号掘立柱建物跡７号ピット
１　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
２　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
３　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
４　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。

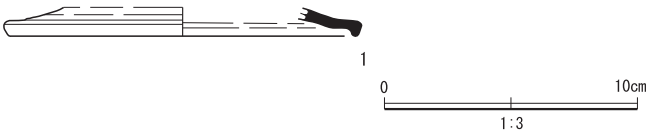
第１号掘立柱建物跡８号ピット
１　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。粘土粒子を多量に，ローム粒子を少量含む。
２　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
３　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
４　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
５　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。0

第１号掘立柱建物跡９号ピット
１　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
２　10YR4/4 褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
３　10YR3/3 暗褐色土層　　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
４　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。

第 43 表　第１号掘立柱建物跡ピット属性一覧

ピット番号	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	重複関係	出土遺物	備考
			長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕				
1号ピット	楕円形	筒状	〈41〉	〈24〉	35	急角度	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為	－	無し	
2号ピット	楕円形	筒状	29	26	21	緩やか	起伏をもつ	－	－	－	有り	人為	－	無し	
3号ピット	円形	筒状	43	－	27	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為	－	無し	版築状の掘り方
4号ピット	円形	逆台形状	63	－	65	急角度	丸味を帯びる	1	円形・中央	22	－	人為	SI09 に後続	無し	粗雑な版築状の掘り方
5号ピット	楕円形	逆台形状	68	45	48	急角度	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為	SI09 に後続	無し	粗雑な版築状の掘り方
6号ピット	円形	逆台形状	63	－	56	急角度	平坦	1	円形・中央やや南	17	－	人為	－	須恵器坏	
7号ピット	円形	箱状	53	－	60	急角度	平坦	－	－	－	－	人為	－	無し	
8号ピット	円形	逆台形状	67	－	69	ほぼ垂直	平坦	1	楕円形・中央やや東	22.13	有り	人為	－	無し	
9号ピット	円形	筒状	32	－	30	ほぼ垂直	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為	－	須恵器蓋	

第 53 図　第１号掘立柱建物跡の出土遺物



第 44 表　第１号掘立柱建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	９号ピット	覆土	須恵器	蓋	天井部～端部	5	(13.5)	－	〈1.1〉	かえりなし。かえし短く垂下する。天井部内外面回転ナデ。	白色粒子・チャート粒	○	良好	2.5 Y 6/1 黄灰色	木葉下窯跡群	

第２号掘立柱建物跡（第 53・54 図，第 45 ～ 48 表，写真図版 11 ～ 13・31）

１区の北側から中央部にかけて，標高 32.3 ｍから 32.4 ｍほどに，第４号住居跡に先行，第８号・第 13 号ピットに後続して分布する。桁行は４間以上，梁間は３間以上の側柱建物で，桁行方向はＮ－ 12°－Ｅを示す。規模は桁行長 688 ㎝以上，梁間 696 ㎝以上，柱間寸法は平均 233.3 ㎝を測る。柱穴は８基確認されている。各ピットの詳細な法量などは第 45 表を参照していただきたい。概ね平面形は隅丸方形が中心で，方形を志向している。長軸は平均 99 ㎝，短軸は平均 83.5 ㎝，深さは平均 102.6 ㎝を測る。ピット間距離は１号と２号ピット間が 162 ㎝，２号と３号ピット間は 150 ㎝，３号と４号ピット間は 182 ㎝，４号と５号ピット間は 184 ㎝，５号と６号ピット間は 216 ㎝，６号と７号ピット間は 246 ㎝，７号と８号ピット間は 238 ㎝を測る。ピットの底面から１ヶ所ないし２ヶ所，径 17 ㎝から 34 ㎝ほどの，平面形が円形や楕円形の柱圧痕が，１号や７号ピット以外から断面で柱の抜き取り痕が確認されている。掘り方はロームブロックを多量に含む，黒褐色や褐色，明黄褐色土などを基調とした，やや締まりをもつ土で構築されている。また，１号から３号や８号ピットでは掘り方が黒褐色土とロームブロックの互層となる版築状となっている。遺物は１号ピットから時期不明の縄文土器や須恵器の坏類・甕壺類・蓋，土師器の甕壺類，丸瓦が合計で 49 点，747.3 ｇ，６号ピットから須恵器の甕壺類が４点，79.0 ｇが出土している。このうち２点を図示することができた。１は須恵器の坏底部片である。底部外面全面に手持ちヘラケズリを施す。２は凸面ナデで，凹面布目の丸瓦である。その胎土から１・２共に木葉下窯跡群産であろう。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より７世紀後半から８世紀前半の所産であった可能性が高い。

第２号掘立柱建物跡１号ピット

２区の北側，標高 32.3 ｍ付近に，第８号ピットに先行して位置する。第２号掘立柱建物跡における，確認された桁行の最も北側のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸 127 ㎝，短軸 97 ㎝，深さ 104 ㎝ほどを測り，主軸方位はＮ－ 12°－Ｅを示す。断面形は逆台形状を呈し，壁は急角度に立ち上がる。底面はやや起伏をもつ。また，平面形が楕円形の柱圧痕が底面中央部やや南側に１ヶ所確認されている。長軸 34 ㎝，短軸 23 ㎝ほどを測る。土層は４層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕は確認されていないが，一部ロームブロックの混入する黒褐色土や明黄褐色土などが互層となり，乱雑な版築を形成して，掘り方となる。遺物は時期不明の縄文土器や須恵器の坏類・甕壺類・蓋，土師器の甕壺類，丸瓦が合計で 49 点，747.3 ｇが出土している。

第２号掘立柱建物跡２号ピット

２区の北側，標高 32.3 ｍ付近に，単独で位置する。第２号掘立柱建物跡における，確認された桁行の北から２番目のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸 125 ㎝，短軸 97 ㎝，深さ 125 ㎝ほどを測り，主軸方位はＮ－ 74°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面はやや起伏をもつ。また，平面形が楕円形の柱圧痕が底面北側に１ヶ所確認されている。長軸 22 ㎝，短軸 17 ㎝ほどを測る。土層は５層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また，一部ロームブロッ

クの混入する褐色土や黒褐色土などが互層となり，乱雑な版築を形成して，掘り方となる。遺物は出土していない。

第２号掘立柱建物跡３号ピット

２区の北側，標高 32.3 ｍ付近に，単独で位置する。第２号掘立柱建物跡における，確認された桁行の北から３番目のピットである。南東側 1/2 が電柱の添えワイヤー部分に位置して，その部分は調査できなかった。平面形は推定不整円形を呈する。長軸 61 ㎝，短軸現存 37 ㎝，深さ 111 ㎝ほどを測る。断面形は筒状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は丸味を帯びる。また，平面形が円形の柱圧痕が底面中央部に１ヶ所確認されている。径 17 ㎝ほどを測る。土層は６層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また，一部ロームブロックの混入する明黄褐色土や黒褐色土などが互層となり，整然な版築を形成して，掘り方となる。遺物は出土していない。第２号掘立柱建物跡を構成するピットのうち，本ピットのみ平面形が円形と推定される。しかし，本ピットの法量や版築の状況などから考えて，第２号掘立柱建物跡を構成するピットの一つと判断している。

第２号掘立柱建物跡４号ピット

２区の中央部やや北東側，第２号掘立柱建物跡の検出されたピットのうち，確認された桁行の北から４番目に位置する。標高 32.4 ｍ付近に，単独で位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長軸 109 ㎝，短軸 101 ㎝，深さ 118 ㎝ほどを測る。主軸方位はＮ－ 14°－Ｅを示す。断面形は箱状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。また，平面形が円形の柱圧痕が底面中央部やや西側に１ヶ所確認されている。径 22 ㎝ほどを測る。土層は７層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また，一部ロームブロックと明黄褐色土や黒褐色土などが混入する土が，乱雑な版築状となり，掘り方として形成されている。遺物は出土していない。

第２号掘立柱建物跡５号ピット

２区の中央部やや東側，標高 32.3 ｍ付近に，単独で位置する。第２号掘立柱建物跡の検出されたピットのうち，確認された桁行と梁行の交差する建物南東隅のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸 117 ㎝，短軸 74 ㎝，深さ 115 ㎝ほどを測る。主軸方位はＮ－ 74°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。また，平面形が円形の柱圧痕が底面中央部やや北東側に１ヶ所確認されている。径 21 ㎝ほどを測る。土層は７層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また，一部ロームブロックや鹿沼土ブロックの混入する明黄褐色土や黒褐色土などが互層となり，粗雑な版築を形成して，掘り方となる。遺物は出土していない。

第２号掘立柱建物跡６号ピット

２区の中央部，標高 31.8 m付近に，第４号住居跡に先行して位置する。確認面標高が他のピットに比べ深いのは，第４号住居跡の床下から検出されたためである。第２号掘立柱建物跡における，確認された梁行の東から４番目のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸 121 ㎝，短軸 92 ㎝，深さ 72 ㎝ほどを測る。主軸方位はＮ－ 87°－Ｅを示す。断面形は逆台形状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。また，平面形が円形の柱圧痕が底面中央部やや北西側に１ヶ所確認されている。径 21 ㎝ほどを測る。土層や埋没状況，掘り方などは完掘してしまったため不明である。遺物は土師器の甕壺類が４点，79.0 ｇ出土している。

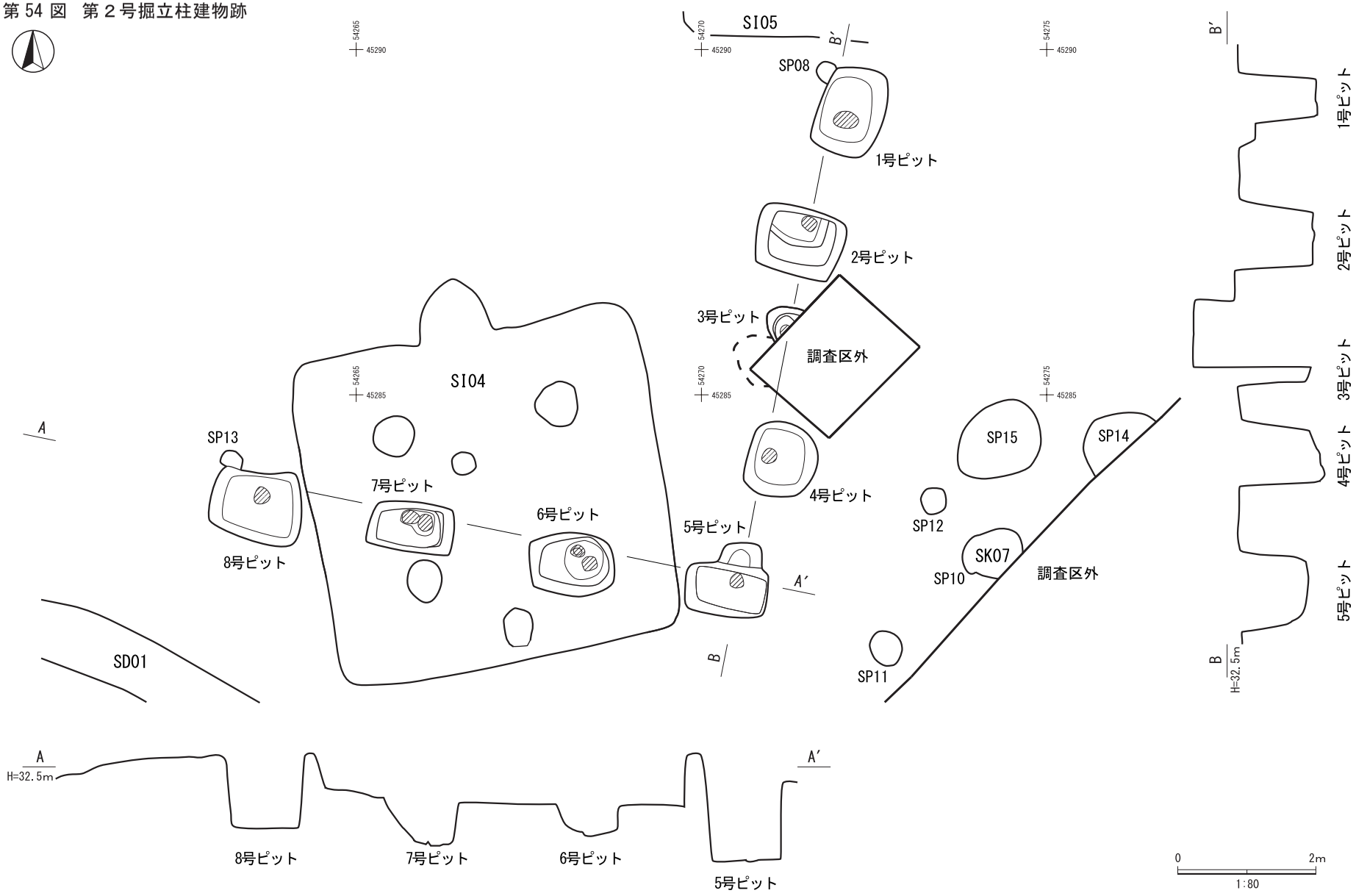
第２号掘立柱建物跡７号ピット

２区の中央部やや西側，標高 31.8 m付近に，第４号住居跡に先行して位置する。確認面標高が他のピットに比べ深いのは，第４号住居跡の床下から検出されたためである。第２号掘立柱建物跡における，確認された梁行の東から２番目のピットである。平面形は長方形を呈する。長軸 121 ㎝，短軸 72 ㎝，深さ 68 ㎝ほどを測る。主軸方位はＮ－ 80°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，壁は急角度に立ち上がる。底面は起伏をもつ。また，平面形が楕円形の柱圧痕が底面北側に２ヶ所確認されている。長軸 27 ㎝および 24 ㎝，短軸 24 ㎝および 20 ㎝ほどを測る。土層は４層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕や版築状の掘り方は確認されていない。遺物は出土していない。

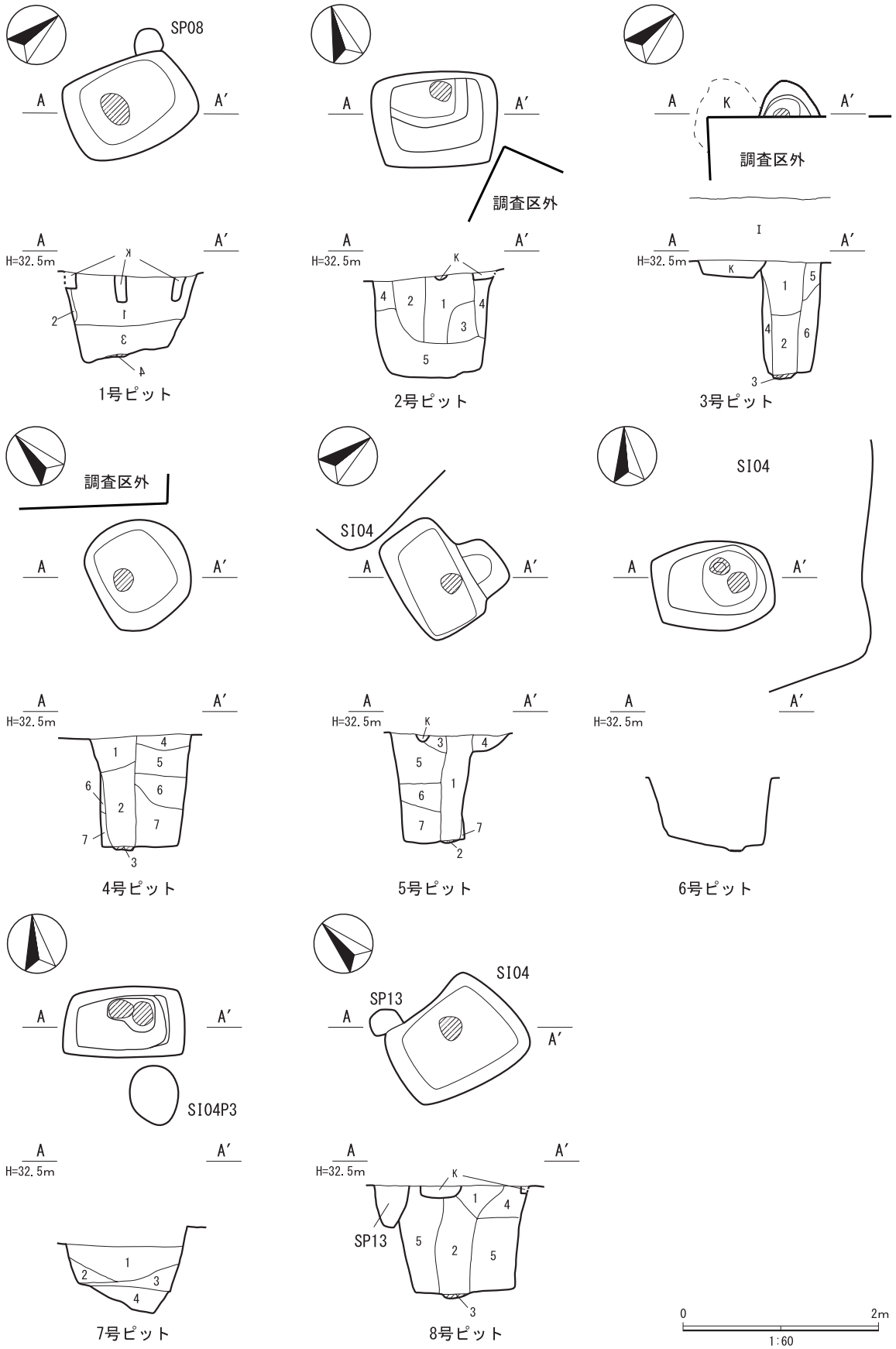
第２号掘立柱建物跡８号ピット

２区の西側，標高 32.3 m付近に，第 13 号ピットに先行して位置する。第２号掘立柱建物跡における，確認された梁行の最も東側のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸 132 ㎝，短軸 98 ㎝，深さ 108. ㎝ほどを測る。主軸方位はＮ－ 78°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。また，平面形が円形の柱圧痕が底面北側に１ヶ所確認されている。径 22 ㎝を測る。土層は５層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また，一部ロームブロックの混入する褐色土や黒褐色土などが互層となり，乱雑な版築を形成して，掘り方となる。遺物は出土していない。

第 54 図　第２号掘立柱建物跡



第 55 図　第 2 号掘立柱建物跡ピット



第２号掘立柱建物跡

第２号掘立柱建物跡１号ピット
1　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・鹿沼土粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～４cm）を多量に，ローム粒子･黒褐色土層･鹿沼土ブロック（φ２cm）を少量含む。
4　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

第２号掘立柱建物跡２号ピット
1　10YR5/8 黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・鹿沼土粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を多量に含む。
3　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子・鹿沼土粒子を少量含む。
4　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～４cm）を多量に，ローム粒子・黒褐色土・鹿沼土ブロック（φ２cm）を少量含む。

第２号掘立柱建物跡３号ピット
1　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量，ロームブロック（φ１cm）を微量含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
4　10YR6/8 明黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム土・ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を多量に含む。
5　10YR6/8 明黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム土を多量に，ロームブロック（φ１cm）を少量含む。
6　10YR2/3 黒褐色土層で，　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む層と 10YR4/8 明黄褐色土層で，粘性をもち，締まる。ローム土・ロームブロック（φ３cm）を多量に含む層の互層。

第２号掘立柱建物跡４号ピット
1　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を多量に含む。
3　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，強く締まる。鹿沼土粒子を多量に，ロームブロック（φ２cm）を少量含む。
4　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm～５cm）を多量に，ローム粒子を少量含む。
6　10YR6/8 明黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～５cm）主体，ローム土を多量に含む。
7　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３cm～５cm）・ローム粒子を多量に含む。

第２号掘立柱建物跡５号ピット
1　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
2　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に含む。
3　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・鹿沼土ブロック（φ２cm）を多量に含む。
4　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
5　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を多量に含む。
6　10YR6/8 明黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム土・ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を多量に含む。
7　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を多量に含む。

第２号掘立柱建物跡７号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３cm）・ローム粒子を多量に含む。
2　10YR6/8 明黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm～４cm）・ローム粒子を多量に含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
4　10YR7/8 黄橙色土層　粘性をもち，締まる。鹿沼土ブロック（φ１cm）を少量含む。

第２号掘立柱建物跡８号ピット
1　10YR5/8 黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）・ローム粒子を多量に，鹿沼土粒子を微量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子・鹿沼土粒子を少量含む。
3　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を多量に含む。
4　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm～４cm）を多量に，ローム粒子・黒褐色土・鹿沼土ブロック（φ２cm）を少量含む。
5　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。

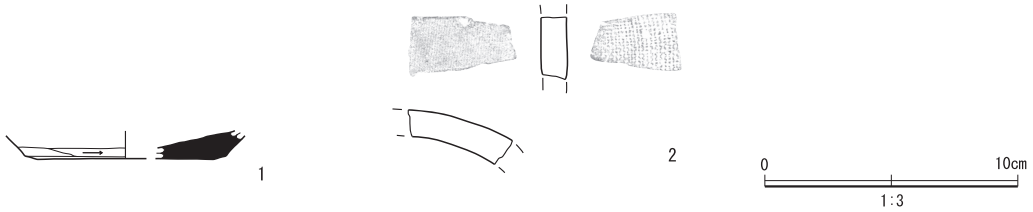
第 45 表　第２号掘立柱建物跡ピット属性一覧（１）

ピット番号	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	重複関係	出土遺物	備考
			長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕				
1号ピット	隅丸丸形	逆台形状	127	97	104	急角度	やや起伏をもつ	1	楕円形・中央やや南	34 × 23	―	人為	SP08 に先行	縄文土器・須恵器坏・甕壺類・蓋土師器甕・丸瓦	掘り方は弱い互層
2号ピット	隅丸丸形	箱状	125	97	125	ほぼ垂直	やや起伏をもつ	1	楕円形・北	27 × 17	有り	人為	―	無し	掘り方は弱い互層
3号ピット	不整円形	筒状	61	〈37〉	111	ほぼ垂直	丸味を帯びる	1	円形・中央	17	有り	人為	―	無し	南東側 1/2 は調査できなかった掘り方は版築状
4号ピット	隅丸丸形	箱状	109	101	118	ほぼ垂直	平坦	1	円形・中央やや西	22	有り	人為	―	無し	
5号ピット	隅丸丸形	箱状	117	74	115	ほぼ垂直	平坦	1	円形・中央やや北東	21	有り	人為	―	無し	北側に深さ 15 cmの突出部あり
6号ピット	隅丸丸形	逆台形状	121	92	72	ほぼ垂直	やや起伏をもつ	2	楕円形および隅丸方形・中央やや北	21 × 17 21 × 20	不明	不明	SI04 に先行	土師器甕	

第 46 表　第２号掘立柱建物跡ピット属性一覧（２）

ピット番号	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	重複関係	出土遺物	備考
			長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕				
7号ピット	長方形	逆台形状	121	72	68	急角度	起伏をもつ	2	楕円形・中央やや北	27 × 18 24 × 20	―	人為	SI04 に先行	無し	
8号ピット	隅丸方形	逆台形状	132	98	108	ほぼ垂直	平坦	1	円形・中央やや北	22	有り	人為	SP13 に先行	無し	掘り方は弱い互層

第 56 図　第２号掘立柱建物跡の出土遺物



第 47 表　第２号掘立柱建物跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SB02 P１	覆土	須恵器	坏	底部	5	―	(7.9)	〈1.1〉	体部外面回転ナデ，下端横方向手持ちヘラケズリ。底部内面ナデ，外面切り離し技法不明後全面手持ち多方向ヘラケズリ。	白色粒子・石英粒	○	良好	5Y 6/1 灰色	木葉下窯跡群	

第 48 表　第２号掘立柱建物跡出土瓦属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	全長（cm）	全幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	凹面痕跡	凹面調整	凸面痕跡	凸面調整	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
2	SB02 P１	覆土	丸瓦	〈2.3〉	〈4.0〉	1.1	16.4	布目	―	―	ナデ	白色粒子・チャート粒	×	良好	2.5Y 8/1 灰白色	

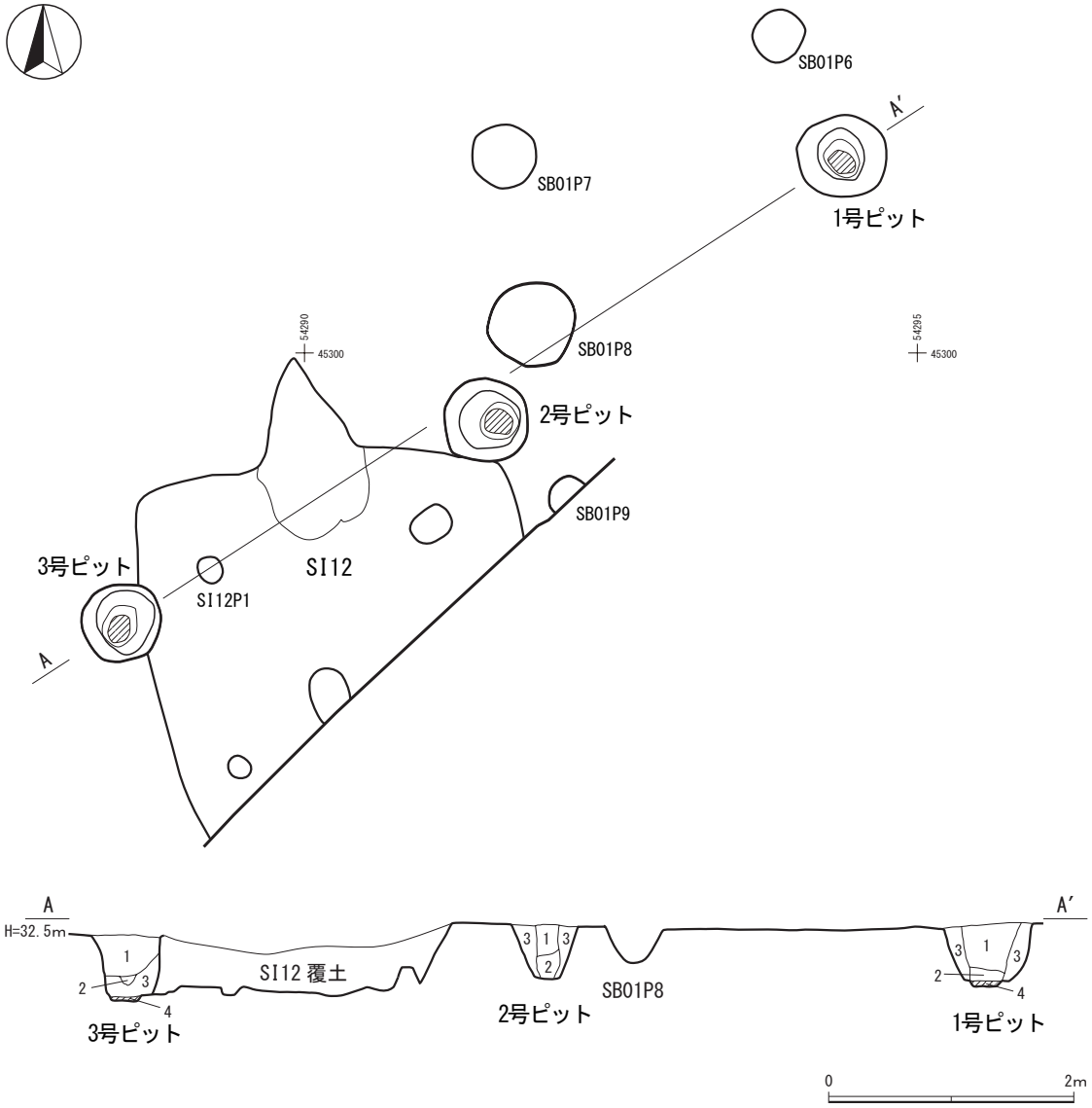
第１号ピット列（第 56 図，第 49 表．写真図版 13）

２区の南側，標高 32.4 m から 32.5 m 付近に，第 12 号住居跡に後続して位置する。３基のピットで構成され，全長 701 cm を測り，主軸方向はＮ－ 57°－Ｅを示す。ピットの平面形はすべて円形を呈し，ピット間寸法は平均 349 cm，深さ平均 50 cm ほどを測る。３基すべての底面から柱の圧痕，１号・２号ピットから断面で柱の抜き取り痕が確認されている。ピット間の距離は１号ピットと２号ピットは 346 cm，２号ピットと３号ピットは 352 cm を測る。各ピットの法量などは第 49 表で確認していただきたい。遺物は１号・２号ピットから出土していないが，３号ピットから７点，54.1 g が出土している。内訳は土師器の坏類・甕壺類，鉄製品の釘であるが，すべて細片のため図示することはできなかった。出土遺物や覆土の状況，重複関係より 10 世紀前葉以降の所産であった可能性が高い。

第 49 表　第１号ピット列ピット属性一覧

ピット番号	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	重複関係	出土遺物	備考
			長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕				
1号ピット	円形	筒状	71	―	50	急角度	平坦	1	楕円形・中央	23 × 19	―	人為	―	土師器坏	
2号ピット	円形	筒状	71	―	46	急角度	平坦	1	楕円形・東	22 × 20	有り	人為	―	土師器坏・甕	
3号ピット	円形	筒状	65	―	55	急角度	平坦	1	楕円形・中央	23 × 17	有り	人為	―	無し	

第 57 図　第１号ピット列



第１号ピット列

第１号ピット列１号ピット

1	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
2	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
3	10YR3/3 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
4	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。

第１号ピット列２号ピット

1	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
2	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２cm）を少量，ローム粒子を微量含む。
3	10YR4/3 にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）を多量に，ローム粒子を少量含む。

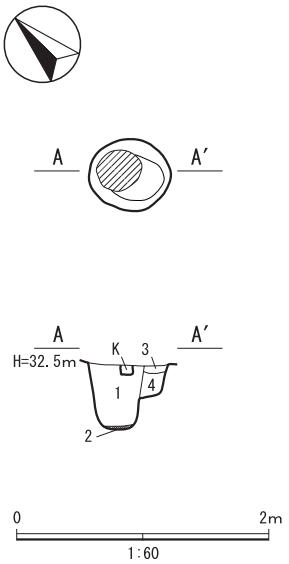
第１号ピット列３号ピット

1	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。粘土粒子を多量に含む。
2	10YR4/4 褐色土層	粘性をもつが，やや締まりに欠ける。粘土粒子を多量に含む。
3	10YR2/3 黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１cm）・ローム粒子を少量含む。
4	10YR3/4 暗褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２cm）を多量に含む。

第４号ピット（第 57 図，第 50 表，写真図版 14・31）

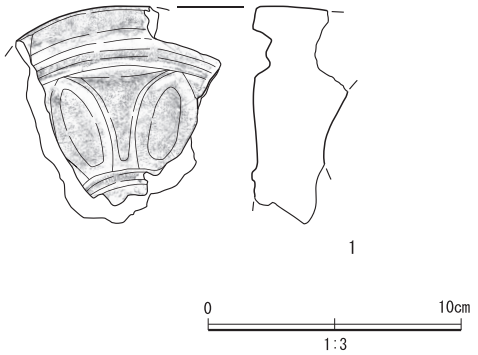
２区の東側，標高 32.4 m付近に単独で位置する。平面形は楕円形を呈する。長軸 63 ㎝，短軸 56 ㎝，深さ 51 ㎝を測り，主軸方位はＮ－ 44°－Ｗを示す。断面形は有段の筒状を呈し，壁は急角度に立ち上がる。底面は平坦である。土層は３層に分かれ，人為的な埋没状況を示す。遺物は 16 点で 348.8 ｇが出土している。内訳は，土器が縄文時代の中期加曽利Ｅ式期の深鉢，須恵器の坏類・高台付坏類・蓋，土師器の甕壺類・蓋，軒丸瓦が出土している。このうち，軒丸瓦１点を図示することができた。１は素文縁単弁八弁蓮華文軒丸瓦の瓦当面片である。連子数などは欠損して不明であるが，全体的に丸味を帯びることから，使用された瓦当范の後期に造られたと考えられる。3103 型式であろう。遺構の法量や形状から，第５号ピットや第１号掘立柱建物跡における４号から８号ピットと共通する要素が多いため，掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは，規則的な配列が確認できなかったため，今回は単独のピットとして報告する。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況より平安時代の所産であった可能性が高い。

第 58 図　第４号ピット



第４号ピット
１　10YR3/4 暗褐色土層　　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子・粘土粒子を多量に含む。
２　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１㎝）・ローム粒子を少量含む。
３　10YR7/6 明黄褐色土層　　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム土を多量に，粘土粒子・暗褐色土を少量含む。
４　10YR2/3 黒褐色土層　　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１㎝）・ローム粒子を少量含む。

第 59 図　第４号ピットの出土遺物



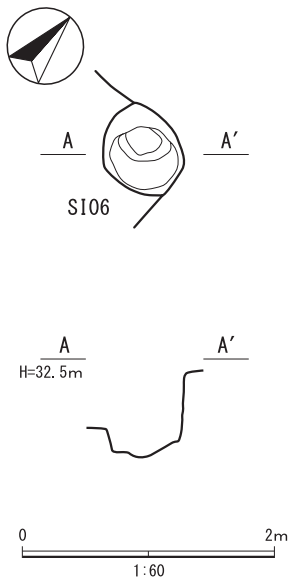
第 50 表　第４号ピット出土瓦属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	全長（cm）	全幅（cm）	厚さ（cm）	重量（ｇ）	特徴・手法	胎土鉱物	海綿骨針	焼成	色調	備考
1	SP04	覆土	軒丸瓦	〈8.6〉	〈8.1〉	3.8	118.6	素文縁単弁八弁蓮華文軒丸瓦。全面ナデ。連子数等不明。丸瓦部一方向ヘラケズリ調整。	白色粒子･赤色粒子･石英粒子･チャート粒子	×	良好	2.5Ｙ 8/1 灰白色	

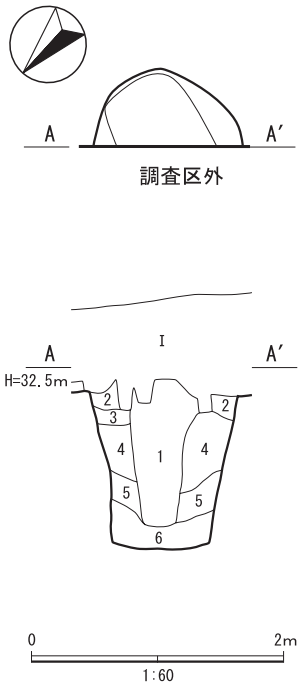
第５号ピット（第 59 図，写真図版 15）

２区の南西側，標高 32.4 ｍ付近に，第６号住居跡に後続して位置する。平面形は楕円形を呈する。長軸 75 ㎝，短軸 61 ㎝，深さ 69 ㎝を測り，主軸方位はＮ－ 62°－Ｗを示す。断面形は筒状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。第６号住居跡掘削中に確認されたため，土層や埋没状況は不明である。また，底面の北西側に柱の圧痕が確認されている。平面形は隅丸方形で，長軸 23 ㎝，短軸 22 ㎝を測る。遺物は出土していない。遺構の法量や形状から第４号ピットや第１号掘立柱建物跡における４号から８号ピットと共通する要素などが多いため，掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは，規則的な配列が確認できなかったため，今回は単独のピットとして報告する。遺構の形状，覆土の状況，重複関係より９世紀以降の所産であった可能性が高い。

第 60 図　第５号ピット



第 61 図　第 14 号ピット



第 14 号ピット（第 60 図，写真図版 15）

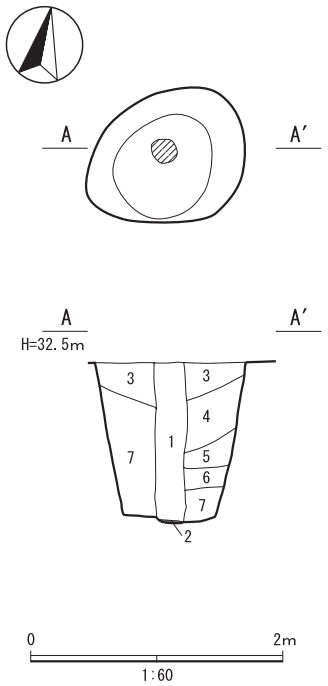
１区の東側，標高 32.3 ｍ付近に，単独で位置する。南東側 1/2 が調査区外であるため，その部分は調査ができなかった。平面形は隅丸方形を呈する。長軸現存 64 ㎝，短軸現存 83 ㎝，深さ 124 ㎝を測り，主軸方位はＮ－ 71°－Ｗを示す。断面形は逆台形状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。土層は６層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認され，ロームブロックと黄褐色土や黒褐色土・鹿沼土などが混入する土が，掘り方として確認されている。遺物は出土していない。遺構の法量や形状から第 15 号ピットや第２号掘立柱建物跡における各ピットと共通する要素などが多いため，大型の掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは，規則的な配列が確認できなかったため，今回は単独のピットとして報告する。遺構の形状，覆土の状況より奈良・平安時代の所産であった可能性が高い。

第 14 号ピット
１　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
２　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
３　10YR7/6 明黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３㎝）を多量に，黒色土を少量含む。
４　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２㎝）多量に，ローム粒子を少量含む。
５　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３㎝）多量に，鹿沼土ブロック（φ２㎝）を少量含む。
６　10YR6/8 明黄褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１㎝）・鹿沼土ブロック（φ２㎝）を少量含む。

第15号ピット（第61図，写真図版15）

１区の東側，標高32.3ｍ付近に，単独で位置する。平面形は不整楕円形を呈する。長軸133㎝，短軸107㎝，深さ137㎝を測り，主軸方位はＮ－54°－Ｅを示す。断面形は逆台形状を呈し,壁は急角度に立ち上がる。底面は平坦である。土層は７層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認され，底面の北西側から１ヶ所柱の圧痕が確認されている。平面形は楕円形で，長軸23㎝，短軸19㎝ほどを測る。また，ロームブロックと黄褐色土や黒褐色土などが混入する土が，掘り方として確認されている。遺物は出土していない。遺構の法量や形状から第14号ピットや第２号掘立柱建物跡における各ピットと共通する要素などが多いため，大型の掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは，規則的な配列が確認できなかったため，今回は単独のピットとして報告する。遺構の形状，覆土の状況より奈良・平安時代の所産であった可能性が高い。

第62図　第15号ピット



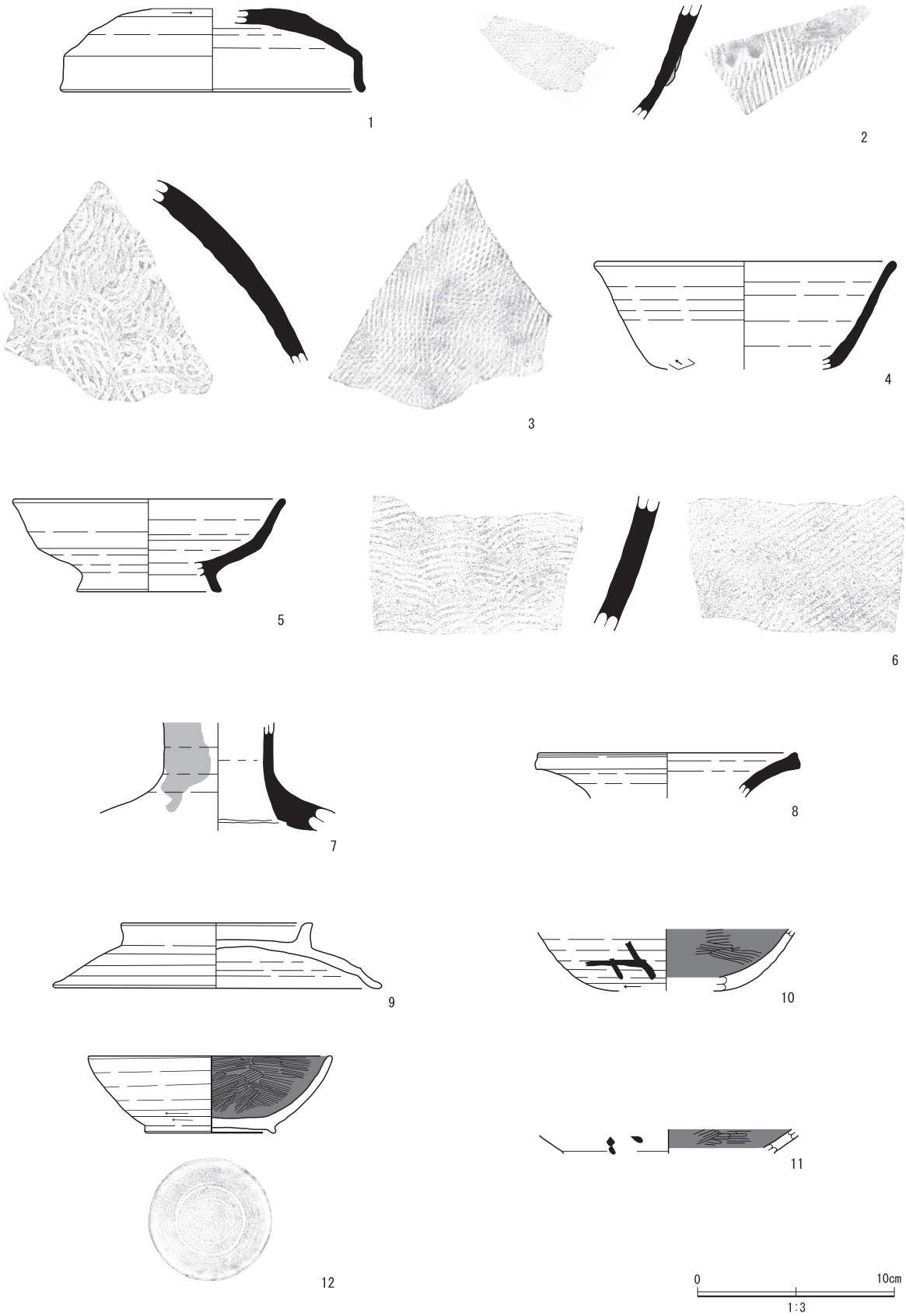
第15号ピット

1	10YR3/4暗褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。
2	10YR2/3黒褐色土層	粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ１㎝）を多量に含む。
3	10YR4/3にぶい黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
4	10YR2/3黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ３㎝）を多量に，ローム粒子を少量含む。
5	10YR2/3黒褐色土層	粘性をもち，締まる。ローム粒子を微量含む。
6	10YR5/8黄褐色土層	粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１㎝～４㎝）主体。
7	10YR2/3黒褐色土層	粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ２㎝～４㎝）を多量に含む。

古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物（第62図，第51表，写真図版31～33）

表土や古墳時代から平安時代以外の遺構から出土した代表的な遺物を12点図示することができた。１から４は古墳時代，５から11は奈良・平安時代の遺物である。以下から説明を加えることとする。1は第14号住居跡の覆土である。2・３・６は須恵器の甕である。外面を格子目叩きが施され，当具痕は青海波文である。２は第８号住居跡の覆土，３は第９号住居跡の覆土，４は第３号土坑覆土出土の須恵器坏，５は第９号住居跡の掘り方出土の高台付坏，６は第３号住居跡の覆土，４は第３号土坑覆土出土の須恵器坏，７は表採の須恵器長頸壺である。内面に黒色付着物が確認された。８は第８号住居跡覆土出土の須恵器壺である。９は表採の環状鈕を伴う須恵器蓋である。10・11は体部外面に釈読不明の墨書が確認できた，土師器の坏である。双方共に表採で内面を黒色処理が施される。12は表採の土師器高台付坏である。内面に黒色処理が施される。

第 63 図　古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物



第 51 表　古墳時代から平安時代出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	SI14	覆土	須恵器	蓋	天井部～端部	35	(15.0)	—	〈4.2〉	蓋坏。天井部内外面回転ナデ。端部内外面ヨコナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	2.5 Y 5/2 暗灰黄色	不明	
2	SI08	覆土	須恵器	甕	胴部	5	—	—	〈5.8〉	外面多段の斜格子目叩き，一部ハケ目，内面青海波紋。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	10 Y R 5/1 褐灰色	不明	
3	SI09	覆土	須恵器	甕	胴部	5	—	—	9.4	胴部外面斜方向擁格子目叩き，内面青海波文。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	N 4/0 灰色	不明	
4	SK03	覆土	須恵器	坏	口縁部～底部	15	(15.0)	(9.7)	〈5.5〉	体部膨らみを持ち，口縁部外反。内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，ロクロ目顕著，内面ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	10 Y R 6/3 にぶい黄橙色	木葉下窯跡群	
5	SI09	掘り方	須恵器	高台付坏	口縁部～底部	25	(13.5)	(7.2)	4.7	体部中央部で角度を変える。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面回転ナデ。高台付貼り付け，ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	10 Y R 6/1 褐灰色	不明	
6	SI03	覆土	須恵器	甕	胴部	5	—	—	〈6.9〉	胴部外面正格子目叩き，内面青海波文。	白色粒子・石英粒子・チャート粒・雲母片	×	良好	2.5 Y R 6/1 黄灰色	不明	
7	2 区	表土	須恵器	長頸壺	頸部	5	—	—	〈5.5〉	頸部及び胴部貼り付け。内外面ナデ。外面に自然釉。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・雲母片	×	良好	7.5 Y 4/1 灰色 釉：5 Y 4/4 暗オリーブ色	不明	内面黒色付着物。
8	SI08	覆土	須恵器	壺	口縁部	15	(13.0)	—	〈2.3〉	口唇部平坦で口縁部大きく開く。内外面ヨコナデ。外面に自然釉。	白色粒子・石英粒	×	良好	10 Y R 7/1 灰白色 釉：7.5 Y 5/3 灰オリーブ色	不明	
9	2 区	表土	須恵器	蓋	天井部～端部	70	(16.3)	9.4	3.3	環状鈕を貼り付け，ナデ。天井部下端をわずかに折る。かえり・かえしなし。天井部内外面回転ナデ，端部内外面ヨコナデ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒・小礫	×	良好	10 Y R 6/2 灰黄褐色	不明	
10	2 区	表土	土師器	坏	体部	10	—	—	〈3.2〉	内黒坏。体部外面回転ナデ，下位横方向手持ちヘラケズリ，内面丁寧なナデ後横方向ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	○	良好	7.5 Y R 7/3 にぶい橙	—	体部外面に釈読不明の墨書。
11	2 区	表土	土師器	坏	体部	5	—	—	〈1.2〉	内黒坏。体部外面ナデ，内面丁寧なナデ後横方向ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャート粒	×	良好	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	—	体部外面に釈読不明の墨書。
12	2 区	表土	土師器	高台付坏	口縁部～底部	85	12.3	6.4	3.9	内黒坏。体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面回転ナデ，内面丁寧なナデ後横及び斜方向ミガキ。底部内面丁寧なナデ後一方向ミガキ，底部外面右回転ヘラ切り離し後未調整。高台部削り出し。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	○	良好	10 Y R 7/4 にぶい黄橙色	—	

（４）中世以降の遺構と遺物

本調査地点から検出された中世以降の遺構は，溝跡１条（第１号溝跡），土坑６基（第１号から第６号土坑），ピット９基（第１号から第３号ピット・第６号から第９号・第12号・第13号ピット）を数える。重複関係や覆土の状況から土坑は中世期，第１号溝跡やピットは近世以降と考えられるが，伴う遺物は出土していないため，本報告では一括して中世以降として報告する。遺物は表土から陶器の碗や瓦質土器の壺,寛永通寶などが５点，68.9g ときわめて低調である。以下から検出・出土した中世以降の遺構と主要な遺物について触れていきたい。

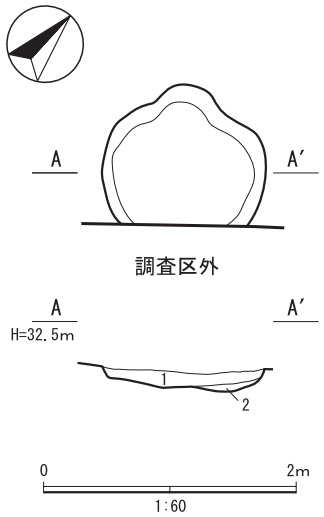
第１溝跡（第 64 図，写真図版 13）

２区の西側，標高 32.14 ｍから 32.23 ｍ付近に第２号住居跡，第４号土坑に後続して位置する。調査区を北西から南の方向に走り，両端が調査区外に伸びるため，全容は不明である。確認部分の全長は 11.7 ｍ，上幅 58 ㎝から 90 ㎝，下幅 36 ㎝から 58 ㎝，深さ４㎝から 13 ㎝を測る。主軸方位はＮ－ 65°－Ｗを示す。断面形は皿状を呈し，壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや起伏をもつ。確認された範囲で底面の標高は概ね 32.1 ｍ前後を測る。土層は単一層であり，人為的の埋没状況を示す。覆土には流水の痕跡は確認されず，本調査地点でも出土している住居跡カマド芯材と考えられる，破砕された凝灰岩片が多数混入する。遺物は出土していない。覆土の状況，重複関係や平坦な底面等より近世以降の区画溝であった可能性が高い。

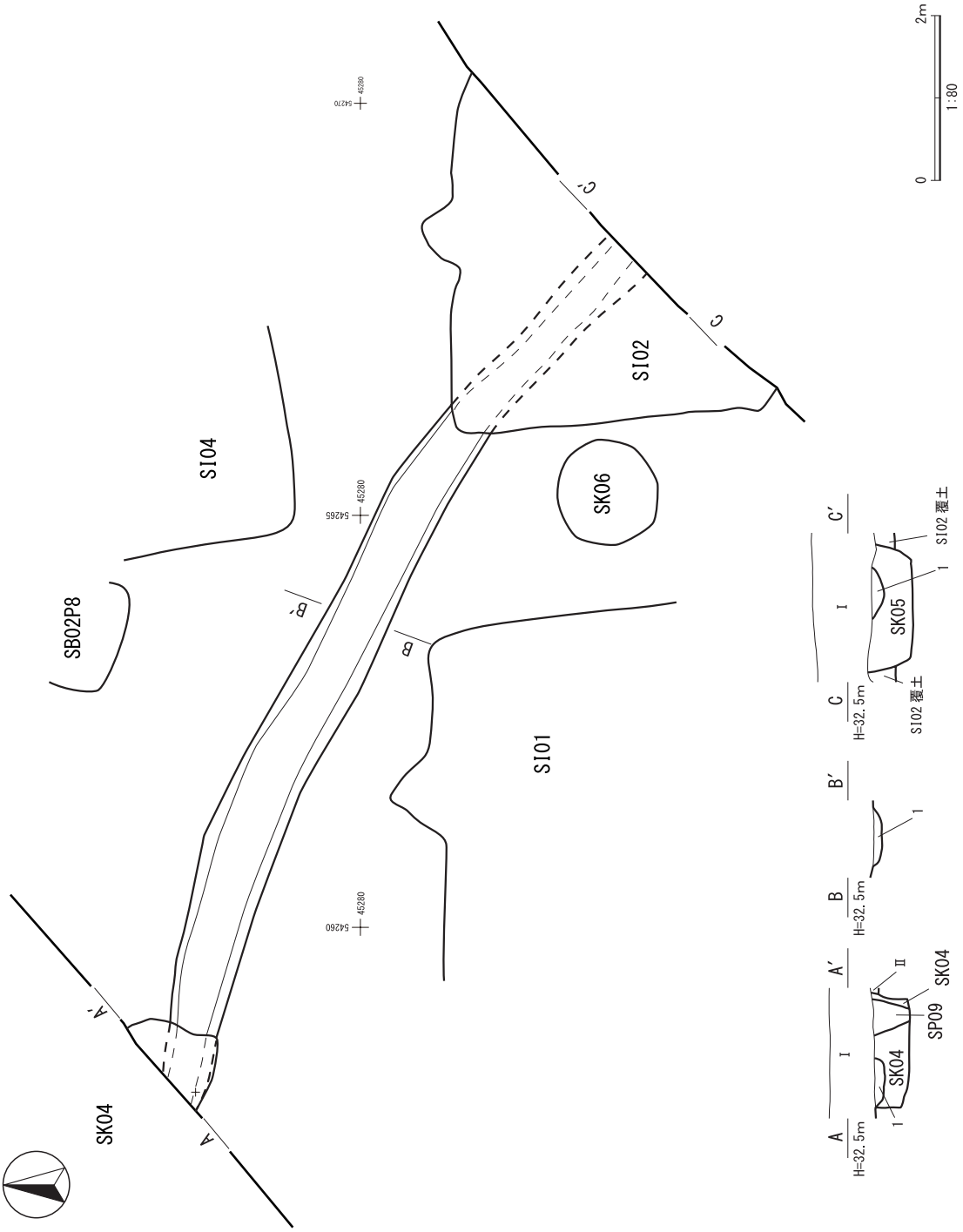
第１号土坑（第 63 図，写真図版 14・15）

２区の東側，標高 32.4 ｍ付近に単独で位置する。南東側 1/4 が調査区外あり，その部分は調査できなかった。平面形は推定不整円形，口径 129 ㎝，深さ 19 ㎝を測る。断面形は逆台形状を呈し，壁は緩やかに立ち上がる。坑底はやや起伏をもつ。土層は２層に分かれ，人為的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。この土坑の他，第２号から第６号土坑の６基が，口径や深さの大小はあるものの，同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが，その性格は不明である。遺構の形状，覆土の状況より中世以降の所産であった可能性が高い。

第 64 図　第１号土坑



第１号土坑
１　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
２　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２㎝）・ローム粒子を少量含む。



第65図　第1号溝跡

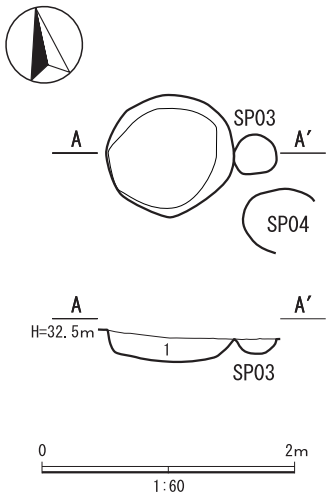
第1号溝跡 A～A′
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ1cm）・ローム粒子を少量，凝灰岩片を微量含む。

第1号溝跡 B～B′
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ1cm）・ローム粒子・凝灰岩片を少量含む。

第1号溝跡 C～C′
1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。

第２号土坑（第 65 図，写真図版 14）

第 66 図　第２号土坑



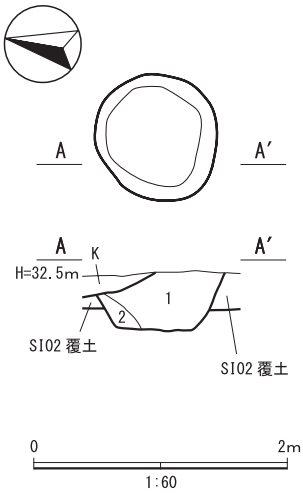
第２号土坑
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。
ロームブロック（φ１cm）
・ローム粒子を少量含む。

２区の東側，標高 32.4 m付近に単独で位置する。平面形は円形で，口径 97 cm，深さ 24 cmを測る。断面形は筒状を呈し，壁は急角度に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は単一層で，人為的な埋没状況を示す。遺物は４点，31.4 g が出土している。内訳は，土器が須恵器の坏類，土師器の高台付坏類である。しかし，すべて埋没時の混入した遺物と考えられ，細片のため図示することはできなかった。この土坑の他，第１号や第３号から第６号土坑の６基が口径や深さの大小はあるものの，同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが，その性格は不明である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況より中世以降の所産であった可能性が高い。

第３号土坑（第 66 図，写真図版 14）

２区の中央部，標高 32.2 m付近に第９号・第 14 号住居跡に後続して位置する。平面形は円形で，口径 97 cm，深さ 24 cmを測る。断面形は逆台形状を呈し，壁は緩やかに立ち上がる。坑底は平坦である。土層は２層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。遺物は 21 点，409.0 g が出土していて，すべて埋没時の混入した遺物と考えられる。内訳は，土器が須恵器の坏類・高台付坏類・甕壺類・鉢・蓋，土師器の甕壺類・甑である。このうち須恵器の坏を１点図示することができたが，遺構と伴わない遺物であるため，第 62 図･第 51 表にて一括して言及している。この土坑の他，第１号・第２号や第４号から第６号土坑の６基が口径や深さの大小はあるものの，同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが，その性格は不明である。遺物は出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より中世以降の所産であった可能性が高い。

第 67 図　第３号土坑

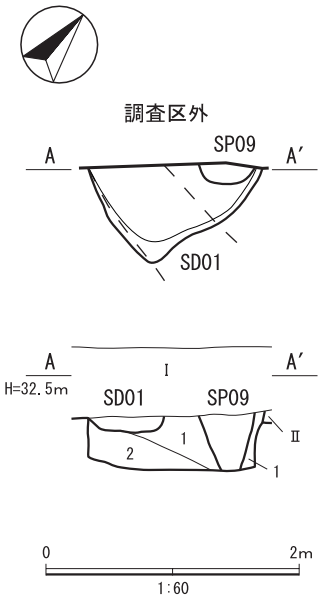


第３号土坑
1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。
ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，やや締まる。
ローム粒子を多量に含む。

第４号土坑（第 67 図，写真図版 14）

１区の西側，標高 32.2 m付近に第１号溝跡・第９号ピットに先行して位置する。北西側 1/2 が調査区外であり，その部分は調査できなかった。平面形は推定不整円形で，口径 135 cm，深さ 34 cmを測る。断面形は箱状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は２層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。この土坑の他，第１号から第３号や第５号・第６号土坑の６基が口径や深さの大小はあるものの，同様な

第68図　第４号土坑



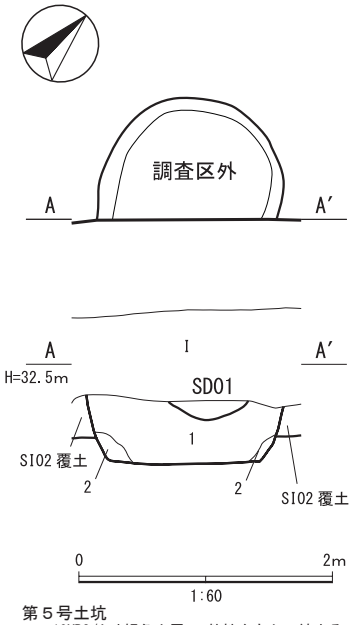
第４号土坑
1　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。

様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが，その性格は不明である。遺構の形状，覆土の状況，重複関係より中世以降の所産であった可能性が高い。

第５号土坑（第68図，写真図版14）

１区の南側，標高32.0ｍ付近に第１号溝跡に先行，第２号住居跡に後続して位置する。南東側1/3が調査区外であり，その部分は調査できなかった。平面形は推定不整円形で，口径145㎝，深さ25㎝を測る。断面形は箱状を呈し，壁は急角度に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は２層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。遺物は８点，74.0ｇが出土している。内訳は，土器が須恵器の高台付坏類や蓋，土師器の甕壺類である。すべて埋没時の混入した遺物と考えられ，細片のため図示することはできなかった。この土坑の他，第１号から第４号や第６号土坑の６基が口径や深さの大小はあるものの，同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが，その性格は不明である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況，重複関係より中世以降の所産であった可能性が高い。

第69図　第５号土坑

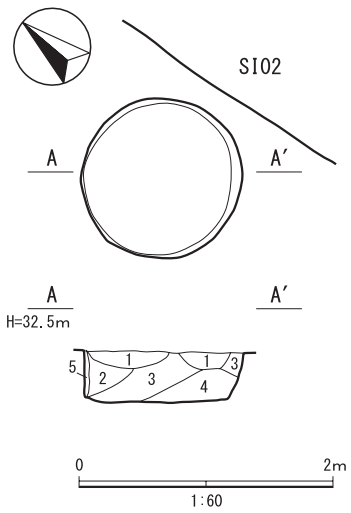


第５号土坑
1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ１㎝）・ローム粒子を少量含む。

第６号土坑（第69図，写真図版14）

１区の南側，標高32.2ｍ付近に単独で位置する。平面形は円形で，口径126㎝，深さ41㎝を測る。断面形は箱状を呈し，壁は垂直に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は５層に分けられ，人為的な埋没状況を示す。遺物は１点，18.9ｇが出土している。内訳は，土師器の甕壺類である。埋没時の混入した遺物と考えられ，細片のため図示することはできなかった。この土坑の他，第１号から第５号土坑の６基が口径や深さの大小はあるものの，同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが，その性格は不明である。出土遺物や遺構の形状，覆土の状況より中世以降の所産であった可能性が高い。

第70図　第６号土坑

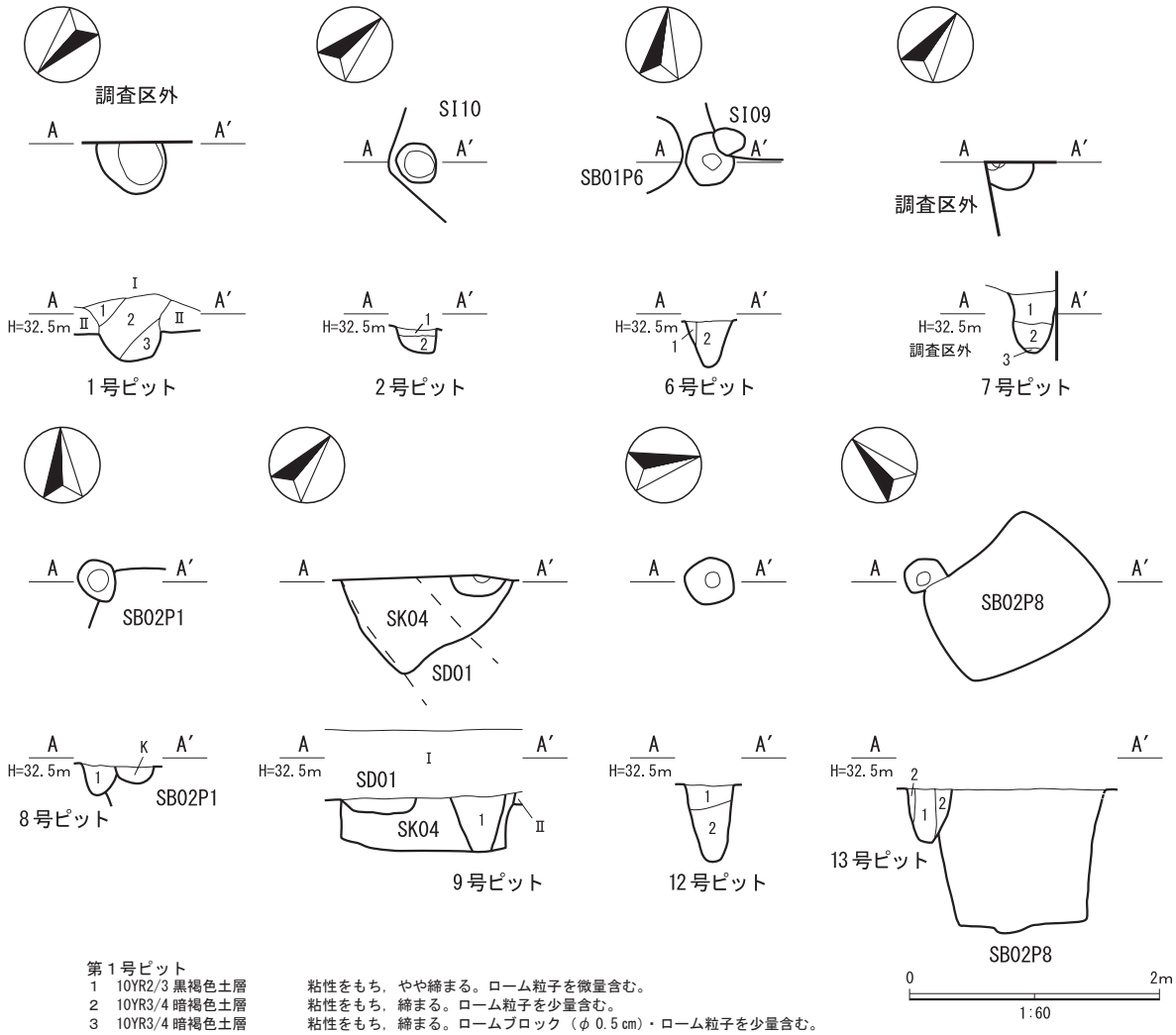


第６号土坑
1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１㎝）・ローム粒子を多量に，黒色土を少量含む。
3　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ロームブロック（φ１㎝）・ローム粒子を多量に含む。
4　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量，ロームブロック（φ２㎝）を微量含む。
5　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ロームブロック（φ２㎝）・ローム粒子を多量に含む。

中世以降のピット（第 70 図，第 52 表）

検出されたピットは８基を数える。分布に偏在は見られず，覆土の状況などからも，その性格は不明と言わざるを得ない。ここでは個々に対しての説明を加えずに，断面図および第 52 表の属性一覧で説明に代えさせていただきたい。

第 71 図　中世以降のピット



第１号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を少量含む。
3　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ 0.5 ㎝）・ローム粒子を少量含む。

第２号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもつが，締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。
2　10YR4/4 褐色土層　粘性をもち，締まる。ロームブロック（φ２㎝）・ローム粒子を少量含む。

第６号ピット
1　10YR4/3 にぶい黄褐色土層　粘性をもつが，締まりにやや欠ける。ロームブロック（φ２㎝）を多量に含む。
2　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。

第７号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。
3　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，強く締まる。ロームブロック（φ２㎝）・ローム粒子を少量含む。

第８号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。

第９号ピット
1　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。

第 12 号ピット
1　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2　10YR2/3 黒褐色土層　粘性をもち，やや締まる。ローム粒子を微量含む。

第 13 号ピット
1　10YR3/3 暗褐色土層　粘性をもつが，やや締まりに欠ける。ローム粒子を微量含む。
2　10YR3/4 暗褐色土層　粘性をもち，締まる。ローム粒子を多量に含む。

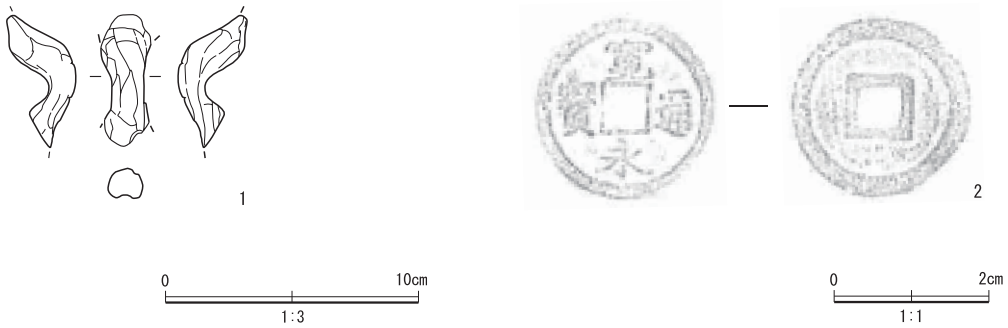
第 52 表　中世以降のピット属性一覧

ピット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			底面アタリ数	平面形・位置	アタリ径（cm）	断面柱痕					
1号ピット	2区東側	楕円形	筒状	〈42〉	50	22	急角度	平坦	－	－	－	－	自然埋没	不明	－	無し	南東側 1/5 が調査区外
2号ピット	2区北側	円形	筒状	31	－	22	急角度	起伏に富む	－	－	－	－	人為埋没	不明	第 10 号住居跡に後続	無し	
6号ピット	2区中央部やや南西側	円形	逆円錐状	42	－	36	急角度	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為埋没	不明	第 9 号住居跡に後続	無し	
7号ピット	2区東側	推定円形	筒状	76	－	45	垂直	不明	1ヵ	不明	不明	有り	人為埋没	掘立柱建物跡を構成するピットカ	－	無し	南側 1/2 が調査区外 テストピット断面で検出
8号ピット	1区北側	楕円形	筒状	36	－	27	緩やか	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為埋没	不明	第 2 号掘立柱建物跡 1 号ピットに後続	無し	
9号ピット	1区西側	推定円形	逆台形状	44	－	36	急角度	不明	－	－	－	－	人為埋没	不明	第 4 号土坑に後続	無し	北側 2/3 が調査区外
12号ピット	1区東側	円形	筒状	37	－	58	急角度	丸味を帯びる	－	－	－	－	人為埋没	不明	－	無し	
13号ピット	1区東側	楕円形	筒状	31	25	48	垂直	丸味を帯びる	－	－	－	有り	人為埋没	掘立柱建物跡を構成するピットカ	第 2 号掘立柱建物跡 8 号ピットに後続	無し	

中世以降の遺構外出土遺物（第 71 図，第 53・54 表，写真図版 32）

当該期の遺構からは，前述したとおり，伴う遺物は出土していないため，表土からの出土した代表的な 2 点の遺物を図示して，説明を加える。1 は瓦質土器の壺把手部分である。2 は初鋳 1636 年の古寛永通寶である。

第 72 図　中世以降の遺構外出土遺物



第 53 表　中世以降出土土器属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴・手法	胎土	海綿骨針	焼成	色調	焼成窯	備考
1	1区	表土	瓦質土器	壺	把手	5	〈5.2〉	〈2.7〉	〈2.0〉	全面，ヘラ状工具で成形後ナデ整形。	白色粒子・石英粒	×	良好	10 Y R 4/1 褐灰色	－	

第 54 表　中世以降出土銅製品属性一覧

図版番号	出土地点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	特徴・手法	備考
2	1区	表土	銅製品	銭貨	銅製	2.4	2.4	0.12	2.8	古寛永。初鋳年 1636 年。	

第 55 表　渡里町遺跡第 22 地点出土遺物計量表（1）

出土地点			第1号住居跡		第2号住居跡		第3号住居跡		第4号住居跡		第5号住居跡		第6号住居跡		第7号住居跡		第8号住居跡		第9号住居跡		第10号住居跡		第11号住居跡		第12号住居跡		第13号住居跡		第14号住居跡	
出土遺物			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
縄文時代	早期深鉢	稲荷原式							1	28.8																				
	小計								1	28.8																				
	前期深鉢	黒浜式							1	12.1							2	27.2							1	18.1				
		諸磯式																												
	小計								1	12.1							2	27.2							1	18.1				
	中期深鉢	阿玉台式																	3	73.3										
		加曽利E式							4	60.6					3	41.6	1	12.1	4	49.9	2	21.1	1	10.2	1	18.8	1	12.6		
	小計								4	60.6					3	41.6	1	12.1	7	123.2	2	21.1	1	10.2	1	18.8	1	12.6		
	時期不明深鉢																		4	23.7					1	14.0				
	小計																		4	23.7					1	14.0				
	石器	打製石斧(片岩)	1	83.4																										
		磨石・敲石(砂岩)							1	82.4											1	20.3.3					1	331.6		
		軽石																	1	84.2										
	小計		1	83.4					1	82.4									1	84.2	1	203.3					1	331.6		
縄文時代小計			1	83.4					7	183.9					3	41.6	3	39.3	12	231.1	3	224.4	1	10.2	3	50.9	2	344.2		
弥生土器	後期十王台式	甕・壷類													2	11.6	3	37.1	3	15.2	1	16.6								
	小計														2	11.6	3	37.1	3	15.2	1	16.6								
弥生時代小計															2	11.6	3	37.1	3	15.2	1	16.6								
古代	須恵器	坏類	42	309.7	14	133.8	17	229.6	58	641.1	2	25.6	1	0.3	26	208.0	3	10.8	227	3125.6	59	578.3	3	72.4	20	472.0	2	29.1	15	106.3
		高台付坏類	5	84.3	5	200.2			17	490.9					1	8.1			17	450.6	13	341.7	2	44.1	2	29.9			1	5.5
		高台付盤			1	28.2			13	668.1					1	71.2			2	103.1	9	383.1								
		盤									1	8.3							2	17.5										
		高盤													1	20.1														
		皿			1	16.2																								
		高台付皿																			1	149.9								
		壷	7	54.2			1	204.8	5	188.5					10	186.3	1	9.2	9	432.6	3	434.2	1	58.8	8	832.1	4	605.2		
		長頸壷																	1	339.5										
		甕・壷類			5	165.9	8	243.4	23	802.4					25	302.4	6	116.8	108	5219.8	6	100.0	2	25.4	19	775.2			3	46.1
		鉢			1	6.3					1	20.0			14	459.3	2	42.5	27	865.9	1	17.5	2	102.8	7	103.1	1	4.4	1	40.0
		蓋	18	342.2	7	139.3	9	143.5	26	328.8	1	37.2			7	120.8	3	38.1	15	160.4	17	213.6	2	39.7	5	63.0	9	360.3	5	184.6
		円面硯																	1	83.6	1	33.3								
	小計		72	790.4	34	689.9	35	821.3	142	3119.8	5	91.1	1	0.3	85	1376.2	15	217.4	409	10798.6	110	2251.6	12	343.2	61	2275.3	16	999.0	25	382.5
	土師器	坏類	7	60.5	3	28.9	16	138.2	9	92.6	1	2.1			57	953.5	6	56.5	277	2398.2	8	52.5	20	343.7	19	198.0	18	574.6	9	68.5
		高台付坏類			1	7.2	1	7.4							8	353.9	1	6.3	15	430.9	1	12.2			1	18.3			2	99.1
		甕・壷類	202	4583.6	79	1302.0	49	628.6	229	3735.7	16	211.2	2	13.6	285	4433.3	90	2556.2	904	11065.2	132	2148.5	31	986.7	125	2325.1	73	1550.4	91	1893.8
		蓋							2	16.5									3	24.3	3	21.9								
		皿																	10	101.4										
		高台付皿																	1	10.0										
		高坏																			1	22.4								
		鉢																	28	364.0									1	20.5
		甑	3	319.4															5	414.0										
	小計		212	4963.5	83	1338.1	66	774.2	240	3844.8	17	213.3	2	13.6	350	5740.7	97	2619.0	1243	14808.0	145	2257.5	51	1330.4	145	2541.4	91	2125.0	103	2081.9
	灰釉陶器	壷	1	12.1			1	171.8											1	64.8					1	24.3				
		高台付皿																	1	33.2										
		蓋	1	5.3																										
	小計		2	17.4			1	171.8											2	98.0					1	24.3				
	土製品	ミニチュア鉢																			1	27.6								
		焼成土塊																	5	52.8	1	22.4			1	3.1				
	小計																		5	52.8	2	50.0			1	3.1				
	石製品	砥石(片岩)																			1	411.8			2	387.6				
		砥石(砂岩)																			1	286.1								
		砥石(安山岩)																	1	332.5										
		支脚(凝灰岩)			2	946.3			45	2016.9					1	2489.5									10	855.5				
		カマド芯材(凝灰岩)			6	6338.1									9	1562.7									8	2182.9				
	小計				8	7284.4			45	2016.9					10	4052.2			1	332.5	2	697.9			20	3426.0				
	鉄製品	釘	1	9.1					2	15.8									2	26.6										
		刀子					7	48.6											6	81.4					3	29.4				
		楔状製品																	1	24.1										
		不明																	2	47.6										
	小計		1	9.1			7	48.6	2	15.8									11	179.7					3	29.4				
	軒丸瓦																													
	小計																													
	丸瓦	ナデ																												
	小計																													
	平瓦	ナデ													1	118.3														
		格子目叩き																	2	309.2										
	小計														1	118.3			2	309.2										
古代小計			287	5780.4	125	9312.4	109	1815.9	429	8997.3	22	304.4	3	13.9	446	11287.4	112	2836.4	1673	26578.8	259	5257.0	63	1673.6	231	8299.5	107	3124.0	128	2464.4
中世以降	陶器	碗																												
	瓦質土器	壷																												
	銭貨	寛永通寶																												
	小計																													
中世以降小計																														
その他	鉄製品	鉄滓															1	24.1												
	小計																1	24.1												
	礫	砂岩					1	3008.1													2	9041.9					1	224.1		
		安山岩															1	1982.4							1	628.4	4	4874.6		
		雲母片岩																	1	55.6										
		チャート																									1	678.0		
		凝灰岩					5	1361.5							3	578.9									1	58.8				
	小計						6	4369.6							3	578.9	1	1982.4	1	55.6	2	9041.9			2	687.2	6	5776.7		
時代不明小計															3	578.9	2	2006.5	1	55.6	2	9041.9			2	687.2	6	5776.7		
総計			288	5863.8	125	9312.4	115	6185.5	436	9181.2	22	304.4	3	13.9	454	11919.5	120	4919.3	1689	26880.7	265	14539.9	64	1683.8	236	9037.6	115	9244.9	128	2464.4

第 56 表　渡里町遺跡第 22 地点出土遺物計量表（２）

出土地点			第1号掘立柱建物跡		第1号掘立柱建物跡		第2号掘立柱建物跡		第2号掘立柱建物跡		第1号ピット列3号ピット		第2号土坑		第3号土坑		第5号土坑		第6号土坑		第4号ピット		1区表土一括		2区表土一括		調査区一括		総計	
出土遺物			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
縄文時代	早期深鉢	稲荷原式																											1	28.8
	小計																												1	28.8
	前期深鉢	黒浜式																					1	16.1					5	73.5
		諸磯式																							1	29.4			1	29.4
	小計																						1	16.1	1	29.4			6	102.9
	中期深鉢	阿玉台式																											3	73.3
		加曽利E式																			1	22.7	2	57.2	2	58.9			22	365.7
	小計																				1	22.7	2	57.2	2	58.9			25	439.0
	時期不明深鉢						1	15.2															5	47.1	2	26.0			13	126.0
	小計						1	15.2															5	47.1	2	26.0			13	126.0
	石器	打製石斧(片岩)																											1	83.4
		磨石・敲石(砂岩)																											3	617.3
		軽石																											1	84.2
	小計																												5	784.9
縄文時代小計							1	15.2													1	22.7	8	120.4	5	114.3			50	1481.6
弥生土器	後期十王台式	甕・壷類																							2	12.4			11	92.9
	小計																								2	12.4			11	92.9
弥生時代小計																									2	12.4			11	92.9
古代	須恵器	坏類	1	5.9			1	18.8					2	13.9	3	59.2					3	12.5	10	138.2	19	191.1	1	3.6	529	6385.8
		高台付坏類													3	60.4	1	12.5			1	52.7	2	34.7			1	50.7	71	1866.3
		高台付盤																											26	1253.7
		盤																					1	5.4					4	31.2
		高盤																											1	20.1
		皿																											1	16.2
		高台付皿																											1	149.9
		壷																							2	62.9	1	20.9	52	3089.7
		長頸壷																											1	339.5
		甕・壷類					1	15.0							3	155.3							15	320.7	17	978.3	3	116.6	244	9383.3
		鉢													1	15.7							2	45.2	10	172.4			70	1895.1
		蓋			1	4.1	1	24.6							1	4.3	1	20.3			3	73.3	3	32.7	7	282.4	2	59.1	143	2672.3
		円面硯																											2	116.9
	小計		1	5.9	1	4.1	3	58.4					2	13.9	11	294.9	2	32.8			7	138.5	33	576.9	55	1687.1	8	250.9	1145	27220.0
	土師器	坏類									2	14.6											5	25.8	27	308.9			484	5317.1
		高台付坏類											2	17.5											5	68.8	1	17.2	38	1038.8
		甕・壷類					44	657.3	4	79.0	3	27.7			9	78.1	6	41.2	1	18.9	2	57.2	49	501.5	99	1084.8	5	240.3	2530	40219.9
		蓋																			5	11.8							13	74.5
		皿																											10	101.4
		高台付皿																											1	10.0
		高坏																											1	22.4
		鉢																											29	384.5
		甑													1	36.0													9	769.4
	小計						44	657.3	4	79.0	5	42.3	2	17.5	10	114.1	6	41.2	1	18.9	7	69.0	54	527.3	131	1462.5	6	257.5	3115	47938.0
	灰釉陶器	壷																											4	273.0
		高台付皿																											1	33.2
		蓋																											1	5.3
	小計																												6	311.5
	土製品	ミニチュア鉢																											1	27.6
		焼成土塊																											7	78.3
	小計																												8	105.9
	石製品	砥石(片岩)																											3	799.4
		砥石(砂岩)																											1	286.1
		砥石(安山岩)																											1	332.5
		支脚(凝灰岩)																											58	6308.2
		カマド芯材(凝灰岩)																											23	10083.7
	小計																												86	17809.9
	鉄製品	釘									2	11.8																	7	63.3
		刀子																											16	159.4
		楔状製品																											1	24.1
		不明																											2	47.6
	小計										2	11.8																	26	294.4
	軒丸瓦																				1	118.6							1	118.6
	小計																				1	118.6							1	118.6
	丸瓦	ナデ					1	16.4																					1	16.4
	小計						1	16.4																					1	16.4
	平瓦	ナデ																											1	118.3
		格子目叩き																											2	309.2
	小計																												3	427.5
古代小計			1	5.9	1	4.1	48	732.1	4	79.0	7	54.1	4	31.4	21	409.0	8	74.0	1	18.9	15	326.1	87	1104.2	186	3149.6	14	508.4	4391	94242.2
中世以降	陶器	碗																							1	8.9			1	8.9
	瓦質土器	壷																					3	57.2					3	57.2
	銭貨	寛永通貨																					1	2.8					1	2.8
	小計																						4	60.0	1	8.9			5	68.9
中世以降小計																							4	60.0	1	8.9			5	68.9
その他	鉄製品	鉄滓																											1	24.1
	小計																												1	24.1
	礫	砂岩																											4	12274.1
		安山岩																											6	7485.4
		雲母片岩																											1	55.6
		チャート																											1	678.0
		凝灰岩																											9	1999.2
	小計																												21	22492.3
時代不明小計																													22	22516.4
総計			1	5.9	1	4.1	49	747.3	4	79.0	7	54.1	4	31.4	21	409.0	8	74.0	1	18.9	16	348.8	99	1284.6	194	3285.2	14	508.4	4479	118402.0

第４章　総括

渡里町遺跡は水戸市の北西に位置し，那珂川の西側の台地上標高 32 ｍ～ 33 ｍ程に立地し，崖線より西に 130 ｍほど入った地点である。今回の調査地点は渡里町遺跡内の北部に位置する。その北には古代の台渡里廃寺や那賀郡衙，中世の長者山城が存在していた地域が存在し、南東 1.6 ㎞には県内有数の規模を持つ愛宕山古墳が存在する。このように古くから大きく発展していたと考えられる地域である。

現状ではこの地域は畑地と宅地が混在していて，往時の面影を偲ぶことは出来ないが，過去の発掘調査報告を紐解いてみると，その一端に触れることが出来る。

過去に行われた発掘調査において，縄文時代から近世以降までの遺構や遺物が数多く検出され，特に，奈良・平安時代の遺構や遺物が台渡里廃寺や那賀郡衙との関係で数多く検出されていることが特徴の一つとなっている。

今回の発掘調査では，過去に行われた渡里町遺跡第５次調査において，奈良・平安時代の住居跡が確認されているため，その時期の集落が今回の調査地点にも広がっていることが想定され，その集落の時期や範囲を確認することが目的の一つである。

以上のことより住居跡が検出されることは想定できたが，発掘調査の結果，時代では縄文時代から近･現代まで，遺構は住居跡 14 軒，掘立柱建物跡２棟，ピット列１条，溝跡１条，土坑７基，ピット 14 基，遺物は 4,479 点，約 118 ㎏と，約 378 ㎡の調査区に比して数多くの遺構・遺物が検出・出土している。

第３章で言及しているが，今回の発掘調査では建物建設位置にあたる，北東側と西側の２ヶ所に調査区が設定され，それぞれ東側を１区，西側を２区と呼称している。

以下時代順に若干の考察をしていくが，その際，遺構や遺物の詳細は第３章で確認していただきたい。

（１）縄文時代

遺構は１区の北東側から土坑が１基とピットが３基纏まって検出されているが，遺構からの遺物の出土は無く，時代の決定は覆土の状況に依るものである。限定された部分での検出のため，本調査地点での当該期における遺構の分布ははっきりしない。

遺物は土器が早期稲荷原式期，前期黒浜式期，浮島式期，中期阿玉台式期，加曽利Ｅ式期の深鉢が出土しているが，その中心は加曽利Ｅ式期の土器で，出土縄文土器の過半を占める。石器は打製石斧，磨石・敲石，軽石などが確認されているがごく少量である。

本調査地点の南東側 120 ｍほどの位置に縄文時代中期の土坑群などが多数検出されていること，本調査地点東側の第５地点の発掘調査において縄文時代の遺構や遺物が主体的に確認されていないことなどを考えると，本調査地点付近には縄文時代の集落が主体的に展開していなかったと考えられる。

（２）弥生時代

遺構は検出されていない。遺物は後期十王台式期の甕・壺類片が少量出土しているに過

ぎない。この傾向は渡里町遺跡第５地点における当該期の傾向と同様であり，本調査地点や第５地点の東側に位置する，水戸市教育委員会で行われた第 12 地点第２次の調査で当該期の住居跡などが検出されていることから，第５地点と第 12 地点第２次との間で当該期における集落の西端が位置すると考えられる。

（３）古墳時代から平安時代

本調査地点から検出された当該期の遺構は住居跡が 14 軒（第１号から第 14 号住居跡），掘立柱建物跡が２棟（第１号･第２号掘立柱建物跡），ピット列１条（第１号ピット列），ピットが４基（第４号・第５号・第 14 号・第 15 号ピット）と今回の発掘調査で検出された遺構の中心を占める。

出土した当該期の遺物は約 4400 点で約 94 kgが出土している。出土遺物全体における当該期遺物の割合は点数が 98％，重量は 79％とほかの時期に比べ圧倒的な量を占める。過半が住居跡からの出土だが，検出された住居跡範囲の問題もあるが，住居跡あたりの出土量は３点から 1689 点と大きな幅をもっている。種別は須恵器や土師器，灰釉陶器，土製品，石製品，鉄製品，瓦であり，器種は坏類や高台付坏類，盤，高盤，皿，高台付皿，壺，長頸壺，甕，高坏，鉢，蓋，円面硯，石製支脚，砥石，芯材，釘，刀子，楔状製品，ミニチュア鉢，軒丸瓦，平瓦，丸瓦などである。

まず 14 軒の住居跡の時期であるが，古墳時代後期である７世紀後葉から８世紀前葉が 1 軒（第８号住居跡），奈良時代である８世紀前葉から中葉が１軒（第 13 号住居跡），平安時代である９世紀前葉が９軒（第１号から第５号・第７号・第 10 号・第 11 号・第 14 号住居跡），９世紀後葉から 10 世紀前葉が１軒（第 12 号住居），10 世紀前葉が１軒（第９号住居跡），出土遺物が少なく，時期がはっきりしないが９世紀代と考えられるのが１軒（第６号住居跡）である。調査区の制約で第４・９・13・14 号住居跡以外は，全容を確認することはできなかった。これら住居跡の特徴を挙げていくと，位置的な分布に極端な偏りは見られないが，時期的には９世紀前葉において数的なピークを迎えること，２区の住居跡は重複が激しく，単独で位置する１区と比較すると異なる様相を呈すること，主軸方位は古墳時代から奈良時代はＮ－ 11°から 21°－Ｅと東向きを示し，平安時代はＮ－２°から 20°－Ｗと西向きを示す傾向が伺えること，カマドは８基検出されているが，すべて北カマドで北壁中央部に設置していること，等が挙げられる。

第１号掘立柱建物跡および第４号・第５号ピットは２区東側から南側に纏まって位置する。第１号掘立柱建物跡の主軸方位は９世紀以降の住居跡と同様な傾向をもち，重複関係より 10 世紀前葉以降と判断できたことを裏付ける。また，ピットの配列から考えると，建物跡の東西側はピットが確認できず，礎石が存在していた可能性があるが，その痕跡は確認できていない。

第１号ピット列は，第１号掘立柱建物跡の南側に重複するように位置して，３基のピットで構成されるが，掘立柱建物跡の北側柱穴の可能性を持つ。主軸方位は掘立柱建物跡と考えると第１号掘立柱建物跡と若干異なるが，近似値を示している。第１号掘立柱建物跡および第１号ピット列は調査区の制約でその全容は確認できなかったため，範囲や性格まで確認することはできなかった。また，第４号・第５号ピットは第１号掘立柱建物跡や第

１号ピット列を構成するピットと類似点が多く，同時期の所産と考えている。

第２号掘立柱建物跡および第 14 号・第 15 号ピットは１区北側から東側に纏まって位置する。第２号掘立柱建物跡は側柱建物跡で，主軸方位は８世紀頃の住居跡と同様な傾向をもち，重複関係より８世紀以前と判断できたことを裏付ける。第１号掘立柱建物跡と異なり，ピットは基本的に大型の方形プランを呈し，100 ㎝を超える深さをもつ。また，掘り方がロームブロックを主体とする層と黒色土の主体の層の互層となるピットが３基確認されたことなどから，一般的な掘立柱建物跡とは異なる様相を示している。出土遺物は須恵器や土師器，瓦などの細片が少量出土しているのみで，遺物から時期の特定は追うことが困難であるが，少なくとも，ピットの掘り方にナデ調整の丸瓦が混入する時期に造られていることが確認できた。また，瓦の出土量から総瓦葺以外の屋根で造営されていたと考えられる。第 14 号・第 15 号ピットは，第２号掘立柱建物跡を構成するピットと法量などが類似することから，第２号掘立柱建物跡と同様の掘立柱建物跡を構成するピットの一部と考えられる。

遺物は大半が住居跡から出土した，日常的に使用されていたと考えられる坏や甕などであるが，複数の刀子が出土した第３号住居跡，円面硯や長頸壺，複数の刀子が出土した第９号住居跡，円面硯の獣脚部が出土した第 10 号住居跡など，住居跡の性格を想定できる遺物も出土している。また，ごく少量だが灰釉陶器が出土している。須恵器の焼成窯は大半が木葉下窯跡群産であり，少量新治窯跡群産が混入するというこの時期において一般的な傾向を示している。

文字資料としては，ヘラ書きや墨書土器が出土している。破片数でヘラ書き土器は須恵器の坏を中心に 78 点，墨書土器は土師器の坏を中心に７点を数える。出土地点は偏在していて，遺構出土のヘラ書き土器は第９号・第 10 号住居跡から，過半の 53 点出土している。また，墨書土器は第９号および第 10 号住居跡からのみの出土である。ヘラ書き土器のすべてを図示することはできなかったが，大半は釈読不明の記号状ヘラ書きで，大多数は須恵器坏や盤などの底部外面に施されるが，第９号住居跡の９は須恵器坏の体部内面に，８は須恵器坏の体部外面にヘラ書きが施されている。この体部に施された３点は底部外面に施されたヘラ書きと使用目的が異なる可能性を持つが，破片の出土のため，その意味は不明である。また，第７号住居跡の３は唯一土師器の坏底部外面に渦巻き状のヘラ書きが施されている。釈読が可能であった個体は少なく，５点のみである。前述した渦巻き状のヘラ書きが１点，「｜」字状が３点，「十」字状が１点を数える。どれも，本調査地点近隣から出土しているヘラ書き土器と同様の文字種である。墨書土器はすべて土師器の坏体部外面に施され，釈読可能であった個体は第９号住居跡の 27 のみである。「枚□」銘で，文字は横方向に書かれる。この「枚」は台渡里遺跡第 39 次調査で出土した須恵器蓋の「枚」と筆の運びや払いの癖など類似点が多く，同一人物の手によるものの可能性を持つ。また，この「枚□」も台渡里第 39 次調査と同様に地名の可能性が高い。しかし，その他の部分は確認できず，その意味などは不明である。

（４）中世以降

本調査地点から検出された中世以降の遺構は，溝跡１条，土坑６基，ピット 11 基である。遺物は表土から陶器の碗や瓦質土器の壺，寛永通寶など５点，68.9g が出土している。時

期は土坑が中世期，第１号溝跡やピットは近世以降であるが，遺物が出土していないため，覆土の状況や遺構の重複関係からの判断である。

土坑はどれも円形プランをもち，径約 1.0 ｍを測る。茨城県内では，この形状の土坑は数多く検出されているが，その性格などは不明である。また，第１号溝跡は流水の痕跡もなく，概ね現在の地割に沿った主軸方位を示すことから，根切り溝や区画溝であろう。また，ピットは規則的な配列は確認できなかったため，その性格まで追うことはできなかった。

（５）まとめ

以上のことより，今回の調査では調査区の範囲など制約が多かったにもかかわらず，多数の成果が確認された。縄文時代や弥生時代，中世以降は集落や土地利用の状況が確認できたことが，成果の一つとなるが，古墳時代から平安時代は今後の渡里町遺跡やその周辺遺跡を考えるうえで，大きな成果を得ることができた。

当該地の古墳時代から平安時代は北側約 800 ｍの位置に分布する台渡里官衙遺跡群や台渡里廃寺が営まれた時期にあたり，それら遺構群との関連性は避けては通れず，それらの成立時期と考えられる７世紀後葉の住居跡や，その最盛期である９世紀の住居跡が数的なピークとして検出されていることは，本地点の集落成立時期や隆盛時期と，それらの遺構群との成立時期や隆盛時期と軌道を一としている集落であることが明確となった。なおかつ，第３号や第９号，第 10 号住居跡から出土した円面硯や長頸壺，刀子，偏在するヘラ書きや墨書土器などは，寺院や官衙遺跡などを強く示唆する遺物であり，「枚□」銘の墨書土器を代表されるように，台渡里官衙遺跡群や台渡里廃寺と密接に関連している集落といえる。また，その集落を構成する住居跡は本調査地点の東側である第５地点などからも検出されていて，今回集落の範囲を明確にはできなかったが，限定的な範囲ではなく，ある程度の拡がりをもつ集落であった可能性を指摘することができた。

また，２棟の掘立柱建物跡，特に第２号掘立柱建物跡や第 14 号・第 15 号ピットは，本調査区の制約で，全体の様相が確認できなかったが，台渡里官衙遺跡群長者山地区から検出されている掘立柱建物跡が４×４間や４×８間の総柱建物を基本としており，今回検出されたような５×４間以上の側柱建物は類例が少ないことや，この第２号掘立柱建物跡は主軸方位が台渡里官衙遺跡群の掘立柱建物跡より西に振れていることなどから，現在想定される正倉院域がこの北西付近まで拡がりをもっているが，正倉院とは別性格の建物の可能性が高い。このような建物跡が，本地点周辺にある程度の拡がりをもって分布する可能性を初めて指摘することができた。また，第１号掘立柱建物跡や第４号・第５号ピットも台渡里官衙遺跡群や台渡里廃寺が衰退に向かう時期における，周辺集落における景観復元の一助となる史料である。

本地点で検出された第２号掘立柱建物跡や同時期のピットの分布や性格の確認，その周辺の集落との関連などが今後の当該地における土地利用の変遷や性格，台渡里官衙遺跡群の拡がりを確定するうえで，重要な課題の一つとなるであろう。（林・山下）

参考文献

赤井　博之　1998「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究（1)」『婆良岐考古』第20号　婆良岐考古同人会

浅井哲也　1991「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ)」(『研究ノート』１号　財団法人茨城県教育財団)
1992「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ)」(『研究ノート』２号　財団法人茨城県教育財団)

渥美賢吾　2005「木葉下窯跡群における須恵器生産の変化と画期」『筑波大学先史学・考古学研究』第16号　筑波大学人文社会学研究科　歴史・人類学専攻

井　博幸・小宮山達雄　1999「第７章　内原町周辺の主要古墳と出土遺物」『牛伏４号墳の調査』国士舘大学・牛伏４号墳調査団

伊東重敏　1975『常陸考古学研究所学報第16集　Site No.6181　水戸地方における古代窯業の研究（その2）水戸市田谷廃寺跡出土古瓦雑考』常陸考古学研究所

伊藤廉倫　1995『茨城県水戸市　堀遺跡―住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

井上義安編　1992『水戸市アラヤ遺跡　北部地区老人福祉センター・デイサービスセンター建設に伴う文化財の調査報告書』水戸市アラヤ遺跡発掘調査会

井上義安・栗原芳子　1996『水戸市台渡里遺跡　共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・空間計画工房

井上義安・千葉隆司　1995『水戸市台渡里廃寺跡　都市計画道路３・６・30号線埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市台渡里廃寺跡発掘調査会

井上義安・千葉隆司・樫村宜行　1995『水戸市堀遺跡　堀町住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市堀遺跡発掘調査会

井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子　1998『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書　平成10年度版』水戸市教育委員会

茨城県教育委員会　2000『茨城県遺跡地図』

茨城大学考古学研究会　1976『茨城大学周辺遺跡分布調査報告書Ⅱ』

江幡良夫・吹野富美夫　1998「水戸市軍民坂遺跡出土の掻器」『常総台地』第14号　常総台地研究会

小川和博・大渕淳志・川口武彦・松谷暁子　2006『台渡里遺跡 ―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

大森信英　1952a「渡里村大字堀字西原四号地下式墳」『茨城高等学校史学部紀要』第一号　茨城高等学校史学部
1952b「渡里村大字堀字西原の地下式墳」『茨城高等学校史学部紀要』第一号　茨城高等学校史学部
1952c「渡里村大字渡里字アラヤ遺蹟予備調査に於ける報告」『茨城高等学校史学部紀要』第一号　茨城高等学校史学部
1974「69　権現山下横穴群」『茨城県史料　考古資料編　古墳時代』　茨城県

大脇　潔　1991「研究ノート　丸瓦の製作技術」『奈良国立文化財研究所学報第49冊　研究論集Ⅸ』奈良国立文化財研究所

大橋　生・佐々木藤雄・川口武彦・林　邦雄・渥美賢吾　2006『台渡里廃寺跡―市道常磐17号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（２）―』水戸市教育委員

写　真　図　版

図版１

１区調査区完掘　北より

２区調査区完掘　南より

第１号住居跡完掘　南東より

第１号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　東より

第１号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　北東より

第１号住居跡カマド完掘　南より

第１号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　東より

第１号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南より

第２号住居跡完掘および土層断面Ｂ～Ｂ´　北より

第２号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　西より

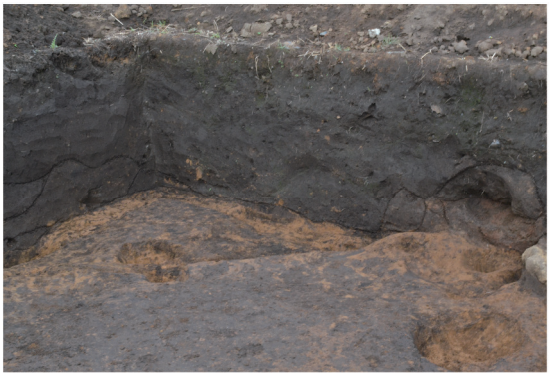
図版３

第２号住居跡カマド完掘　南より

第２号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　西より

第２号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南より

第３号住居跡完掘　東より



第３号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　東より

第３号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　北東より

第４号住居跡完掘　南東より

第４号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　西より

第４号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　南より

第４号住居跡カマド完掘　南より

第４号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　西より

第４号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南より

第５号住居跡完掘および土層断面Ａ～Ａ´　南西より

第５号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　南東より

第６号住居跡完掘及び土層断面　北東より

第７号住居跡完掘　南より

図版５

第３・７号住居跡遺物出土状況　南東より

第７号住居跡カマド完掘　南より

第７号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　南より

第７号住居跡カマド土断面層Ｄ～Ｄ´　東より

第７号住居跡カマド遺物出土状況　南より

第８号住居跡完掘　南東より

第８号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　南西より

第８号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　南東より

第９号住居跡完掘　南より

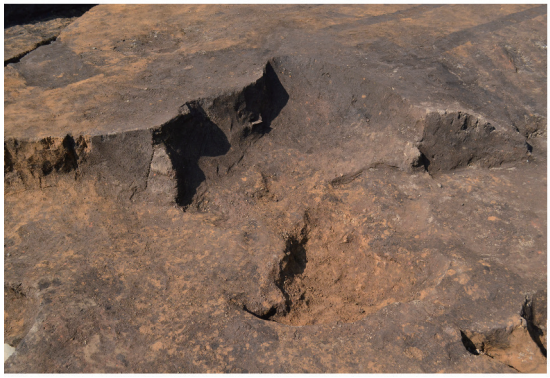
第９号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　東より

第９号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　南より

第９号住居跡南西側遺物出土状況　北より

第９号住居跡北東側遺物出土状況　南より

第９号住居跡長頸壺出土状況　北より



第９号住居跡カマド完掘　南より

第９号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　西より

図版７

第９号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南より

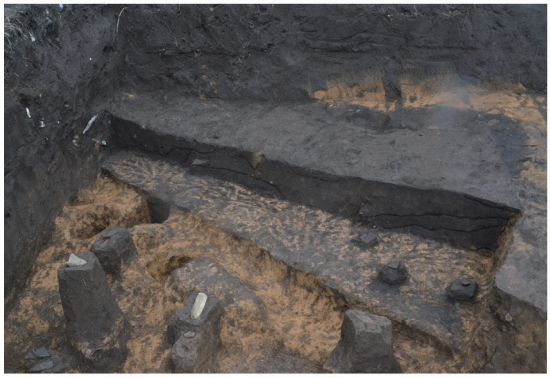
第９号住居跡カマド土層断面Ｅ～Ｅ´　南より

第９号住居跡１号土坑完掘　東より

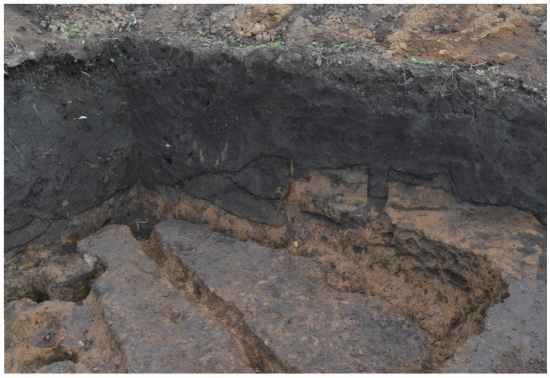
第10・11号住居跡完掘　南西より

第10号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　北東より

第10・11号住居跡土層断面B～B´　南より



第11号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　南西より



第11号住居跡土層断面B～B´　南西より

第12号住居跡完掘　北より

第12号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　西より

第12号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　北より

第12号住居跡遺物出土状況　北より

第12号住居跡カマド完掘　南より

第12号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　西より

第12号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南より

第12号住居跡カマド土層断面Ｅ～Ｅ´　南より

図版９

第13号住居跡完掘　南西より

第13号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　北西より

第13号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　南西より

第13号住居跡カマド完掘　南西より

第13号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　北西より

第13号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南西より

第14号住居跡完掘　南より

第14号住居跡土層断面Ａ～Ａ´　西より

第14号住居跡土層断面Ｂ～Ｂ´　南東より

第14号住居跡カマド完掘　南より

第14号住居跡カマド土層断面Ｃ～Ｃ´　東より

第14号住居跡カマド土層断面Ｄ～Ｄ´　南より

第14号住居跡カマド土層断面Ｅ～Ｅ´　南より

第１号掘立柱建物跡完掘　西より

第１号掘立柱建物跡５号ピット完掘　北より

第１号掘立柱建物跡５号ピット土層断面　北より

図版 11

第１号掘立柱建物跡６号ピット完掘　北より

第１号掘立柱建物跡７号ピット完掘　南西より

第１号掘立柱建物跡８号ピット完掘　南西より

第１号掘立柱建物跡８号ピット土層断面　南西より

第２号掘立柱建物跡完掘　南より

第２号掘立柱建物跡完掘　西より

第２号掘立柱建物跡１号ピット完掘　北西より

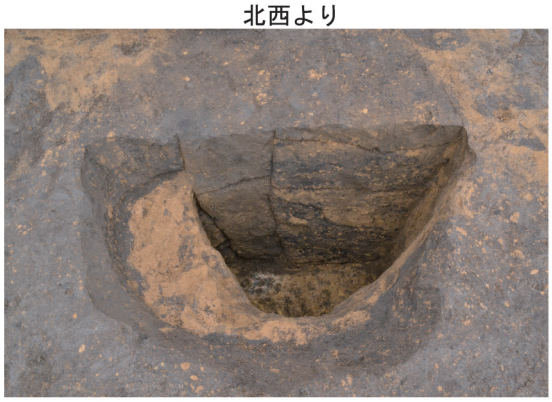
第２号掘立柱建物跡１号ピット土層断面　西より

第２号掘立柱建物跡２号ピット完掘　北西より

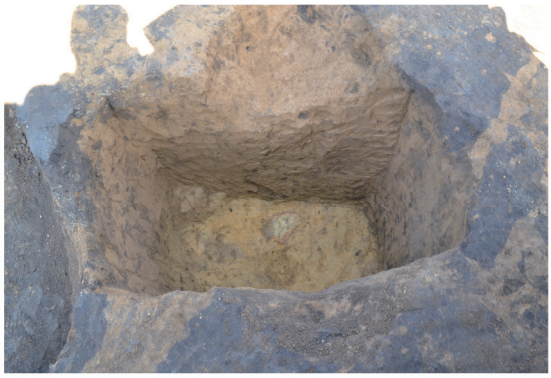
第２号掘立柱建物跡２号ピット土層断面　南より

第２号掘立柱建物跡３号ピット完掘及び土層断面
北西より

第２号掘立柱建物跡４号ピット完掘　南より



第２号掘立柱建物跡４号ピット土層断面　南より



第２号掘立柱建物跡５号ピット完掘　南より

第２号掘立柱建物跡５号ピット土層断面　東より

第２号掘立柱建物跡６号ピット完掘　南より

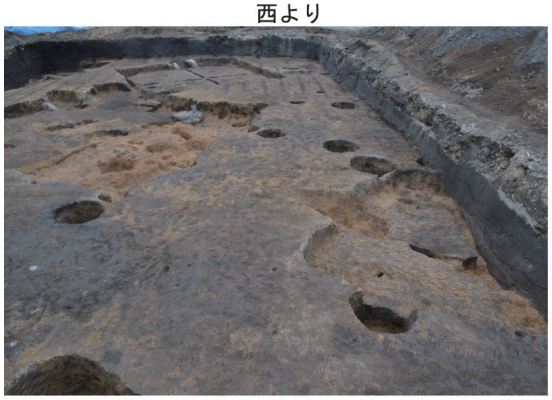
図版 13

第２号掘立柱建物跡７号ピット完掘　南より

第２号掘立柱建物跡７号ピット土層断面　南より

第２号掘立柱建物跡８号ピット・第13号ピット完掘
西より

第２号掘立柱建物跡８号ピット・第13号ピット土層
断面　南西より



第１号ピット列完掘　南西より

第１号ピット列１号ピット完掘　北西より

第１号ピット列３号ピット完掘　南より

第１号溝跡完掘　東より

第１号土坑完掘　北西より

第２号土坑・第３号ピット完掘　北より

第３号土坑完掘　北西より

第４号土坑完掘及び土層断面　南東より

第５号土坑完掘及び土層断面　北西より

第６号土坑完掘　南西より

第７号土坑・第10号ピット完掘　北より

第４号ピット完掘　北より

図版 15

第５号ピット完掘　南西より

第14号ピット完掘及び土層断面　南西より

第15号ピット完掘　南西より

第15号ピット土層断面　南西より

１区基本土層Ａ～Ａ´　東より

１区基本土層Ｂ～Ｂ´　南より

２区基本土層Ａ～Ａ´　西より

２区基本土層Ｂ～Ｂ´　北より

縄文時代遺構外出土遺物１～６

縄文時代遺構外出土遺物－７

縄文時代遺構外出土遺物－８

弥生時代出土遺物１～４

第１号住居跡出土遺物－１

第１号住居跡出土遺物－２

図版 17

第１号住居跡出土遺物－３

第１号住居跡出土遺物－４

第１号住居跡出土遺物－５

第２号住居跡出土遺物－１

第２号住居跡出土遺物－２Ａ

第２号住居跡出土遺物－２Ｂ

第２号住居跡出土遺物－3

第２号住居跡出土遺物－４

第２号住居跡出土遺物－５

第２号住居跡出土遺物－６

第４号住居跡出土遺物－２

第３号住居跡出土遺物－１

第３号住居跡出土遺物－２

第４号住居跡出土遺物－１

第４号住居跡出土遺物－３

図版 19

第４号住居跡出土遺物－４

第４号住居跡出土遺物－５

第４号住居跡出土遺物－６

第４号住居跡出土遺物－７

第４号住居跡出土遺物－８

第５号住居跡出土遺物－１

第４号住居跡出土遺物－９

第７号住居跡出土遺物－１

第７号住居跡出土遺物－２

第７号住居跡出土遺物－３

第７号住居跡出土遺物－４

第７号住居跡出土遺物－５

第７号住居跡出土遺物－７

第７号住居跡出土遺物－６

図版 21

第８号住居跡出土遺物－１

第８号住居跡出土遺物－３

第８号住居跡出土遺物－４

第９号住居跡出土遺物－１

第８号住居跡出土遺物－２

第８号住居跡出土遺物－５

第９号住居跡出土遺物－２

第９号住居跡出土遺物－３

第９号住居跡出土遺物－４

第９号住居跡出土遺物－５

第９号住居跡出土遺物－６

第９号住居跡出土遺物－７

第９号住居跡出土遺物－８

第９号住居跡出土遺物－９

第９号住居跡出土遺物－10

図版 23

第９号住居跡出土遺物－11

第９号住居跡出土遺物－12

第９号住居跡出土遺物－13

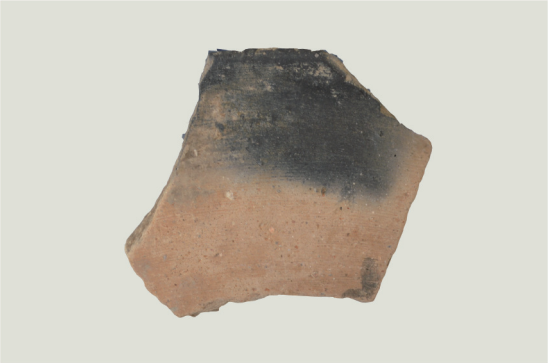
第９号住居跡出土遺物－15

第９号住居跡出土遺物－14

第９号住居跡出土遺物－16

第９号住居跡出土遺物－17

第９号住居跡出土遺物－18



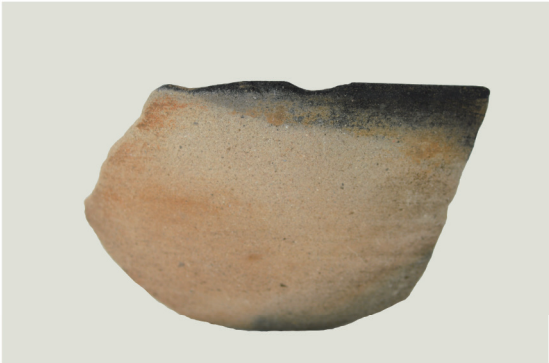
第９号住居跡出土遺物－19

第９号住居跡出土遺物－20

第９号住居跡出土遺物－21

第９号住居跡出土遺物－22

第９号住居跡出土遺物－23



第９号住居跡出土遺物－24

第９号住居跡出土遺物－25

図版 25

第９号住居跡出土遺物－26

第９号住居跡出土遺物－27

第９号住居跡出土遺物－28

第９号住居跡出土遺物－29

第９号住居跡出土遺物－30

第９号住居跡出土遺物－31

第９号住居跡出土遺物－32

第９号住居跡出土遺物－33

第９号住居跡出土遺物－34Ａ

第９号住居跡出土遺物－34Ｂ

第９号住居跡出土遺物－35

第９号住居跡出土遺物－36

第９号住居跡出土遺物－37

第10号住居跡出土遺物－１

第10号住居跡出土遺物－２

第10号住居跡出土遺物－３

図版 27

第10号住居跡出土遺物－４

第10号住居跡出土遺物－５

第10号住居跡出土遺物－６

第10号住居跡出土遺物－７

第10号住居跡出土遺物－８

第10号住居跡出土遺物－９

第10号住居跡出土遺物－10

第10号住居跡出土遺物－11

第10号住居跡出土遺物－12

第11号住居跡出土遺物－１

第11号住居跡出土遺物－２

第11号住居跡出土遺物－３

第11号住居跡出土遺物－４

第12号住居跡出土遺物－１

第12号住居跡出土遺物－２

図版 29

第12号住居跡出土遺物－３

第12号住居跡出土遺物－４

第12号住居跡出土遺物－５

第12号住居跡出土遺物－６

第12号住居跡出土遺物－７

第12号住居跡出土遺物－８

第13号住居跡出土遺物－１

第13号住居跡出土遺物－２

第13号住居跡出土遺物－３

第13号住居跡出土遺物－４

第13号住居跡出土遺物－５

第13号住居跡出土遺物－６

第14号住居跡出土遺物－１

第14号住居跡出土遺物－２

第14号住居跡出土遺物－３

第14号住居跡出土遺物－４

図版 31

第１号掘立柱建物跡出土遺物－１

第２号掘立柱建物跡出土遺物－１

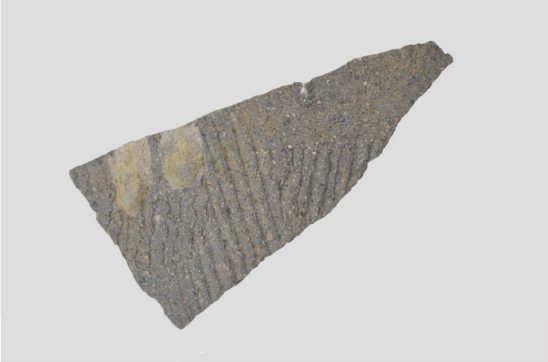
第２号掘立柱建物跡出土遺物－２Ａ

第２号掘立柱建物跡出土遺物－２Ｂ

第４号ピット出土遺物－１

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－１

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－２



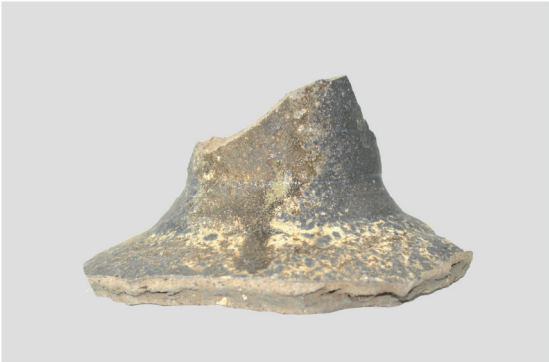
古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－３

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－４Ａ

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－４Ｂ

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－５

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－６



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－７

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－８

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－９

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－10

図版 33

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－11

古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－12

中世時代以降遺構外出土遺物－１

中世時代以降遺構外出土遺物－２

報　告　書　抄　録

ふりがな	わたりちょういせき（だいにじゅうにちてん）
書名	渡里町遺跡（第 22 地点）
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第 74 集
編集者名	米川暢敬・林　邦雄・山下瑛梨香・石松　直
著者名	米川暢敬・林　邦雄・山下瑛梨香・石松　直
編集機関	水戸市教育委員会
所在地	〒 310-8610　茨城県水戸市中央 1-4-1　☎ 029-224-1111
発行年月日	2016（平成 28）年 3 月 20 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
渡里町遺跡	水戸市渡里町 295-1・-5 から -7 の各一部地番地内	201	121	36° 26′ 19″	140° 26′ 19″	2015. 8. 25 ～ 2015. 9. 31	379. 693 ㎡	集合住宅建設に伴う工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
渡里町遺跡	集落跡	縄文時代	土坑１基，ピット３基	土器，石器	今回の調査では，縄文時代から近世以降の遺構や遺物が調査区の大きさに比して，多量に検出・出土した。特に古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡が 14 軒，掘立柱建物跡が２棟検出されている。住居跡は分布の状況などから，台渡里廃寺や那賀郡衙の周辺集落の一部と考えられる。また，９号住居跡などから刀子や円面硯，長頸壺などが出土していることから，他の住居跡とは様相が異なる住居跡も存在して，注意される。また，調査区の東側から約 1.5 × 1.0 m の掘り方をもつピットが８基検出され，大型の掘立柱建物跡を構成している。遺物などはごく少量の出土で，その性格ははっきりしないが，法量やピットの分布範囲などから，近隣で検出されている那賀郡衙正倉院とは異なる性格と考えられる。その他，縄文時代早期から中期の土坑やピット，弥生時代後期の土器，中世以降と考えられる円形の土坑やピット，近世以降と考えられる区画溝や根切り溝と考えられる溝跡が１条南北に走っている。今回の発掘調査により，大型の掘立柱建物跡の検出など，縄文時代から近世まで連綿と続く当該地域の土地利用をうかがい知ることのできる貴重な資料となった。
		古墳時代 ～ 平安時代	住居跡 14 軒，掘立柱建物跡２棟，ピット列１条，ピット４基	土師器，須恵器 灰釉陶器，石製品，鉄製品	
		中世以降	溝跡１条，土坑６基，ピット８基	陶器，磁器，瓦質土器，銭貨	

項目	遺物の取り扱い
水洗い	・すべて行った。
注記	・手書きによる。例）　201121-22　ＳＫ 01- Ｐ１のように注記した。
接合	・接合は必要に応じて最小限行った。
実測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	・遺物台帳，図面台帳，写真台帳があり，検索が可能なように作成している。合計１冊（綴り）
遺物保管方法	・出土遺物は，報告書使用と未使用に分け，収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお、未使用分については種別毎に分類、収納してある。

水戸市埋蔵文化財調査報告第 74 集

渡里町遺跡（第 22 地点）

－集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷　平成 28 年 3 月 31 日
発行　平成 28 年 3 月 31 日

編　集　　関東文化財振興会株式会社
発　行　　水戸市教育委員会
印　刷　　山三印刷株式会社
〒311-4153
茨城県水戸市河和田町 4433-33
TEL　029-252-8481